

柿の材は堅牢なるを以て種々の器具を作るべく、マメガキの如き材に烏黒或は黒斑あるものは黒柿と稱して貴重せらる。

甘柿の優良なるものは、美濃の富有柿、大和の御所柿、福井の四谷、久留米の正月柿、武藏の禪寺丸等にして、又乾柿、<sup>サシガキ</sup>酥柿として著名なるは、美濃の蜂屋柿、甲斐の百目柿、武藏の衣紋柿等なり。

コクタン。黒檀。烏木。(柿樹科) 高讀女四ノ九、

東印度及馬來半島に産する常緑樹にして、幹高二丈に達す。葉は長橢圓形或は披針形、平滑にして互生す。合瓣花冠は淡黄色を帯び、單性にして雌雄同株なり。果實は赤黄色の漿果にして球狀又は卵形をなし、通例一個づゝ生じ、直徑一二寸許、中に四個乃至八個の種子あり。材は堅牢美麗なるが故に器具の料として賞用せらる。又果實は食用に供し、其未熟のものよりは液汁を採り、漁具の塗料となす。

サクラサウ。(櫻草科) 高讀男女一ノ二、

高さ七八寸に達する宿根草にして、葉は卵狀橢圓形を呈す。四月頃葉間より花軸を抽き、其頂に繖形花を生ず。花冠は盆狀にして五裂、各裂片更に二裂し、花容頗る櫻

第二〇圖  
サクラサウ



に多し。(箱根植物三省堂發行價金四十錢參照。)

シヤクナゲ。(石南科) 尋理五ノ四、

シヤクナゲ類はツツジ類と同屬なれども、ツツジ類の葉よりは一般に大きく且硬厚し、其表面は深綠色、裏面は褐色の細毛を密布するを異れりとす。ツクシシヤクナゲ一名オホシヤクナゲは本邦シヤクナゲ類中花體の最大なる種にして、花色の鮮麗なる他の及ぶなし。九州、四國等に産し、花冠の七裂せるを特徴

花に似たるを以て櫻草の名あり。雄藥五個、花筒内に潜在す。花色は野生品にありては、紅紫色稀に白色を呈すれども、培養品にありては赤紫、黄等種々あり。花後、株を適宜に分ち栽すれば蕃殖せしむることを得。  
一種コイハザクラあり、相州箱根地方の特産にして殊に同地駒ヶ岳

第二圖  
シヤクナゲ



となす。

シヤクナゲは普通シヤクナゲと稱する種にして、前者の一變種なり。本邦の中部より北部に産す、伊豆の天城山下野の日光山に多し。

ホソバシヤクナゲは花形花色共にシヤクナゲに似たるも、其葉の狭長なるを區別の要點となすべし。三河遠江と信濃との國境に産すると聞く。

ハクサンシヤクナゲ一名シロバナシヤクナゲと稱する種は、東北地方の山中に多く、花は白又は淡紅なり、葉は薄く、裏面は淡綠色褐色ならずを呈せり。キバナシヤクナゲは本邦中部以北の高山に産す。枝は殆ど地に伏す。花色の黄色

なるを以て直に他と區別し得べし。

ドウダツツジ(石南科) 尋理五ノ三三、

觀賞用植物として夙に世に知られたり。久しく其自生地を知るに苦しみしに、大正二年八月牧野富太郎先生土佐に歸省中、同地に於て初めて發見せられたり。

莖の高さ一丈に達する灌木にして、多く枝梗を分岐す。葉は互生なれども、殆ど輪生的に簇生す。葉片は披針形にして細鋸齒を有す。五月、新葉と共に數個の花梗を抽出し、灰白色壺状の花を下垂す。秋の紅葉亦愛すべし。落葉後に於ける冬芽は、恰筆の穂に似たるを以てフデノキと稱する地方あり。其他サラサドウダン、ベニドウダン等の種類あり。

ツツジ(石南科) 高嶺新下ノ一三、尋理五ノ四、

山地に自生する小灌木なれども、園藝的品種少からず。葉は淡綠色、長楕圓形或は長卵形にして、四葉梢頭に集り略輪生狀に排列し、枝と共に毛茸を有す。花期五月、花色赤花冠は漏斗形にして、縁邊深く五裂す。五雄藥、一雌藥を有し、雌藥は雄藥よりも長し。

モチツツジ。(石南科) 尋理五ノ四、

關西地方の山地に自生する小灌木、小枝には黒色の毛茸を密布す。葉は倒披針形又は長橢圓形にして、葉面の脈理は著しく凹入せり。花期五月、新葉に先たちて開く。花冠は盃狀淡紅色にして深く五裂す。花徑一寸七八分、萼片の長さ一寸に達す。新葉、芽鱗、花梗及萼の外面は甚しく粘着するを以てモチツツジの稱あり。十雄藥、一雌藥を具ふ。

リウキウツツジ。(石南科) 尋理五ノ四、

庭園に栽培せらるゝ常綠喬木、小枝に黒褐色の毛茸を密布す。葉は披針形にして細毛あり。花形頗るモチツツジに似たれども、萼片小さく長さ約三分、萼片は粘液を出す。花は通常白色なれども、稀に紫色のものあり。紫琉球と云ふ。花冠は直徑一寸七八分、盃狀にして五裂す。内に十雄藥、一雌藥を具ふ。

サツキ。サツキツツジ。(石南科) 尋理五ノ四、

ヤマツツジの變種にして普通庭園に栽培せられ、花葉共にキリシマツツジに似たり。葉は深綠色にして褐色の毛茸を密布せり。葉に長橢圓形のものと同倒卵形のもの

のとあり。前者は單にサツキと呼ばれ、其自生地は大和の南部紀伊大隅の屋久島等なり。後者はマルバサツキと呼ばれ、其自生地は肥前の福江島にあり。花は赤色を常とすれども、紅紫色又は白色のものあり。ツツジ類中最後れて六月の候開花するを以て、サツキツツジと云ふ。五雄藥、一雌藥あり。雌藥は雄藥よりも長し。

キリシマツツジ。(石南科) 尋理五ノ四、

ヤマツツジの變種にして、花色の赤きを普通とすれど、白紫等園藝品種多し。葉は長橢圓形或は長倒卵形にして互生、多く枝頭に集合し、其中より一二個の小梗を出し花を生ず。花徑一寸内外。花期五月。五雄藥、一雌藥。雌藥は雄藥と殆ど同長或は稍長し。

キリシマツツジの原産地は未だ明ならず。日向の霧島山は其原産地なるが如く思ふものあるべけれども、同山及肥後の阿蘇山、肥前の温泉岳に産するものは皆同一種にして、細葉小花形のミヤマキリシマと稱する別種のツツジなり。

レンゲツツジ。ウマツツジ。(石南科) 尋理五ノ四、

山地に自生するも園養のもの多し。葉は長橢圓形或は長倒卵形にして、數葉殆ど

一所より生ず、葉質厚からず、且疎毛を有す。花期五月。枝頭より五六個乃至七八個の花梗を殆ど一所より繖形的に列生す。花冠は頗る大にして直徑一寸七八分許。其黄色なるをキレンゲツツジ(培養種)と云ひ、樺色なるをカウレンゲツツジ(野生種)と云ふ。共に五雄藥、一雌藥ありて、雌藥は雄藥よりも長し。

イハツ、ジ。高讀男女四ノ二四、

固有名詞にあらず、ヤマツツジ又はモチツツジなど岩壁の間より生ずるツツジを云ふ。

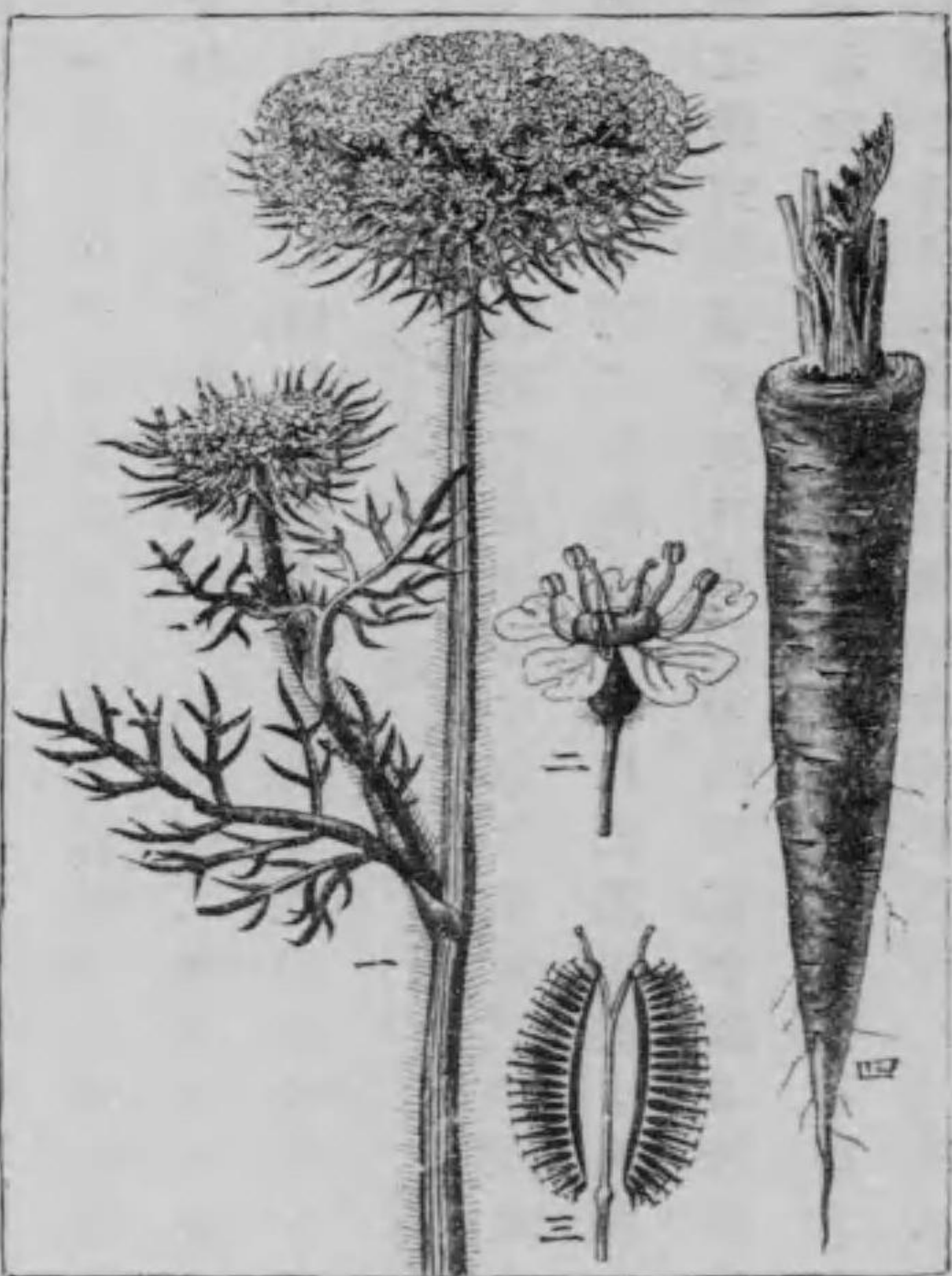
### 第二區 離瓣花類

花冠は分離す、左の諸種あり。

ニンジン(繖形科) 尋讀九ノ三、

二年生草本。根出葉は叢生し、羽狀複葉をなす。六七月の交、葉間より花軸を伸ばすこと四五尺、複繖形花を綴る。花は白色にして小形、子房二室、花柱二個、花後小閉果を結ぶ。

第二三圖  
ニンジン  
一、花を有する莖  
二、花  
三、果實  
四、根



繖形花とは花軸の頂端より數多の花梗を繖狀に出せる花穂を云ふ。

ニンジンの花は繖形の再び繖形を成せるものなるを以て複繖形花序と稱す。

繖形花必ずしも繖形科植物にのみ限るにあらず。五加科に屬するウコギ・キヅタの如きも繖形花序を成せり。

ニンジンの際に開花せんとする時、其花軸は夜間の寒さに感應して下垂すれども、翌朝、日出づるに及べば再び直立して元の狀態に復す、これ寒さの爲に花の害はれんとするを防ぐためならんと云ふ。

根は煮て食する外、肉汁を製するに用ひられ、又嫩葉をも食ふべし。

ヤブジラミ。繖形科（尋理五ノ二八）

山野に自生する草本にして、羽状複葉の裂片は繊細なり。七月頃、小白花を繖形に綴り、長さ一分許の閉果を結ぶ。果實は長卵状橢圓形にして、緑色を呈し、果面に密布せる數多の毛刺は熟するに従ひて剛く、且其先端曲れるを以て、よく動物の體に附着して散布す。

一種ヲヤブジラミあり。全形前者に似たるも、果實大きく長さ二分許にして、紫彩を呈す。花期五月。又ナガシラミ（一名ヤブニンジン）あり。果實の長さ五分以上、僅少の毛を粗布し、別に柱頭より變成せる二鉤に依りて、能く人衣に着く。中夏既に果あり。

ニンジン（五加科）（尋地二ノ一〇、一、高地三ノ二）

多年生草本。朝鮮、滿洲等に自生す。地下の直根は五六寸より一尺許、太さ直徑六七分より一寸二三分許、高さ二尺に達す。葉は五個の小葉より成る掌状複葉にして、縁邊に鋸齒を有す。秋日、小形の繖形花を綴る。性稍寒地を好むが如く、又日光を忌が故に北向の傾斜地を選びて栽培すべし。播種後六年を経て採掘するを常とす。本邦にては鳥根、福島、長野の諸縣に栽す。徳川三代將軍の頃、朝鮮より人參の種子を輸入し、

爾後各地に弘りしと云ふ。根は藥用に供す、特に支那にて貴重す。藥用人參是なり。

フサモ。蟻塔科（尋理五ノ一八）

池溝に多き水草にして、莖は細長。根は泥中にあり。葉は輪生、羽状に深裂し、裂片絲狀を成し、上部の葉は水面上に出づ。花は腋生、淡黄色の四瓣花なり。

別にホザキノフサモあり。花は穗狀。葉は總て水面下にあり。

ヒシ。芰科（尋理五ノ一八）

古き池沼等に生ず。莖は水中にありて細長、水の深淺に依りて長短を異にす。莖の各節より鬚狀根を泥中に下す。葉は莖頂に集りて開出し、以て水面に浮ぶ。葉片は横徑約二寸、縁邊に尖齒あり。葉柄の一部膨起し、内に空氣を有し、浮游を助く。八月の候、白色小形の四瓣花を開く。果實は菱形にして、二稜刺を有す。

別にヒメビシあり。葉片の横徑約六七分。果實は小さく、四稜刺を有す。

ミツキンバイ。柳葉菜科（高理一ノ二）

池沼等の淺所に自生する多年生草本。水中莖は水中を横走し、水上莖は水面に直立す。葉は互生にして、長橢圓形なり。通常の根は絲狀を呈し、下向地性するも、別に

上向して水面に露出する呼吸根あり以て呼吸作用を助く、此根は常に濁水中にあ  
りて充分に酸素を吸収し難きに依りかゝる呼吸根の必要ある故ならむ。此呼吸根  
は白色柔軟にして恰綿の如く、中に多く空氣を含有せり。

八月頃葉腋より一寸許の花梗を出し、黄色なる五瓣花を着く。

ツキミグサ。(柳葉菜科) 尋常八ノ一、

舶來の多年生草本。時に庭園に栽  
培せらるゝも、其蕃殖力強きを以て  
野生のもの多し。莖高二三尺、葉は互  
生、線狀にして縁邊深波狀を呈す。花  
期七八月、腋生、(二花づゝ) 日没後白花  
を開き、日出後凋萎して淡紅色に變  
ず。萼片及花瓣各四、雄蕊八、子房下位、  
柱頭は四裂、花粉に絲あり、蛾に依て  
授粉作用を遂ぐ。果實に四翼を有す。

第二三圖  
マツヨヒグ  
サ



ツキミグサに似て非なるものにマツヨヒグサあり、莖稍高く、枝は莖の下部より  
分れ、線狀の葉を着く。花は黄色にして果實に翼なし。

マツヨヒグサに似たるものにオホマツヨヒグサあり、莖高三四尺許、葉は披針形  
或は長橢圓形、上部に花梗を分ち、花の數は前者より多し。

ユーカリ。(桃金娘科) 高地一ノ二、

濠洲東南部原産の常綠樹にして、幹高四百尺に及ぶものあり。葉は卵形又は披針  
形にして全縁、葉面に小點を有す。花は一個づゝ上部の葉腋に生じ、多數の雄蕊を具  
ふ。此植物は多數の種類あれども、何れも生長迅速にして巨大なる高さに達し、然も  
材質堅硬にして水及蟲類の浸蝕を蒙ることなし。故に船艦材、防波堤材、鐵路の枕木  
等に賞用せらる。又該樹は濕地を好み能く水分を吸収するが故に、惡水の滯留を防  
ぎ不健康地を乾かして健康地となし、且葉莖に含めるエーテル油は揮發して空氣  
を清潔ならしむるが故に、病院學校等の周圍に植ふれば疫病を豫防するの効あり  
と云ふ。又其葉及樹皮より揮發油を取りて、諸種の香水及殺菌劑の原料となす。此樹  
は冬季落葉せざれども樹皮の剝落するは著し。又その嫩葉は幅廣さも老ゆれば細

小となる。即二形葉を有するなり。

マンダロウ。ヒルギ。(紅樹科)高地二ノ六、

東印度其他熱帯地方に自生する常緑樹にして、地上の幹部より常に多數の氣根を四方に出し支柱狀をなす。葉は橢圓形或は卵形にして、其質厚く光澤あり。花は葉腋に單生するか、又は聚繖花序をなす。種子は常に果實の母體より脱落せざる先に發芽す所謂胎生なり。此植物は海岸の満干する所に生じ森林をなすを以て満潮の時には海中の森林の如き觀あるが故に世界に著名なり。其生育地の特殊なるが故に其構造にも亦特殊なるところあり。即地下に挿入せる根の皮質部には大なる氣道あり、此氣道は漸次上方に至るに従ひ狹細となり、而して瓦斯の交換は多く大なる皮目によりて行はる。

ザクロ。(安石榴科)等理五ノ二八、

庭園に栽培する落葉灌木にして莖高丈餘。枝條の末端は概ね尖銳にして刺狀を呈す。葉は對生、長橢圓形、全縁。花期六七月。萼は筒狀先端五裂、肉質。花瓣は通常五箇深紅色、多雄藥、一雌藥を具ふ。果實は球狀熟すれば赤黄色と成り、裂けて紅肉を有する

種子を露出す。吾人の食する所は即外種皮なり。

觀賞用のものに數品あり。花石榴の果實は小にして佳ならざれども花の艶麗なるは他に其比を見ず。又味に甘酸の別あり、子粒の白色にして微紅を帶べるものは水晶石榴と稱し味特に甘美なり。果實は食用に供し、又漿液を搾りて藥用となし、又果皮

第二四圖

一、花を有する枝  
二、果實



は染料に、根皮は驅蟲劑に用ひらる。

サルスベリ。百日紅。(千屈菜科)高讀女四ノ九、

東印度原産の落葉喬木にして高さ一丈餘。樹皮は淡赤色且平滑なり、サルスベリ

藥舞花類

の名は樹皮の滑なるより来りしならむ。葉は互生又は對生、卵形又は橢圓形にして全縁なり。花期八月。花は紅色を普通とすれども時に白色のものあり。多く庭樹として栽培す。材は床柱として雅致あり。

スミレ (堇菜科) 尋讀三ノ三、

原野に自生する宿根草。葉は地上に叢生し、長卵形の葉片と、翼ある葉柄とを有し、葉柄の基部には二枚の托葉を具ふ。葉叢間より出づる數多の花莖に各一個の花を生ず。花は萼片五枚、花瓣五枚、花瓣は所謂スミレ色を呈し、其内の一枚は他の四枚より稍大きくして花の後方に囊状の距を成せり。この距は雄蕊の基にある蜜腺より出づる花蜜を貯ふる所にして蜜槽と稱するものなり。



本邦産スミレ屬は五十餘種を算す、又此屬には自花授粉にて實を結ぶもの多し、所謂閉鎖花と稱するものこれなり。

サンシキスミレ。(遊蝶花)即バンジイ (Pandy) は其花の奇態なるを以て、又ニホヒスミレは芳香あるを以て愛せらる、共に歐洲より傳はりしものにして今は各地に栽培せらる。

タガヤサン。鐵刀木。

(金絲桃科) 尋讀十ノ四、高讀女四ノ九、

東印度原産の平滑なる喬木にして、直立せる幹を成す。葉は互生、偶數羽狀複葉の小葉は質厚く長橢圓形、帶白色を呈し、頗る光澤あり。花は繖房花序に排列し、白色の大花瓣を有し、多數の雄蕊を具ふ。蕾は強き香氣を發するが故に賞用せらる。果實は



扁平なる莢にして明瞭なる柄を有す。材は堅くして重く、黒褐色を呈し、有用木材中著名なる者の一なり。

ツバキ (山茶科) 尋讀十ノ二、尋理五ノ三三、

暖地に多き常綠喬木にして伊豆七島には到る所に産す。葉は互生、橢圓形にして

第二六圖  
サンシキスミレ

第二五圖  
スミレの花  
及種子  
イ、距  
ロ、雄蕊の突起  
ハ、蜜の食する部



質硬く表面滑澤なり。早春より花開く、花瓣六七枚、紅稀に白、單體雄藥、一雌藥を有す。蟲媒及鳥媒に依りて授粉せらる。果實は蒴果と稱し、三室を有し、中に種子を容る。種子は搾りて椿油を製す、此油は食物の調理用に又理髮用に供せられ、又刀劍の銹を防ぐに賞用せらる。

ヤエツバキと稱するは野生のツバキより人為的に淘汰したるものなり、故に雄藥は變化して花瓣となり所謂八重咲を成せり、かゝる花には實を結ぶこと稀なり。乙女椿は其一品種なり。

サバンクワ (山茶科) 尋讀八ノ二、高讀女二ノ一四、

暖地に自生する常綠喬木にして、九州、四國等にありては幹高三四丈、周圍三尺に達するものあり。ツバキに似たれども花葉共に稍小さく、幼莖に毛茸密布するを以て直に識別し得べし。花期十月。

園藝品には複瓣多く、又單瓣のもの少からず。花色に紅、白、淡紅等種々あり。果實はツバキに似たれども小なり。種子より油を搾るべく、カタシ油これなり。此油粕は螟蟲の驅除に使用せらる。

チヤ (山茶科) 尋讀五ノ一、尋讀十一ノ九、高讀男女二ノ九、高讀女一ノ二〇、高讀女三ノ八、尋地一ノ九、尋地二ノ五、六、ア四、一六、一七、高地一ノ一、高地二ノ六、高地三ノ三、九、

我九州南方の暖地には自生品ありと雖、往昔支那より傳はりしものにして、今は世界の各地に栽培せらる。葉は常綠、互生、銳頭橢圓形にして細鋸齒あり。十月頃、葉腋より短柄を抽き花を下垂す。花瓣は白色にして五六枚。果實は扁圓鈍三角形、翌秋、成熟して内より通常三個の種子を出す。種子より油を搾り採るべく、又嫩葉を摘みて綠茶及紅茶を製すべし。

我國にては主に綠茶を飲用すれども、外國にては多く紅茶を飲用す。綠茶を製するには、生葉を蒸し、筵の上にひろげて冷し、後適度の火にかけ、絶えず手にてかき交ぜ、むらなく熱を受けしめ、次第に燃り固めつゝ乾かすなり。

紅茶を製するには、生葉を日光に晒し、萎ぶるを待ちて揉み固め、之を布にて被ひ再度日に晒し、褐色になりたる後火にかけて乾すなり。

特種の綠茶を粉末にしたるものを抹茶、或はヒキ茶と云ひ茶の湯に用ふ。茶にはテイン (Thein) と稱する一種の興奮性の成分を含むを以て適度に用ふれば疲勞を恢復すと雖、若し過度に飲用すれば神經興奮して有害なり。其他滋味ある

鞣酸芳香性の揮發油及糖分等を含有せり。

烏龍茶高地三ノ二

臺灣烏龍茶は頗る米人の嗜好に適し、其浸出液は濃厚なるも苦澁ならず、又芳醇にして薄味ならず、而かも一掬言ふべからざる快味と馨香とを有するは、一度之を喫したるものの決して忘るべからざる處なり、多くは砂糖のみを和して用ひらるも時に砂糖に牛乳を調和して用ふることあり、又砂糖及レモンを和して用ふることあり、夏季にはレモン中に冷茶を投じて飲用することあり、其分量は各人の嗜好に依りて異なる。

サカキ(山茶科) 高嶺男女三ノ九

暖地に自生する常緑樹にして、莖の高さ一二丈に達す、葉は互生、長橢圓形にして全縁なり、五六月頃葉腋より二三梗を抽き淡黄色の小花を生じ、花後漿果を結ぶ。サカキに似たるものにヒサカキあり、花は三四月、緑白色の小花を葉腋に繖生す、葉は倒卵形にして全形前者より稍小さく縁邊に鋸齒を有するを以て直に區別し得べし、秋末紫黑色の果實を結ぶ。

アヲギリ(梧桐科) 高嶺男女二ノ六、尋理五ノ三四



庭園に栽培せらるゝ落葉喬木にして、幹高三四丈に達す、葉は掌狀にして長柄を有し、裏面葉脈の分岐點に蜜腺を具ふ、花期八月、雌雄同株、果實は莢突と稱せられ、全く熟せざる前に既に開裂して舟狀と成り、果皮の縁邊に二三の種子を附着す。

此樹は生長殊に速に、樹皮綠色にして美しく、葉片濶大なるを以て、往々道路樹として栽植せらるゝも、葉に蟲の付き易きを缺點となす。

カカヲ加加阿(梧桐科) 高地一ノ六

カカヲは學名(Theobroma cacao L.)と云ひ、熱帯アメリカの原産にして、エクアドル

第二七圖  
アヲギリ

第二六圖  
カカアの樹  
一、枝  
二、花の縦  
三、種子



子の皮を除去し仁のみを粉末にしたる者をカ、ヲと稱し、之に牛乳砂糖及少量のワニラを加へたるをチョコレートと稱し菓子に製し、又湯に溶かして飲料となす。其有効成分はコフェインと同様なる植物性鹽基にしてオプロミンと稱し、該種子中には約一、五%を含む。

ワタ。(錦葵科) 尋讀八ノ一八、高讀男女二ノ九、尋地一ノ九、一四、一六、一七、高地一ノ一、三、四、五、高地二ノ六、一二、高地三ノ二、九、

第二九圖  
ワタ  
イ、花  
ロ、果實  
ハ、種子



ワタは、キワタ・タウワタとも稱し、東印度及亞刺比亞原産の植物なり。莖は氣候の寒暖に依り草本又は灌木となり、或は一年草宿根草となる。葉は互生、掌狀に分裂す。花は黄色の五瓣を有す。果實は蒴果にして中に種子あり、綿絮を以て被はる。綿絮は種子の兩端に於て最長く、蒴果の成熟する時は開裂して綿絮を出す、綿は日光に觸るゝ時は乾燥して撚轉す。我國産の綿は純白鮮麗にして、弾力強けれども、纖維太くして細絲を紡ぐに適せず、之れ今日に於て其栽培の衰へたる一原因なり。種子よりは油を搾り燈用其他の用となす。

ブドウ。(葡萄科) 高讀男女二ノ三〇、高讀女四ノ三〇、尋理五ノ二七、高理二ノ五、六、高地一ノ三、

蔓性の落葉果樹にして莖は卷鬚、莖の變形に依りて他物に攀縁す。葉は互生、掌狀に分裂し、幼き時は綿様の毛を密布す。六月頃、圓錐花を綴る、花は小形にして黄綠色、萼は微小花瓣五、雄蕊五、雌蕊一より成る。但花は前年生の枝種蔓より其春發生する

新梢成蔓に着くを普通とす。

果實は多肉多汁の漿果にして、内に二個乃至四個の種子を藏す。甘酸宜しきに適し頗る清爽の香味あり。生食すべく、又葡萄酒を醸すべく、其他乾葡萄、葡萄醪等として珍重せらる。

品種極めて多く大別して二となす。一は歐洲種にして品質佳良なるも稍軟弱なるを以て栽培し易からず、一は米國種にして品質稍劣るも強健にして豊産なり。近年此兩種の雜交に依りて優良なる品種を作り出せり。

本邦にて有名なる甲州葡萄は、果粒大にして赤色を帯び甜味強く酸味少きを以て生食に適す。

蕃殖の方法は播種、挿木、接木、壓條等に依る。其内播種法は新種形成に大切なり。

仕立方には上向式、水平式、垂下式等あれども、本邦にては多く從來の棚作の式行はる。

ナツヅタ (葡萄科) 高讀男女四ノ二四、高讀新上ノ一七、高讀新下ノ二七、

山地に自生する多年生の蔓性植物にして、莖は吸盤を有する卷鬚に依て樹上墻

壁に攀緣す。葉は互生、卵狀圓形或は掌狀に分裂す。初夏、黄綠色の小花を總狀に綴り、花後球狀の漿果を結び、熟すれば黒色となる。秋季の紅葉殊に佳なるを以てニシキヅタの稱あり、往々盆玩となす。

ナツメ。棗。(鼠李科) 尋讀十ノ一二、



第三〇圖  
ナツメ

庭園に栽培する落葉喬木にして高さ三四丈に達し、莖に棘を有す。葉は互生、卵形にして葉脚少しく歪み、且三條の肋を有す。葉面無毛、鈍鋸齒あり。夏月、數個の小花を葉腋に叢生す。果實は通常橢圓形、肉質にして初めは黄綠色なれども、秋末に至り熟すれば赤褐色となる。

果實は粗鬆にして味淡泊なるを以て生食すべく、又糖藏して食ふべく、又乾晒して薬用となすべし。

雌雄花類

ホウセンクワ。(鳳仙花科) 尋理五ノ二八、

一年生草本。莖は多肉質にして稍透明。葉は互生。披針形を成し、七月頃、葉腋より小梗を出し、單花を着く。花は不整齊にして距を有す。花に單瓣、複瓣及種々の色あり。果實熟すれば果皮の捲曲に依りて種子を散布す。故に (Touch me not) (不可觸手) の名あり。

葉の着きたるまゝの莖を赤インキの中に浸し置けば、數時間にして導管に赤インキの上昇するを見るべし。

リウガン。龍眼。(無患子科) 高讀男女一ノ二〇、高地三ノ二、

支那原産の常綠樹にして、高さ二十尺を普通とし、三十尺以上に達するもの少し。樹皮は稍灰褐色にして、長さ二三寸に達する縦裂あり。葉は偶數羽狀複葉、十乃至八の小葉より成り、嫩葉は垂下することなく必ず傾斜せり。花は白色小形にして五花瓣を有し、四月下旬より五月上旬に亘りて開花す。果實は圓形にして疣狀の隆起物なし。種子は肉質にして甘さ假種皮を有す。龍眼肉是なり、此假種皮を食用又藥用に供す。

レイシ。荔枝。(無患子科) 高讀男女一ノ二〇、

支那原産の常綠樹にして形態極めて龍眼に近似す。幹高は三十尺を普通とし、三十五尺乃至四十尺に達するもの少なからず。樹皮は黒色にして皮部の隆起に因れる輪狀の波紋を有す。葉は偶數羽狀複葉にして六乃至八の小葉より成り、嫩葉は必ず垂下す。花は花瓣を有せず。果實は先端尖り下部圓形にして全面疣狀の隆起物あり。種子は肉質の甘さ假種皮を有す。生食し又乾製品とす。味佳良にして龍眼に優る。

マンゴ。檬果。(無患子科) 高讀男女一ノ二〇、

印度地方の原産にして高さ五十餘尺に達する喬木なり。葉は廣披針形にして互生、其質厚し。花は小形、黄色の花弁を有し圓錐花序に排列す。果實は核果、概ね橢圓形にして其一部凹入し稍腎臟形をなせり。長さ約四寸餘、周圍七寸餘、多く樹枝に懸り、初め淡綠色なれど黄赤色となる。果肉は特異なる甘味と酸味とを有し、且液汁多く頗る美味なれども、稍松根油に類する風味を帶ぶるが故に初めて之を食する時は厭嫌する者少なからず。

トチノキ。(七葉樹科) 尋理五ノ三三、三四、尋理六ノ一、

山地に自生する喬木葉は對生、掌狀複葉は普通七片の小葉より成る、其落葉は先づ各小葉落ち、次に葉柄枝より分離し、明瞭なる葉痕を残す。此葉痕には顯著なる皮目を存し、冬季微弱なる呼吸作用をなす。

果實は堅果と稱せられ、秋日成熟す。之を食せんには先づ厚き果皮を剥ぎ、次に晒して苦味を去り、之に蕎麥粉若しくは糯米等を和して、蒸し或は焼きて食ふ、トチ餅と稱するもの則之なり。平素山民の常食となす所あり、故に或る山村の如きは此樹を炭に焼くことを禁ぜり、以て此果實が補食の用あるを知るに足るべし、材は種々の工藝用の原料に供せられ、樹皮は染料又は薬用に用ひらる。

カヘデ。モミヂ。(槭樹科) 尋讀二ノ八、尋讀十ノ二、高讀三ノ六、高讀女二ノ二、二、

山地に自生する落葉喬木。葉は對生、掌狀にして通常五裂乃至九裂し、縁邊に鋸齒を有す。五月頃、暗紅色の單性花を綴る。

雙翅果は小形にして平滑、翅は鈍角を成して相離開す。

葉内に紅色素の生ずるは、秋季、根の作用衰へ、枝葉に送るべき水分の不足を來たし、ために葉内の葉綠素に變化を起し、茲に紅色素を生ずるなり。葉は此紅色素に依

りて内部の乾燥を減し、水分の不足を補ひ、以て葉の餘命を長からしむるなり。藤井理學博士の説

芽は數多の鱗片に依て堅く疊まれ、以て寒氣と内部の乾燥とを防ぎ能く越冬するも、一旦春陽の來復して、其芽の將に開舒せんとするに至れば、此鱗片は忽ち脱落

し、葉脈間に多くの皺を有する。嫩葉初め紅色なるものは、次第に綠色を呈するに至るなり。

ニシキギ。衛矛科 尋讀二ノ六、

林地に自生する落葉灌木。高さ六七尺、多く細枝を分つ、枝に褐色硬皮質の翅狀突起を縱走す。六月頃、黄綠色の小花を開く。果實は蒴果、秋日成熟すれば開裂して内より種子を吐く、此種

第三圖

ニシキギ  
一、花を有する枝  
二、果實を有する枝



離瓣花類

子は黄赤色の假種皮を蒙れり。

秋の紅葉亦賞すべきを以て往々庭園に栽す。

ハゼノキ(漆樹科) 尋理五ノ三三、高地二ノ七、

暖地に自生する落葉喬木にして、高さ二三丈に達し、採蠟のために多く栽培せらる。葉は互生羽狀複葉、其小葉は三乃至七雙を有し殆ど無柄、長卵形、全縁にして、且無

毛なり。六月頃、淡綠色の小花を圓錐狀に綴る。果實は扁圓にして約三分、平滑無毛なり。

ヤマハゼ。全形よく前者に似たるも、總葉柄及小葉の中肋は有毛なり、又ハゼノキの芽の無毛なるに反して有毛なり。

果實は搾りて蠟を採るべく、又秋季の紅葉美なる以て庭園樹及道路樹となすべし。

スルデ。山野に自生する落葉喬木、葉は互生、奇數羽狀複葉、總葉柄に翼あり、其小葉は卵形にして鋸齒



第三圖  
ハゼノキ

を有す。七八月の候、綠白色の小花を複總狀に綴る。果實は扁圓にして直徑二分、淡紫色を呈す。

此木は一に勝の木と稱し、古來年始の祝木に用ひ、又材を焚けば爆聲を發するを以て寺院にて護摩木に用ふ。

夏秋の候、葉上に瘤狀の蟲癭を生ず。之を耳ブシと稱し、五倍子を作りて染料に供す。古來本邦婦人の涅齒に用ひしフシの粉は此耳ブシより製したるものなり。

此蟲癭は蚜蟲の或一種が葉に寄生せるに依り、刺戟せられ瘤狀となりしものにして、内に多量の單寧を含有す。

ウルシ(漆樹科) 尋理七ノ一〇、尋理五ノ三三、高地二ノ七、

落葉喬木にして多く山野に植う。葉は互生、羽狀複葉、其小葉は五七雙より成り、卵形又は橢圓形にして全縁なり。六七月の候、淡黄色の小花を複總狀に綴る、雌雄別株にして雌本にのみ果實を結ぶ、果實は扁圓形、平滑無毛なり。

ヤマウルシ。山地に自生す。形狀頗る前者に似たるも小葉の縁邊に鋸齒を有するものあると、果實に淡黄色の剛毛を有するとは直にウルシと區別し得べし。

樹皮を傷け漆汁を採るべし。又果實に蠟を含有するを以て採蠟の料に供せらる。其搾滓は馬の飼料に用ふることあり。

漆の主成分は漆酸にして有毒なり、これに觸るれば漆瘡を生ずる人あり、漆瘡を治するにはヒノキの匏屑を多量に煮出し、其浸出温液を以て瘡部を浸せば速に癒ゆると云ふ。

ユヅリハ。(大戟科) 尋理五ノ三三、

庭園に栽植する常緑喬木、高さ二丈許、葉は互生、長橢圓形、質厚く滑澤、裏面は淡白蠟質を帯ぶ、花は五月、雌雄別株なり、秋日、橢圓形黒色の果實を結ぶ。

此植物は落葉樹に近く、春日、新葉の開舒につれて落葉するを以てユヅリハの名あり、葉は歳首の裝飾に用ふ。

アブラギリ。(大戟科) 高理二ノ七、

暖地に自生する落葉喬木なれども往々栽植す、幹の高さ二丈餘、葉は互生、濶大にして三裂乃至七裂す、雌雄別株、花期五月、果實は略扁圓形にして秋日成熟すれば中より三四の種子を出す、有毒なるを以てドクエの稱あり、種子は搾りて油を採る、桐

第一三圖  
アブラギリ



油これなり、桐油紙傘合羽提燈障子等に塗りて乾燥速なるを以て賞せらる、又ワニスワニスの製造原料に、其他船體及金屬器具の塗料として有効なり、福井縣の産名高し。

護謨樹。(大戟科) 尋地一ノ四六、

弾性ゴムを採取する植物に數種あり。

バラゴム樹。(大戟科)

熱帶アメリカの原産にして、幹高五丈乃至十丈に達す、葉は平滑なる三出複葉なり、花は小なる單性花、數多簇生し、圓錐花序に排列す、果實は蒴果、三室にして内に三種子あり、こは現今ブラジル、國及馬來半島に於て栽培せらるゝものにして、これより護謨を採取す、護謨採取の

離瓣花類



第二四圖  
ゴムを採取する有様  
パラゴムノ  
キ



収益あるを以て、現今熱帯地方にては競ふて之を栽培するに至れり。世界中ゴム産額の最多きは南アメリカのブラジル國にして全産額の六三%を産し、次は熱帯アフリカにして三四%を産す。

セアラゴム樹(大戟科)

ブラジルの原産にして幹は稍低く肥大なり。葉は掌狀にして長柄あり。該樹はブラジルに於て最多く栽培せられ、馬來群島には未だ殆ど之を栽培せず。

サンセウ。山椒。(芸香科) 尋讀女三ノ二〇、二一、

山野に自生する落葉喬木にして高さ丈餘に達す。葉は互生、羽狀複葉にして小葉

は卵狀披針形鈍鋸齒を有し、凹頭。葉莖共に刺を有す。雌雄異株。五月頃、葉腋より綠黄色の小花を簇生し、秋日、熟すれば赤褐色の乾果と成り、内より黒色の種子を出す。葉及果實を香辛料に供す。丹波、但馬に良品を産す。世に淺倉山椒と稱するもの即これなり。

イヌザンセウは全形頗る前者に似たるも佳香なく、却て惡臭を有す。小葉は前者より稍細長く縁邊波狀的ならず。花期七月。

カラタチ。枳。(芸香科) 高讀男女一ノ二〇、

本邦各地に栽培せらるる、落葉喬木にして高さ丈餘に達し、枝極密に分岐し、且葉針多きを以て生籬に作らる。葉は三個の小葉より成れる複葉にして、葉柄に翼を有す。花は腋生、白色にして五瓣、果形圓く短毛を密生す。直徑一寸許、熟すれば黄色となるも食ふにたえず。嫩葉を採り熱湯にて苦味を去り、乾晒したる後蔬となし食ふべし。若木は多く柑橘類の砧木ゲイキに利用せらる。

ミカン。芸香科) 尋讀一、高讀女二ノ一四、高理二ノ六、高地一ノ九、

暖地に栽培せらるゝ常緑樹にして、葉は長卵形を呈し、葉柄に翼を有す。花期五月。萼片五、花瓣五、白色にして芳香あり、雄蕊十、雌蕊一、子房上位、果實は扁圓形にして熟すれば黄色乃至黄赤色となる。品種多し、温州蜜柑は外果皮薄くして種子を有せず、味頗る佳なり。外果皮は香辛料となる。陳皮これなり。

タチバナ。橘。

(芸香科) 尋讀七ノ三、高讀一ノ二〇、高讀女一ノ二〇、高讀一ノ二五、高讀女二ノ二二、高讀三下ノ二一、高

橘は本邦特産にして九州南部土佐に自生す。高さ二丈五尺餘に達し、棘ある常緑喬木なり。葉は卵狀橢圓形、全縁にして平滑、先端微凹頭に終り、長さ一寸乃至三寸許、約その半の幅を有す。葉柄三分許、翼なし。初夏の候、花を開き、主として單獨腋生し、短き花梗を具ふ。萼片五個、宿存す。花瓣五個、白色、筒狀、長橢圓形、約四分の長さあり。雄蕊は直立し、花冠より短く、花絲結合して數體をなす、其内方に花盤と稱する環ありて蜜を分泌す。雌蕊は雄蕊よりも短く、直立し、子房は扁球形、六乃至八室に分る。果實は扁球形、上面中央凹み、黄色にして直徑一寸許、皮緩く包み、表面平滑、芳香油腺散布して凹點を顯す、味酸く食用に供し難し。目下本邦栽培にかゝる蜜柑は本種より出でしもの少しとせず。

田道間守が常世の國より携へ來りしと傳へらるゝものは恐くは本種にして、常世とは九州地方を指せしならん。

ザボン。(芸香科) 高讀男女一ノ二〇、

高さ丈餘に達する常緑樹にして、暖地に栽培せらる。葉柄は翼狀を成す。果實は大にして橢圓形又圓形、外果皮は帶青黄色を呈し、頗る厚し、之を去れば内部青白色を帶ぶ。味甘酸にして美なるを以て生食すべし。又糖藏となさば香味更に佳なり。

ザボンに似たるも形稍扁圓に近く、其内部の淡紫色を呈するものをウチムラサキと云ふ。前者と共に同一種の變種なるべし。

レモン。(芸香科) 高讀男女一ノ二〇、

葉柄は殆ど翼狀を成さず。果實は橢圓形にして兩端尖り、熟すれば黄色を呈す。其外果皮は薄し。

果肉は酸味強きを以て生食に適せざるも、枸橼酸を製して飲料調味料、又は藥料となす。外果皮には芳香性のレモン油を含有するを以て取りて清涼劑となし、或は飲食物に芳香を附加するに用ひ、或は香水の原料となすべし。

ブツシユカン。佛手柑。(芸香科)高讀男女一ノ二〇、

高さ丈餘に達する常緑喬木にして、枝に長き棘を有す。幼き枝葉は紫色を帯ぶるを以て、他の柑橘類と區別すべし。果實は長大にして其末端十餘個に分裂し、恰指を束ねたるが如し、これ佛手柑の名ある所以なり。

果肉は其發達不良なるもの多く、味酸けれども稍甘く、且芳香を有す。其稚果は糖藏して食することあり。觀賞用植物として栽培す。

ユズ。柚。(芸香科)高讀二ノ六、

高さ丈餘に達する常緑喬木にして、枝に棘あり。葉柄は著しき翼狀を呈す。初夏、白花を開き、初冬に至り果熟す。果は略圓形にして黄色、其面粗糲なり。

果實は酸味強きを以て生食に適せざるも、香氣佳なるを以て果汁を搾りて香味料に供し、又砂糖漬となして食ふことあり。蕾も亦香味料に使用せらる。

ダイダイ。(芸香科)高讀十ノ九、

高さ丈餘に達する常緑喬木にして、小枝に棘を有す。葉は互生、卵形にして葉柄は翼狀を成し、其上端に關節を有すること他の柑橘類の葉に同じ。果實は大にして球

第一五圖  
ダイダイ



狀、冬季に至り熟すれば黄赤色を呈す。若し此果を枝上に越冬せしむれば翌夏再び綠色を呈し、更に冬季に入りて再び紅黄色と成る、之れ回青橙の名ある所以なり。

果肉は苦味に富み且酸味強ければ生にて食ふに勝えず。故に半熟の際果を搾り搾りて以て醋の代用に供す。但全熟のものには稍甘味を帯ぶ。外果皮は乾かして藥料となし、又蒸餾して橙皮油と稱する芳香性の油を得。藥劑に供し、或は糖水中に滴じて香味を添加す。尚花よりは橙花油を搾り取るべし。

オレンヂ。(Washington navel orange) (芸香科)高讀男女一ノ二〇、

葉柄は翼状を成す。果實は通常圓形なれども、又橢圓形のものあり、熟すれば黄赤色となる。果頂に臍状の突起あるを以て臍蜜柑とも云ふ。風味佳なるを以て生食すべし。

アマ。(亞麻科) 高讀男女二ノ二八、高理二ノ七、

一年生の栽培植物にして莖高二三尺。葉は互生、線状又は線状披針形。七八月頃、葉腋より細梗を抽き、紫碧色の小花を着く。

四五月の候、播種し、約九十日にして收む。種子の完熟期より少しく早く收穫する時は、纖維良好なるのみならず種子も亦後熟作用に依りて採油の料に供せらる。

纖維は柔軟純白にして光澤に富めるを以て、リッネル其他の織物を製する原料として有用なり。

種子は搾りて亞麻仁油を得べく、此油は印刷用の墨汁に和し、或はワニスを製するに、或は薬用に供せらる。又其搾り粕は亞麻仁粕と稱し、肥料及家畜の飼料に用ひらる。

カタバミ。(酢漿草科) 等理五ノ二八、

第三六圖  
ゲンノシヨ  
ウコ



路傍に普通なる草本。莖は五六寸、纖弱なるを以て往々地上に横臥す。複葉は三出、小葉は回頭。花瓣五、黄色。雄蕊十。萼は宿存す。

果實は稍角状にして五室、各室に一系列の種子を排置す。各種子は種柄より發達せる外皮(外種皮にあらず)に依りて被はる。果實熟するに及べば果皮先づ裂け、然る後各種子の外套を成せる外皮急に裂け裏反るを以て、其力に依りて種子を弾き出す。

莖葉共に酸味を有するを以て一名スヒモノグサと云ふ。カタバミの葉は晝間開けども夜間閉づる機能あり、これを葉の就眠運動と云ふ。

フウロサウ。ゲンノシヨウコ。(牝牛兒科) 尋理五ノ二七、



第二七圖  
フヂ  
左旋盤及總  
狀花

フヂ。(荳科) 尋讀六ノ一、尋讀七ノ六、一三、尋讀八ノ一、尋讀九ノ三、高讀男女四ノ二四、尋理五ノ九、

山野に自生する纏繞性木本にして、莖は數丈に達す。葉は羽狀複葉。四五月頃、總狀花を垂下し長さ一二尺に及ぶ。蛾形花は淡紫色にして、蕾の時は上向するも、次第に

柄、莖葉共に毛を生ず。夏日、葉腋より花梗を出し、二小梗に分れて花を着く。花徑約四五分、花瓣五、紅紫色或は白色にして條線を具ふ。雄藥十個、内五個は長く五個は短し。子房上位、果實は中央に直立せる長嘴狀の花托を有し、果皮は上方に向ひて五片に捲曲す。莖葉を蔭乾となし、煎じて下痢止に用ふ。

横向となり、開花の時に至れば下向す。

細き莖は漂白し、編みて器物を作るべく、樹皮の纖維は繩となし、又布を織るに用ふべし。

シラフヂは外形前者に似たるも、其花の白色なると其莖の左卷(普通のフヂは右卷)なるとを以て區別し得べし。尙總狀花序を成せる花軸も前者よりは短く従つて花の數も少し。



第二六圖  
レンゲサウ  
(ゲンゲ)

レンゲサウ。(荳科) 尋讀三ノ三、尋讀七ノ六、高讀男女二ノ六、高讀男女四ノ一〇、高讀新下ノ一六、尋理五ノ九、二〇、高理二ノ一二、

田野に生ずる越年草。莖は弱く地に臥して擴がる。葉は羽狀複葉。花軸長く其先端に數個の短花梗を出し花を着生す。其狀頗る蓮華に似たり。蛾形花は通常紫紅花な

れども稀に白色なるものあり。莢は黒色、先端細く、内に曲れる種子數多を藏す。根には無數の根粒を有す。

又スビトハギ。荳科。尋理五ノ二八、

林野に自生する多年生草本にして、莖の高さ二三尺。複葉は三個の小葉より成る。秋日、小形の蛾形花を總狀に綴る。花徑約一分、紅紫色。果實は節莢にして、全面に多くの小鈎を有し、熟すれば節々切れて動物の體に附着し以て果實を散布す。

一種ヤブハギと稱するあり。全體頗る前者に似たれども稍大きく、葉及花形も亦大きく、花色少しく淡きを異れりとす。

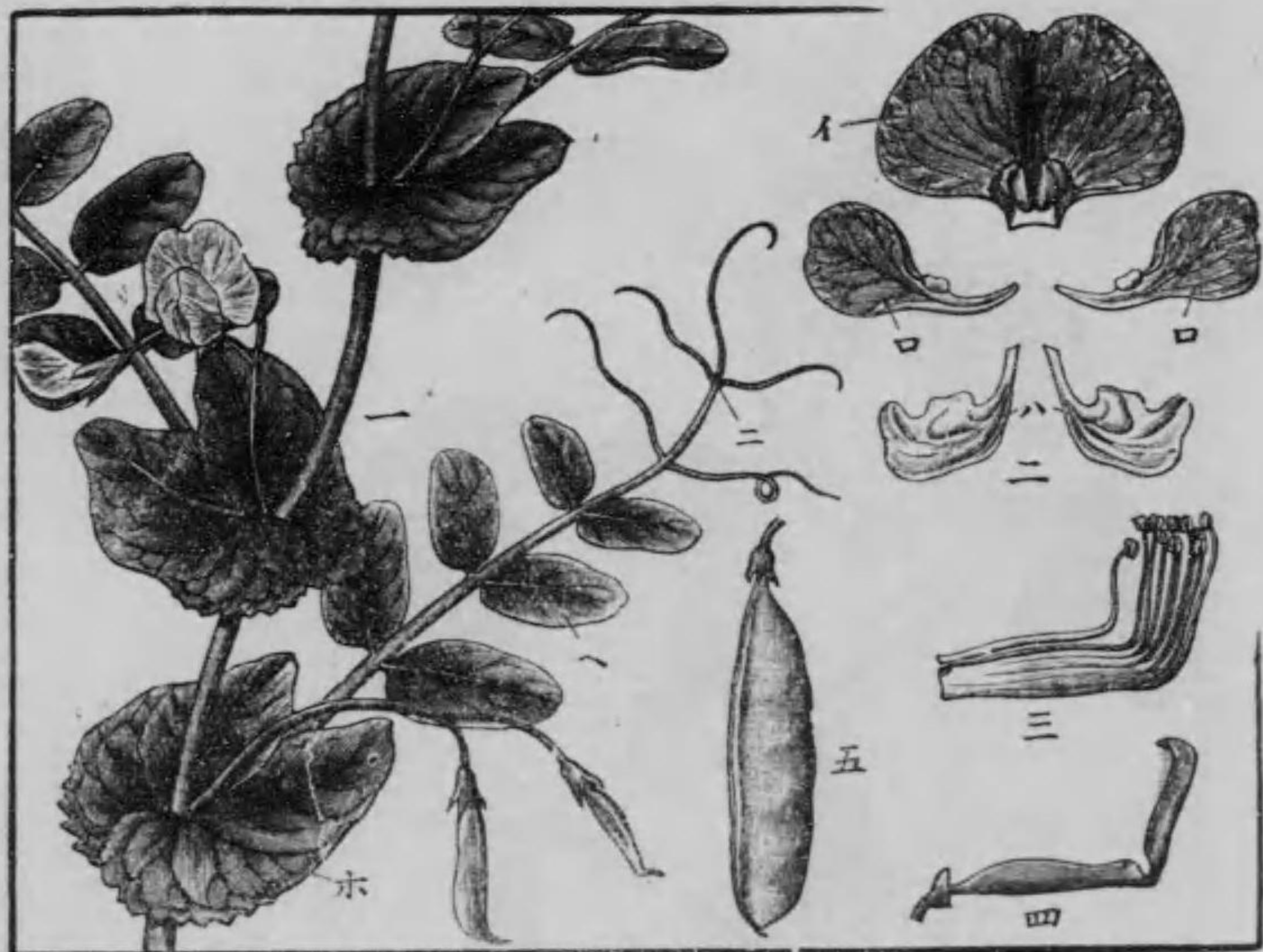
ハギ。荳科。尋理八ノ二一、高讀新上ノ二五、高讀新下ノ一三、

山野に自生せる多年生植物。木質莖にして高さ四五尺、叢生して多く枝極を分岐す。葉は三個の小葉より成り、小葉は橢圓形にして尖頭に刺毛を有す。秋日、紅紫色の蛾形花を總狀に綴る。其花穂は葉よりも長し。

一種マルバハギと稱するものあり。總狀花穂は前者より花少く、其花穂は葉よりも短し。

第三九圖

一、花及果  
二、雄蕊  
三、雌蕊  
四、果實  
五、旗瓣  
六、翼瓣  
七、龍骨  
八、卷鬚  
九、托葉  
十、小葉



離瓣花類

ソラマメ。荳科。尋理六ノ六、高讀女ノ二

畑に栽培する越年生草本にして十月頃播種し、高さ二三尺に達す。莖は方形。其羽狀複葉は四個乃至六個の長橢圓形の小葉より成り、且托葉に蜜腺を具ふ。蛾形花冠は紫白色にして總狀花序に排列す。六月頃莢を結ぶ。

其莢の天を仰ぎて直立するが故にソラマメと云ふ。

種子は煮又は熬りて食ふべく、其軟きものは飯米に交ぜ炊ぎて食ふべく、又味噌・餡などを製する原料となすべし。其葉の嫩き時、刈り取りて田圃の緑肥となさば極めて効驗あり。裏海沿岸

の原産なり。

エンドウ。(莢科) 尋讀七ノ六、尋讀十一ノ二四、高讀男女ノ二四、二八、尋理五ノ九、尋理六ノ二、高理一ノ一〇、一一、

蔓性の越年草にして十月頃播種し、六七月頃其種子を收む。葉は羽狀複葉にして

第三〇圖  
ダイズ



先端の小葉は卷鬚と成り、且基部に葉狀の托葉を具ふ。花軸は長く其先に通常二個許の蛾形花を着く。花冠は白色或は紫色にして、果實は莢なり。

種子は熬りて食ふべく、又各種の調理に用ふべし。莢の柔きものは煮て食ふべく、莢豌豆之なり。其莢は綠肥となし、又牛馬の飼料となすを得べし。

品種頗る多く花の色、種子の形状

蔓の有無、莢の曲直及硬軟、其他早中晩等に依りて數十種に區別す。地中海沿岸の原産なり。

ダイズ。(莢科)

尋讀四ノ一〇、尋讀七ノ六、高讀女一ノ二四、高讀女三ノ二二、高讀新下ノ一〇、尋理六ノ二、高理二ノ七、八、尋地二ノ一〇、一一、一四、一七、高地三ノ二、九、一〇、

莖葉に毛茸多し。複葉は三個の小葉より成る。五月播種し、六月黄白色の蛾形花を着く。九月莢を結び、莢中二三個の種子を容る。種子に黄・白・黒・青等種々あり。

種子は豆腐味、醬油等を造るに必要なる原料なり、又熬り或は煮て食菜となすべし。

莢中の種子充實するや、採りて其儘之を煮沸し、食膳に供す。枝豆と稱するものなり。

クヅ。(莖科) 高讀新上ノ一七、高理二ノ四、

山野に自生する多年生藤本。莖は長さ二三丈、葉は大なる三小葉より成り。莖葉共に褐色の毛茸を被る。秋月、葉腋より五六寸許の穂を抽き、蛾形花を着く。花は紫赤色、花後莢を結ぶ。秋の七草の一なり。

根を掘り之を搗き碎き、水に浸し晒して葛粉を作る。大和吉野の産名あり、餅に製

し、或は薬用となす。又蔓を編みて種々の器具を作るべく、其纖維は紡ぎて葛布を織るべし、遠州の産有名なり。嫩葉は、牧草と成し、又緑肥となして効あり。

ナタマメ。(荳科) 尋讀七ノ六、

種子の色に赤白二種あり。赤は花も亦赤く、白に比して種子稍小なれども、性頗る強健なり。白は花も白く、莢は赤に比して柔軟なり、故に緑莢を採りて米糟漬又は酒糟漬となさば味頗る佳なり。

花序は一たび上に向ひて開花結實し、更に下方に向ひて咲き返る。果實は甚大にして幅一寸、長さ一尺に達す、其形殆ど短刀の如し。種子大なれども、發芽生育極めて難きを以て播種の法に注意すべし。

アヅキ。(荳科) 尋讀四ノ一〇、尋讀七ノ六、高讀女一ノ二四、尋理六ノ二、

莖は直立するも末端は多少蔓状をなす。葉は三個の小葉より成れる複葉にして、小葉は浅く三裂するを常とす。蛾形花は黄色にして秋季細長なる莢を結び、六七粒の種子を生ず。種類に依りて種子の色及形状を異にす。種子は飯米に和炊して味最佳なり。餡となして用ひ、又菓子原料となすべし。

第三圖  
アヅキ



インゲンマメ。五月ササゲ。(荳科) 高讀一ノ二四、高讀女四ノ三

○尋理五ノ九、尋理六ノ二、  
纏繞性の一年生草本にして、廣く各地に栽培せらる。葉は三個の小葉より成り、小葉柄を有す。夏日、葉腋より花軸を出し、總狀花序を綴り、五六花を着く。蛾形花は白色

又は淡紅色にして、龍骨瓣は螺旋状を成し、内に二體雄藥及一雌藥を藏む。柱頭は螺旋狀に回旋するも、昆蟲の來りて龍骨瓣を壓す時は雌雄藥は直に突出して花粉を昆蟲の體に附け以て授粉作用を遂ぐ。

綠果及種子は煮て食ふべく、又各種の調理に又菓子原料に供せらる。

都市附近の菜園に栽培せられ、



其品種頗る多く矮性種あり、蔓性種あり、綠莢あり、黃莢あり。蔓性種は主に種子を採るを目的とすれども、莢の柔きものは煮て食ふべし。矮性種は主に莢を食用に供すれども、又種子を採るに用ふることあり。すべて莢用のものは莢柔に肉厚く筋なきものを良とす。

慶長年間(凡三百年前)宇治黄檗山の開祖隱元禪師の支那より持來りしに依り此名あり。最初は白色蔓性の一種のみなりしが、爾後其品種を増加せしものなりと云ふ。又デカンドル氏の説に依れば南米の原産にして千六百年代に歐洲に傳播したるものゝ如しと云ふ。

ツルナシインゲン。(荳科) 尋理五ノ九

莖は矮性にして直立し、蔓を生ぜず。綠莢と黃莢とあり。主として莢用となせども稀に種子を採る爲に栽培することあり。

ベニバナインゲン。(荳科) 尋理五ノ九

濃紅色の美花生ずる品種にして、花を賞する爲め栽培すること多し。莢は小形にして剛く且結實少し。種子は比較的大にして紫黒色と淡紫色との斑紋を有す。

第三圖  
ササゲ



ササゲ。(荳科) 尋理七ノ六、高讀女四ノ三〇、尋理六ノ二

の柔軟にして種子の稍瘠小なる種は煮て食ふべし。

莢用種類中にて十六大角豆不老は莢の長さ三尺に達す。

フヂマメ。(荳科) 尋理七ノ六、尋理五ノ九、尋理六ノ二

蔓性の一年生草本。葉は三個の小葉より成り、小葉柄を具ふ。小葉は廣卵圓形にして鋭頭、全縁、葉面無毛なり。夏日、總狀花序を綴り、蛾形花を着く。

莢は扁く短く、形鎌に似たるも其先端下方に曲りて鈎狀を成せり。莢の外面は粗糙なるを以て風味賞するに足らず。花に紫と白とあり、紫色種は種子紫にして莢剛く、白色種は種子灰白色にして莢軟く煮て食ふべし。いづれも本邦の原産にあらず。

ナンキンマメ落花生。(豇科) 高地三ノ二、

熱帯亞米利加原産の一年生草本にして地上に蔓延す。葉は偶數羽狀複葉にして、小葉は概ね四片より成る。

七八月の候、葉腋より花梗を出し黄色の蛾形花を生ず。授粉の後、花梗は向地性を現し恰根の如く伸長し、子房は地中に入ること一二寸、繭狀の莢を結び中に二三粒の種子を藏す。種子は多量の油を含有するを以て搾油の料となすべく、又食用となすに適す。千葉・静岡・神奈川の諸縣は其主産地にして近來盛に米國に向つて輸出せり、其用途は主として食料及製油用なり。

エンジユ。槐。(豇科) 高讀女四ノ九、

落葉喬木にして高さ二三丈に達す。葉は互生、羽狀複葉にして小葉は卵形又は橢圓形なり。七八月の候黄白色の蛾形花を着け、後莢を生ず。

一種イヌエンジユあり、全形前者に似たるも新葉に白毛を密生すると、樹皮の縦裂することなきは區別の要點となすべし。材は堅く紫黑色を呈するを以て一名黒槐と云ふ。種々の器具を作るに用ひらる、殊に手斧の柄に賞用せらる。

ネムノキ。合歡。(豇科) 高讀新下ノ六、

山林に自生する落葉喬木にして高さ二丈餘に達す。葉は偶數羽狀複葉にして多數の小葉より成り、其小葉は夜間閉合す、故にネムノキの稱あり。六七月頃花開く、雄葉は多數、細長にして帯紅色を呈す。果實は莢、砂地瘠地に植うるもよく生長す。材は種々の器具を作るに用ひらる。

シタン。紫檀。(豇科) 高讀女四ノ九、

東印度原産の常綠樹にして幹は直立し、高さ六丈に達す。葉は互生、革質にして奇數羽狀複葉なり。蛾形花は黄色稀に白色にして數多攢簇す。果實は莢にして圓形又卵形をなし、廣き翼あり、中に一個又は二個の種子を藏す。材は朱紅色又は紫色にして質甚堅く重し、之を器具として貴重し、又染料に供す。近時臺灣に産する茄苳<sup>カマシ</sup>及蓮葉桐<sup>カマシ</sup>等を此材に擬せるもの多く、又栗其他の材をも染めて之に模せるを見る。

ナシ。(薔薇科) 尋讀一、尋讀七ノ二〇、尋讀八ノ一、尋讀九ノ三、高讀男女二ノ二八、高讀男女二ノ三〇、高讀女四ノ三〇、高

落葉性の果樹にして高さ三四丈に達するも、多くは灌木狀に仕立つ。葉は卵形にして先端尖り、縁邊に細鋸齒を有す。花期四五月、葉と共に長梗を簇生して白花を着

く。果實は大形の漿果にして八月頃成熟す、其外皮には小斑點を有し、梅桃等に於ける如き縦線なく、且凹頭なり。内部に五室を有し、各室に黒褐色の二種子を具ふ。園藝的品種頗る多けれど略す。

整枝式には棚仕立、圓錐仕立、盃形仕立等種々あれども、古來本邦にて多く行はるゝは棚仕立なり。

果實は液汁多く甘味なるを以て、夏日、渴を慰するに適せり。材は木理緻密なるが故に、机案、籠篋、櫛等を作るに供せらる。

第三圖  
セイヤウリンゴ



セイヤウリンゴ。苹果。薔薇科。  
高讀男女一ノ二八、高讀男女二ノ三〇、高讀女四ノ三〇、尋地一ノ五、尋地二ノ七。

落葉性の果樹にして多く寒地に栽培せらる。葉は互生、橢圓形にして鋸齒を有す。四五月の交、三四の長梗

第三圖  
ビハ

を一所より繖出して花を着く。花瓣は五個、白色にして紅暈を帶ぶ。多雄蕊、五雌蕊を具ふ。果實は梨と同じく下位子房の發達したるものにして、梅桃の如く核を成さず、中に五室を劃し各室二個の種子を容る。



果實は色澤優美、香味亦佳良なるを以て生食に適し、又苹果酒を醸す原料に供せらる。本邦にては北海道、青森縣、岩手縣等に栽培せらる。

ビハ。薔薇科。  
尋地八ノ一、高讀女四ノ三〇、尋地五ノ二八、尋地一ノ五、尋地二ノ七。

暖地に適する常綠喬木にして高さ二丈に達す。葉は互生、長橢圓形にして鋸齒を有し、且裏面に茶褐色の毛茸を密生す。花期十二月、小形にして白色。從來本邦に栽培せられたる品種は果形殆ど正圓に近く、内に大

なる種子を藏め、果肉極めて少し、之に反し支那産に係はる唐枇杷は果形大にして肉厚く味美なるを以て、田中芳男氏は之が改良を謀り、唐枇杷の播種に依りて新に田中枇杷なる變成品を作り出せり。此種は唐枇杷よりも果形更に大きく果肉も厚く且美味にして果皮に毛茸を蒙ること少きを以て、現今各地に栽植せらるゝに至れり。

ヤマブキ。(薔薇科) 高讀男女一ノ一四、高讀男女四ノ二四、高讀新下ノ一三、

山地に自生する灌木にして高さ四五尺。葉は互生、縁邊に鋸齒を有す。五月頃、鮮黄色の五瓣花を着け、其外部に五個の萼片を具へ、内部に多雄蕊、一雌蕊を存す。果實は球形にして乾果と稱せらる。

庭園に栽培せらるゝものは右の如き單瓣花にあらずして、多くは重瓣を成せるものなり。かゝる花には實を結ぶこと頗る稀なり。すべて八重咲の花に實を結ばざるは獨り山吹のみならず、櫻桃などにも知るべし。

別に白山吹と稱するものあり、花は白く、葉は對生なるを以て直に識別し得べし。

イチゴ。(薔薇科) 尋讀九ノ三、

花は梅鉢形にして萼片と花瓣とは五枚、雄蕊と雌蕊とは其數多し。果實は幼時萼にて保護せらるゝも熟すれば花托膨大す。吾人の食用に供する所は花托及子房柄の部にして俗にタネと稱するは子房の硬化せるものなり。

原野に自生するものにクサイチゴ(ヤブイチゴ)、ナハシロイチゴなどあり。クサイチゴは草本にして四五月頃白花を開く。ナハシロイチゴは蔓性にして地に横たはり、五六月の交、淡紫色の小形花を着く。

キイチゴ(アハイチゴ)とバライチゴとは共に山地に自生する灌木にして、前者は四月、後者は七月に開花す。共に其花白く、果實は食ふべし。

舶來のオランダイチゴは畑に作りて實を收むべく、四五月頃白花を開く。此植物は莖の一部より長き枝を分ち、地上を匍匐し、節より根を出し、地中に穿入するを以て、若し原株を分離する時は容易に新株を作ることを得べし。

バラ。(薔薇科) 尋讀十ノ二、高讀新上ノ一、

種類多きも我國にて普通に栽培せらるゝはカウシンバラなり。カウシンバラは四季咲の落葉灌木にして、葉は互生、羽狀複葉、托葉は二片ありて總葉柄の基部に附

着す。莖葉共に刺あり。花は萼片五、花瓣五、雄蕊と雌蕊とは其數多し。

モモ。薔薇科 尋讀四ノ二三、尋讀六ノ一、尋讀七ノ二〇、尋讀八ノ一一、尋讀九ノ三、高讀男女二ノ三〇、高讀女一ノ二三、高讀女四ノ三〇、高讀新上ノ二九、高讀新下ノ一〇、一三、高理一ノ三、

落葉の果樹にして高さ二丈に達す。葉は互生、披針形を呈す。四月の交、葉に先ちて花を生ず。花は短梗を以て支えられ、五瓣を有す。雄蕊は多數にして少しく内曲せり、雌蕊一個、子房上位。花後、核果を結ぶ。

水蜜桃は支那の産にして二種あり、天津水蜜桃、上海水蜜桃これなり。天津水蜜桃は果形倒卵形にして先端尖り、果皮及果肉は深紅色を呈し味美なれども、酸苦を帯ぶるを缺點となす。七月下旬熟す。上海水蜜桃は果形殆ど正圓に近く、先端稍平に僅に縦線を有す。果皮は帯紅黄色、果肉は黄色を呈し柔軟多漿にして頗る美味なれども成熟後久しく貯ふること能はず、八月下旬に收穫す。

ウメ。薔薇科 尋讀二ノ一七、尋讀四ノ二〇、尋讀六ノ一、尋讀八ノ二、一一、尋讀九ノ三、二〇、二三、二讀女一ノ二三、二六、高讀女二ノ三〇、高讀女四ノ三〇、高讀新上ノ一、二九、高讀新下ノ一三、二七、高理一ノ三、一三、高理二ノ六、

廣く栽培せらるゝ落葉喬木にして高さ二三丈に達し、多く枝極を分岐す。葉は互生、卵形にして先端尖り、縁邊に細鋸齒を有す。花は早春葉に先ちて開く。通常萼片五、

第三五圖  
ウメ



花瓣五、雄蕊多數、雌蕊一個を具ふ。花に白、紅、淡紅等種々あり。

豊後梅と稱するは樹姿剛健にして栽培し易く、花は淡紅色を呈し頗る美麗なり、其萼片の外方に反轉するはアンズに近縁を示せる一標徴なり。

果實は鹽藏して梅干となすべく、又甘露梅(一種のジャム)熨斗梅(果肉を擦り潰し、布にて漚し、砂糖及葛粉を加はへて煮、後、箱に容れて乾燥したるもの等)を作るべく、又梅酒をも作るべし。

スモモ。薔薇科 尋讀八ノ一一、高讀女四ノ三〇、高讀新上ノ二九、

栽培の落葉果樹にして高さ二三丈に達す。葉は互生、長卵形或は廣披針形にして細鋸齒あり。花は五月頃葉と同時に簇生し、普通白色を呈す。果實は球形の核果にして熟すれば暗赤色となる。味甘酸なり。果實は生食すべく、又鹽藏すべし。

サクハラ。櫻。薔薇科 尋讀三ノ一、二、尋讀五ノ一二、尋讀六ノ一、尋讀七ノ一三、一六、尋讀八ノ二一、尋讀九ノ三、九、尋讀十ノ二、尋讀十一ノ一、尋讀十二ノ二八、高讀男女一ノ二六、高讀

櫻は我國の名花にして夙に世に知られ、歌聖宣長が

敷島の大和心を人間はば朝日に匂ふ山櫻花

と詠ぜられしは、我國民の理性を云ひ現したるものにして實に千古の絶誦と稱すべし。又八幡公の

吹く風を勿來の關と思へども途もせに散る山櫻かな

又平忠度が故郷の花と題し、

さゝなみや志賀の都はあれにしを昔ながらの山櫻哉

とよまれしなど、其他櫻花を詠じたる詩歌あげて數ふべからず。

雲深き九重の邊に於かせられても代々櫻花を愛賞せられ、今も猶毎年四月櫻花爛熳の候を期し、濱離宮に百官臣僚及外國使臣を御召ありて觀櫻の宴を賜はる例となれり。

又民間に於ても吉野に嵐山に、上野に小金井に、それ／＼相携へて花下に宴を開くの俗を成し、その行樂益盛んなるに至れり。然るに今日に於ては既に歐米にも移

植せられ彼地に於て盛に愛賞せられ、彌世界の名花として其光輝を發揮するに至れり、宜なる哉。

左近の櫻

紫宸殿(南殿)の階前にある櫻と橘とは共に禁中の名木として世に並稱せらる。櫻は階下の東即左側に在りて左近衛府の武人の詰所に向へるを以て左近の櫻とも云ひ、又南殿の櫻とも云ふ。橘は階下の西即右側に在りて右近衛府の方に向へるを以て右近の橘と稱す。以下櫻に就きて述べん

桓武天皇の延暦の造内裏の時、初めて梅を植えられしが、承和年中に枯れしを以て、仁明天皇の朝、櫻に更められたり。然るに此櫻は清和天皇の貞觀年中に枯れ、纔に其根より芽を萌發せるに依り、坂上瀧守勅を奉じて培養怠らざりしかば、枝葉再び繁茂したるも、村上天皇の天徳三年内裏焼失と共に焼亡せり。内裏造營の際、式部卿重明親王の邸に在りし吉野山の櫻(山櫻)を移し栽えられたりと傳ふ。爾後枯死其他の場合には必ず吉野山の櫻の苗裔を以て補ふことゝなり、以て今日に至れりと云ふ。

ヤマザクラ(薔薇科)高讀女三ノ一八、

高さ二三丈に達する落葉喬木にして、樹皮は横に割目を有す。枝は多く幹の上方より分岐するを常とす。

花は四月中旬、葉と殆ど同時に開く、花梗に毛なく平滑なり。萼は筒状にして先端五裂、花瓣五、淡紅を帯び其先端二裂す。多雄蕊、一雌蕊を具ふ。雄蕊は長短不同にして萼筒の上部内縁より生ず。

本邦の山地に自生するのみならず、支那、滿洲の如き寒地に迄廣く分布せり。殊に大和の吉野山、山城の嵐山、武藏の小金井等は古來山櫻の名所として世に知られたる。

ヤエザクラ(薔薇科)高讀九ノ二六、高讀女三ノ四、一八、

吉野櫻には園藝的品種あるなしと雖、山櫻には其品種頗る多く、一重咲のみにても幾多の種類を化成し、八重咲にては品彙數百を算するに至れり。

八重櫻にては瓣の數少きは十五六、多きは三十より七八十に達するもの少からず、此等の花瓣は雄蕊の化成に依るものなれども、中には雌蕊をも花瓣に變化せる

ものあり。八重櫻の中にて最名高さもの、二三を擧ぐれば、楊貴妃櫻、牡丹櫻、普賢象、鬱金櫻等なり。

楊貴妃櫻

八重櫻の中輪にして花徑一寸三四分、櫻品中の秀逸なるものなり。花瓣約二十個を數ふべく、淡紅にして其先端濃紅となり、色彩頗る艶麗、其濃厚なる紅を含むこと海棠のそれに似たり、故に「海棠の睡」と云へる故事より此名を得たるものなりと云ふ。

牡丹櫻

八重咲の重ね多き一品なり。蕾は橢圓形にして濃紅色を呈するも、十分開花すれば直徑一寸五六分に達し、花瓣淡紅色となる。花瓣は幅廣く、先端に切れ込みあり。

普賢象

四月下旬開花する八重櫻にして、花梗は赤褐色、長さ一寸餘、纖弱にして重き花輪を支ふるに耐えず、故に下垂す。花瓣の數三十餘、雄蕊二十前後あれども甚小形。雌蕊は普通二個を有するも化して綠葉となり、其先端曲りて上方に向ふこと恰普賢菩

薩の乗れる白象の鼻に似たり、依りて此名ありと云ふ。

普賢象に似て花色の淡きものを白普賢と稱す。

鬱金櫻

花瓣は質、普通の櫻よりは稍堅く且淡黄色を呈する八重櫻なり。花瓣は其幅廣く、形不規則にして先端亦不規則に分裂す。

緋櫻

一重の山櫻より變生せる園藝的品種にして、枝は幹の上部に於て擴張す、嫩き葉は濃赤色を呈す。花も亦濃紅色なるを以て他の櫻と區別し得べし。花形大きく花期遅し。

吉野櫻(染井吉野)

幹の高さ二三丈に達す。樹皮は横に割目を有するも、枝は山櫻に於けるが如く上方に伸ぶることなく、横に擴がるを特徴となす。

花は四月上旬葉に先ちて開き、花梗に細毛を有す。其將に蕾を破らんとする際、萼片の間より微紅を現し、且弱き香を放つを以て山櫻と區別し得べし。

東京附近に最多き櫻にして、東京にては吉野櫻と稱するも、大和國吉野山の櫻とは全然異なれり。吉野山の櫻は山櫻にして吉野櫻にはあらざるなり。

吉野櫻の原種は伊豆の大島にありと云ふ人あれども、同島の櫻は之と別種にして大島櫻一名タキギザクラと稱するものなり。

ヒガンザクラ(薔薇科) 尋常四ノ二三、高讀女一ノ二三、

幹の高さ二三丈に達し、多く枝梗を分岐す。樹皮は山櫻、染井吉野に於けるが如く横に割れ目を生ぜず、却て縦に割目を有するを特徴となす。

春の彼岸頃開花するを以て彼岸櫻の稱あり。花は小形にして葉に先ちて開き、概ね三個づゝ一所より出づ。萼は赤褐色を呈し、下部膨れて球狀を成し、其花梗と萼とは柔毛を生ぜり。

枝垂櫻

彼岸櫻の變種なるを以て、樹皮に縦の割目を生ずること、又其花形、花色及花期も相等し、只其枝梗の下垂するを以て區別すべし。

カイダウ海棠(薔薇科) 高讀新下ノ二三、



庭園に栽培せらるゝ觀賞植物にして高さ七八尺。葉は互生、長橢圓形にして鋸齒あり。花は四月、新葉と共に生ず、其花の淡紅色にして優艶なること櫻花の上に出づ。普通見るものは重瓣花にして果實を生ずることなし。

アズミ。杏。(薔薇科) 高讀女四ノ三〇、

庭園に栽培せらるゝ落葉果樹にして高さ丈餘に達す。葉は互生、廣橢圓形又は卵形にして先端尖る。花期二月、花形頗るウメのそれに似たるも萼片の外方に反轉せるは區別の一點となすべし。果實は核果にして熟すれば果肉は核と分離し易し。生食となすべく、又ジャム或は乾杏となすべし。又種子に水を加はへ蒸餾して杏仁水を製し藥用に供す。

ウツギ。(虎耳草科) 高讀女四ノ一八、

山野に自生する落葉灌木にして高さ七八尺。葉は對生、長橢圓形にして先端尖り、縁邊に細鋸齒を有し、葉面粗澁なり。花期五月、白色の五瓣花を圓錐狀に綴る。生垣を作る爲に植う、又材を木釘に作るべし。

一種マルバウツギあり、頗る前者に似たるも葉は橢圓形にして微鋸齒を有し、且

毛茸を密布す。

ワサビ。(十字科) 高讀女三ノ二一、

山間陰濕の地に自生する多年生草本。葉は圓狀心臟形にして微鋸齒を有し、且長



柄を具ふ。四月の交、根莖より花軸を出すこと一二尺、十字花冠は白色にして總狀花序を成す。本邦特産の香辛料にして其根莖には一種の揮發油を含有し、其辛烈なる香味は高雅優勝にして、調味上必要なる一品なり。

山葵漬と稱するものは主にワサビの葉莖を細く切り、之を糟漬と成したるものにして食

第三六圖  
ワサビ

慾を催促するに用ふ。静岡縣の産名あり。又葉莖を浸し物となし、或は鹽藏して食すれば風味頗る佳なり。

栽培地として最適當なるは、四時常に攝氏九度以下の低温度にして清冽なる水の流るゝ階段地なり、故にワサビは樹林密にして日光を直射せず、溪水夏尙骨を徹するが如き砂礫地を良しとす。若し温度上昇し攝氏十三度に達すれば其生長却て衰へ、且細菌の動作に利ありしめ終に腐敗病を起すことあるに至る。

四月頃、白花を開く。萼片五、花瓣五、雄藥六、(四強雄藥雌藥一)を數ふべし。

アブラナ。(十字科) 尋讀五ノ一九、尋讀十ノ二、尋讀十一ノ二四、尋理五ノ一、高理一ノ八、高理二ノ七、尋地一ノ八、尋地二ノ一七、高地三ノ二、

油菜は普通植物の代表者として提示せられたることを忘るべからず。

油菜の如き花序を總狀花序と云ふ、フヂの花序も同じ、四個の花弁十字狀に排列するを以て十字花冠と云ふ。雄藥は六本あり、内四本長く二本短きを以て四強雄藥と云ふ。

雄藥の基にある四個の圓き綠色の突起を蜜槽と云ふ。果實は蒴果の一にして特に長角と呼ぶ。

コマツナ。(十字科) 尋理五ノ一、

本邦在來の冬菜主として秋蒔にして性頗る寒氣に耐ゆ、故に冬期之を採收すべし。其晩生のものを鶯菜主として春蒔と云ふ。又其甲拆をツマミナと稱して汁の身又は漬物となす。

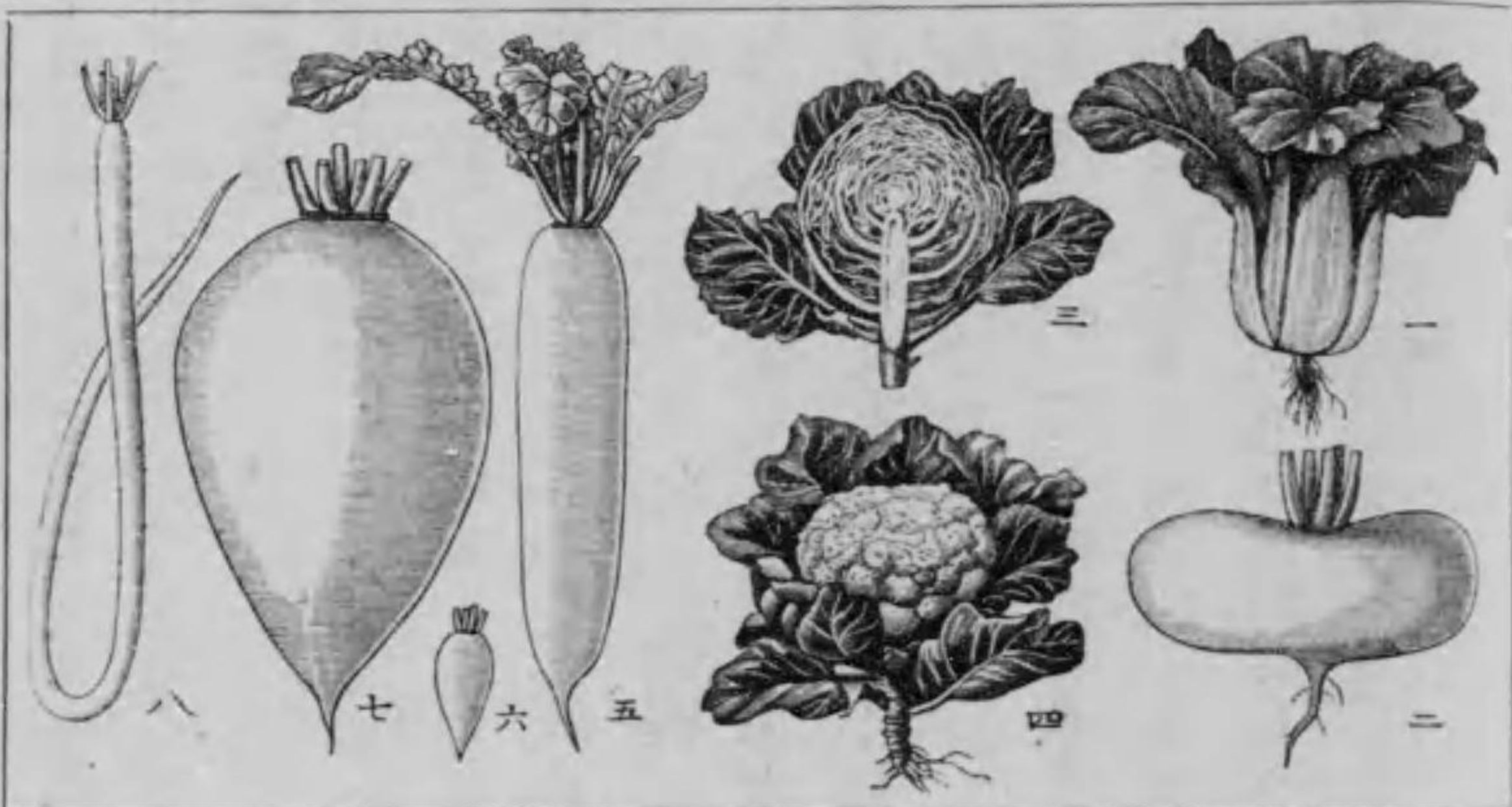
カブラ。(十字科) 高讀男女ノ二八、高讀男女ノ三〇、高讀女ノ三〇、尋理五ノ一、

アブラナの園藝的變種にして根葉共に用ふべく、風味佳良なり。根の性質長短形狀其他色に依りて品種を分つべし。近江カブラ、天王寺カブラ、聖護院カブラ等名高し。鹽藏・糟藏・晒乾となすべし。歐米にては家畜の飼料に供すべき品種少からず。

ハクサイ。白菜。(十字科) 高讀女ノ三〇、

北支那の原産にして丈低く、葉柄短く幅廣く、

第三七圖  
十字科の蔬  
菜  
一、體菜  
二、近江燕  
三、甘藍の  
斷面  
四、花椰菜  
五、練馬大  
根  
六、二十日  
大根  
七、櫻馬大  
根  
八、守口大  
根



離瓣花類

且白色にして質柔軟なり。葉の互に抱合して結球すること頗る完全なり。葉片は淡緑にして稍黄色を帯ぶ。缺刻なけれども葉面に細皺を有す。煮又は鹽藏して食すれば風味頗る佳なり。

サントウサイ。山東菜。(十字科) 高讀男女二ノ三〇、

支那山東省の原産にして丈高く、葉柄白色幅廣く相抱合して直立す。葉色淡く葉面皺を有す。葉縁缺刻なし。鹽藏若くは煮て食ふべし。

シヤクシナ。體菜。(十字科) 高讀男女二ノ三〇、

支那の原産にして丈短く株太し。葉形杓子又は匙に似たり。故にシヤクシナの稱あり。葉柄白色にして下部厚く幅廣し。葉片滑澤鮮綠色を呈し。葉縁に缺刻なし。葉質柔軟なるを以て煮又は鹽藏して食ふべし。

ミヅナ。(十字科) 尋理五ノ一、

ミヅナは支那の原産にして京菜の一品なり。

京菜はカラシナと同屬にして葉に深き缺刻あり。葉柄甚細く群生して一大束を成せり。

壬生菜は京菜に似たれども葉に缺刻なく、葉柄稍太きを以て區別すべし。

京菜は東京近郊に多く、壬生菜は京坂地方に栽培せらる。壬生菜は山城國葛野郡壬生村の原産なり。此等の菜類は皆葉質稍剛き缺點あれども辛味あるを以て鹽藏して食するに適す。

タマナ。ハボタン。(甘藍。キャベツ) (Cabbage)

學名(Brassica oleracea L.) (十字科) 尋理五ノ一、

葉の形狀・色澤等に依りて其品種を分つべく、又早中晩等の別あるを以て、播種育苗の季節及貯藏法に注意せば周年之が供給を絶たず。殊に貯藏・運搬に耐ゆるを以て航海・探險・遠征或は鑛山等に從事するもの、缺くべからざる常用菜類なり。

タマナは結球したる柔軟白色の部を用ふるものなれども、其外圍の綠葉をも煮て食ふべし。種々の調理に用ひ、又鹽藏して食ふべし。

カラシナ。(十字科) 高讀女二ノ二四、高讀女三ノ八、二一、尋理五ノ一、

畑に栽培せらるゝ越年草にして根出葉は叢生す。葉片には深き缺刻及齒牙を有し、且葉面皺縮を成して粗慥なり。四月の交、葉叢の間より花莖を抽くこと四五尺に

して總狀花序を綴る。十字花冠は黄色。果實は長角なり。

葉に一種の辛味あり、鹽藏又は浸し物となして食ふべし。種子に黒と白とあり、黒芥子、白芥子之なり。之を粉としたるを芥子粉と云ふ。

芥子粉は食物に風味を添ふる助となし、又極寒極暑には食欲を促進する効あり。芥子を捏ねて芥子泥となし、皮膚に貼れば血液其部に集りて赤くなる、以て其作用を知るべし。

ダイコン

(十字科) 尋讀一、尋讀九ノ三、尋讀十ノ九、高讀男女一ノ二八、高讀男女二ノ三〇、高讀女四ノ三〇、尋讀五ノ一、

各地に栽培せらるゝ根菜類にして其多肉根は白色、紡錘狀なれども種類に依りて多少形狀を異にす。根出葉は叢生し、羽狀に分裂す。葉面毛茸多く爲に粗糙なり。春日、花莖を伸ばすこと四五尺にして總狀花を綴る。花は淡紫白色の十字花冠にして雄藥の基に二個の蜜槽を有す。花後、角狀の閉果を結ぶ。

本邦に於ける蔬菜中最重要なる位置を占め、四時之が供給を絶たず、從て品種頗る多し。煮或は鹽藏し、或は切干となし、或は生にて食ふべし。

ダイコン。普通大根と稱するものは秋ダイコンの謂にして需要最廣く且優等

なるものなり。東京府北豊島郡練馬村、愛知縣西春日井郡宮重村、鹿兒島縣櫻島の産世に名高し。

二十日大根(時なし大根) 歐米より傳はりたるものにして、播種後、約一ヶ月にして收穫し得べく、又其品種少からざるも概ね小形なり。煮或は生食すべし。

二年子(ハルダイコン) 秋季種を下し、翌春三四月頃に收穫するものなり。三月大根とも云ふ。

ナツダイコン。三月大根より晚く、秋大根より早く收穫するを常とす。漬物用として需要多し。

クスノキ

(樟科) 尋讀十一ノ九、高讀一ノ一二、尋地二ノ五、高地三ノ五、

四國・九州・臺灣等に生ずる常綠喬木にして、幹の高さ數十尺に達す。葉は互生、卵形にして兩端尖り、全緣、革質にして光澤を帯び、著しき葉脈三條を有す。花は小形、黄白色なり。果實は十月頃成熟し、黒色球形の漿果、豌豆大なり。此植物より樟腦を製取す。樟腦は揮發油の酸化より生じ、材隙に蓄積する一種の固形揮發油にて、藥品としては内用及外用に供し必要なるのみならず、又防蟲のため或は防臭の爲に使用す。

又現今諸般の化学工藝上例へばセルロイドの製造、火薬の製造、或は化粧品、製造の如き其他原料として樟腦は實に缺くべからざる者の一となれり。然るに其産地は我國及南清の二個所に過ぎず。故に近來歐米に於ては、或は樟樹の培養を試み、或は人造樟腦を案出する等大に苦心せり。樟樹は老木となるに従ひ、其樟腦含有の量を増す、然るに内地に於ては老木は殆ど伐採し盡し、今や特殊の保護ある場所の外老木を見ざるに至れり。

ラフバイ。カラウメ。(蠟梅科) 高讀男女二ノ六、

往昔支那より傳來せる落葉灌木にして高さ一丈に達す。葉は對生、卵狀橢圓形或は卵形、全縁にして粗澁なり。二月初旬、葉に先ちて黄色の花を開く、花被は質厚くして多數、蠟に似たる光澤あるを以て蠟梅と云ふ。花後、卵狀の小果を結ぶ、有毒植物なり。四品あり。

狗蠅梅。花瓣小く最下品等なり。

檀香梅一名馨口梅。花は下向す。花瓣は幅廣く平開せず、匂ひ最高く、四品中の優等なり。タウラフバイと稱するもの即これなり。

荷花梅。花は平開するも前者よりは小形なり。前二者の中間物と見るべきものなり。

素心蠟梅。明治年間支那より傳はりしものなり。前三者は内部紫色なるも、本品は内外の瓣共に黄色を呈す。

ナンテン。小藥科) 高讀男女二ノ六、尋理五ノ二八、

暖地に自生する常綠灌木、多く庭際に栽ゆ、莖は直立して七八尺に達す。葉は互生、數回羽狀複葉。五六月の候、白色小形の複總狀花を着く。果實は球形赤色、稀に白又黄のものあり。

花戸には變葉矮性の數品あり、葉形に依てマルバナナンテン、ツルナンテン、イトナンテン、モミヂナンテンなどと稱せらる。

幹の稍大なるものは小細工の原料として雅致あり。

冬月、果實の曇々と生じたるは頗る美觀なり。葉は解毒劑に、果實は藥用に供せらる。又邦俗赤飯を贈るに此葉を添ふることあり。

ムベ。(木通科) 高讀女一ノ二〇、

暖地の山野に多き常緑の蔓性植物なり。葉は通常五個或は七個の小葉よりなるも幼莖にありては三小葉より成る。故に七五三ヅルの稱あり。葉片は革質にして橢圓形、全縁なり。五月頃、淡紅色の單性花を着く。雌雄同株。秋日、長橢圓形の漿果を結ぶ。さ二寸許、熟すれば縦に裂けて中より暗紫色の種子を吐く。肉は食ふべし。

シヤクヤク。(毛茛科) 高讀男女ノ二、高讀女四ノ三〇、

園養の多年生草本にして、早春紫赤色の新芽を生じ、高さ一二尺に達す。葉は複葉にして小葉は三裂す。六月頃、莖頂に單花を着く。花は大形にして椀狀、通常萼片五、花瓣五、多雄蕊、三雌蕊。花色に紅、白等種々あり。根は乾晒して薬用となすべし。

ヤマシヤクヤクと稱するは山地に自生し、花葉共に芍薬に似たるも小形にして花美ならず。

ボタン。(毛茛科) 尋讀九ノ三、尋讀十ノ二七、高讀女四ノ三〇、高讀新上ノ一、

往昔、支那より傳はりし落葉灌木。葉は通常二回羽狀複葉にして小葉は三裂す。五月頃、枝頭に大形の單花を生ず。花徑六七寸。花色に紅、白、紅紫等ありて品種頗る多し。花輪の大にして色澤の豊艶なる百花中之に及ぶものなし。故に花王と稱し、或は

富貴と呼ぶ。周茂叔が牡丹は花の富貴なるものと云へるも亦宜なる哉。

牡丹を一に二十日草と稱するは、咲きしより散りはつるまで見しほどに花のものとにて二十日經にけり」と關白忠通の詠じたる歌意に因るなり。根皮は薬用に供す。

センニンサウ。(毛茛科) 尋讀五ノ二八、

原野路傍に自生する多年生の常緑蔓草。葉は對生、羽狀複葉、小葉は普通三個乃至七個、葉柄を以て他物に絡む。八月の候、雪白色の花を簇生し、花後瘦果を結ぶ。果には一本の尾あり(花柱の變形)長さ一寸許、白色毛を具へ以て散布を助く。

有毒物なれども近來觀賞用として外國に輸出せらる。

バイクワモ。(毛茛科) 尋讀五ノ二八、

山地の溪流清冷なる所に生ずる草本にして、全部水中に沈在せり。莖は纖弱。葉は絲狀に細裂し能く流に従ひて動搖す。節の所々より小なる根を出す。七八月の候、葉腋より細長なる一梗を水面上に抽出し、白色五瓣の小花を着く。其狀恰梅花に似たるを以てバイクワモ或はウメバチモの名あり。清楚又愛すべし。

フクジュサウ。(毛茛科) 尋讀八ノ二一、

第二三圖  
フクジュサ  
ウ



山地の樹陰に自生する多年生草本。根は鬚状にして長く、二月頃、莖を抽くこと五六寸、莖頭に黄色の單花を着く。葉は互生、二回羽状複葉、小葉は深く裂け、其裂片は尖頭の線状披針形を成す。萼は通常五片、花瓣は十四五片、雄蕊雌蕊は共に多數あり。

右の如く莖頭に唯一花を着け、枝を分たざるものを單にフクジュサウと云ひ、枝を分ち枝端に各一花を着くるものをエダウチフクジュサウと云ふ。吾人の賞翫するものは多く之なり。學術上、アドニス・アムレンシス (*Adonis amurensis* L.) と稱す。アドニスは昔野猪の牙にかゝりて喰ひ殺されしアドニスの血より生じたる草と云ふ意にて、今は其名を假りて呼ぶと傳へらる。

園藝上には品種頗る多く、花色に黄、白、紅、青等あり、咲き方に大段咲き、撫子咲きあり。

り、又大小輪及重瓣花等あり。此花は晝間開き夜間閉づ。

アネモネ (毛茛科) 高麗四ノ三〇。

觀賞用として栽培する多年生草本なり。根出葉は長柄を有し、分れて三叉となり、更に羽状に細裂す。三月頃、花莖を抽くこと六七寸、莖頭に碗状の單花を着く、花徑約一寸七八分、花蓋及雄蕊雌蕊の裂片は多數にして其咲方に一重咲、八重咲、菊咲等種々あり。又花色には紅、白、紫、紅等優雅風韻に富めるもの頗る多し。

花後、葉枯るゝをまちて宿根を掘り取り、乾燥せる砂中に藏め、秋日、彼岸頃、再び植え込むべし。肥料としては油粕、燐酸などの薄きものを施せば可なり。

コブシ (木蘭科) 尋理五ノ三四。

山地に自生する落葉喬木にして幹の高さ二丈に達す。葉は互生、倒卵形にして葉裏脈上に毛茸多し。

芽の嫩き時は葉柄の基部にて保護せらるゝも、落葉の期近づけば芽既に生長し、外部は褐色の毛を有する堅き鱗片を以て保護せられ、越冬の準備完く整ふ。

三四月頃、大形の白花を開き、芳香を放つ、花瓣は通常六個を有す。雄蕊と雌蕊とは

第三元圖  
コブシ



にして高さ四五丈に達し、枝極を分つこと頗る疎なり、葉は潤大なる倒卵形を呈し、長さ一尺に達するもの少からず、五月頃、梢頭に大形の白花を着く、花徑四五寸、花瓣八九、香氣頗る強し。

其數多し。  
其蕾の將に開發せんとするの狀恰も小兒のコブシの如し、故に此名ありと、又其果實は長橢圓形(長二三寸)にして熟すれば少しく屈曲す、其狀コブシの如きより此名を得たりとも云ふ。

ホホノキ(木蘭科)  
高讀女三ノ二〇、

材は家具及下駄の齒に供せられ、又朴炭に製せらる。

キンギヨモ(金魚藻科) 尋理五ノ一八、高理一ノ九、

淡水に沈生する多年生の小草本なり、莖は細長く、且大なる間隙を有し、其中に空氣を含み以て比重を減じ水中に漂ふに適す、輪生葉は二回又は三回に分裂す、其裂片の細小なるは水の動搖に依りて受くる壓力を減ずるに便なり、夏日、葉腋より花梗を出し小形なる淡紅色の單性花を着く。

ハス(睡蓮科) 尋讀一、尋讀八ノ一二、尋讀十ノ二、高讀男女二ノ六、高讀新上ノ一、尋理五ノ一八、

多年生の水草、白蓮、紅蓮、支那蓮等の品種あり、白蓮は一に餅蓮と稱し、地下莖の粘氣強く最食用に適したるものなり、他種も食用に供すれども多くは觀賞用として栽培せり。

花は先づ第一日目の早朝に半開し、午前中に閉ぢ、二日目の早朝に全開し、正午前後に閉ぢ、三日目の早朝に開き、午後半ば閉ぢ、四日目の午後散り果つるなり。

花色の清艶なるを愛す、周茂叔が蓮は花中の君子なるものと云ひしも敢へて溢美に非ざるなり、遍照法師が「はちす葉の濁りにそまぬ心もて何かは露を玉とあざ



ひくと詠ぜしは、其清絶を賞せるに外ならざるなり。

葉柄又は花軸をねぢ切る時、蜘蛛の絲の如きもの出づるを知るべし、こは螺旋紋導管の膜壁の伸長せるものにして、水は此導管より上昇するものなり。

ジュンサイ。又ナハ。(睡蓮科) 群理五ノ一八、

古き池に自生する宿根草なり。葉は楕圓形、全縁にして楯状をなす。根は水底にあるを以て莖頗る長し、莖及葉の背面には無色透明の粘液を被るを以て甚滑なり。嫩葉は初め巻物を兩方より巻きたるが如くなれども、漸次開展して水面に浮ぶ。夏日、紫紅色の花を開く。

春季、莖葉の嫩きものを採り生食又は煮て食す。

ヌナハとは莖長く恰繩の如きより沼の繩との義なりと。又滑繩と云ふ義を約めたるなりとも云へり。

ヒツジグサ。(睡蓮科) 群理五ノ一八、

池沼に自生する多年生草本。地下莖は短小。葉は長き柄に依つて水面に浮ぶ圓形にして全縁、耳底箭形を成し、表面綠色裏面帶紫色。七八月頃、長き花軸を出し、水面上

第一四〇圖  
ヒツジグサ



にて白花を着く、此花軸は水の淺深に依て調節せらる。花徑一二寸。萼片四、綠色。花瓣多數、白色。雄藥多數。果實は卵狀球形にして基部に宿存萼を伴ふ。  
花は朝開きて午後閉づ。ヒツジグサとは其花が未の刻(午後二時)より閉づるに依り起りたる名稱ならん。

カハホネ。(睡蓮科) 群理五ノ一八、

水中に沈在し淡綠色にして縁邊皺曲す。一は柄長く水上に挺出し、兩面綠色にして卵形、全縁、耳底箭形を成す。七八月頃、水中より太き花軸を抽き出し、黄色の單花を頂く。萼片大にして花瓣狀、花瓣は小形にして多數。雄藥も亦多數。果實は卵狀球形にして、下に大なる宿存萼を伴ふ。

オホオニバス(睡蓮科) 尋讀十ノ二、

(Victoria regia Lindl.)

南米アマゾン河に産する水草にして全部刺を有す。葉は圓く其縁邊上方に曲りて盆形を成し、長柄を以て水面に浮ぶことヒツジグサの葉に於けるが如し、葉の直径七尺に餘る。花も亦長柄に依りて水面に浮ぶ、花径六寸より一尺二三寸に及ぶ、此の如く珍奇の形態を呈するを以て、歐米各地の植物園(温室)に移植せらる。

オニバスは本邦各地の沼池に自生し、其形頗る前者に似たり。葉は圓く、直径二三尺より五六尺に及ぶものあり、裏面は紫色を呈し、脈隆起して皺を成す。花瓣を除くの外、全部刺を以て被はる。夏季、長梗を出して單花を着く、花径一二寸、花苞アザミの如く、内に紅紫色の花弁を有し、僅に一點の笑を漏らすも可笑し。花粉粒は一細胞より成り、且刺を有す、これオホオニバスの花粉粒が平滑なる四細胞よりなると異なる点となす。

ナデシコ。カハラナデシコ。(石竹科) 尋讀十ノ二、高讀新下ノ一三、

山野に自生する多年生の草本、莖の高さ一二尺、葉は對生、線狀披針形を成す。萼は

第二四圖  
ナデシコ



筒狀にして五齒を有す。五花瓣の形齊しく、花色淡紅優雅にして瓣の先端に細裂あるは頗る風情あり、雄蕊十個、雌蕊一個、花柱は二分せり。河原などに自生せるに依りカハラナデシコとも云ふ。秋の七草の一なり。

ハマナデシコと稱するは、多

く海濱に生ず、前者よりは葉の幅廣く且厚く、花小なるを以つて直に區別し得べし。

セキチクと稱する園藝品は、支那或は朝鮮より傳はりしものにて所謂カラナデシコと稱し、日本固有の大和撫子と區別すべき種類なり。葉は線形、萼筒下の苞はナデシコのものよりは長くして尖れり。

アメリカカナデシコと稱する園藝品は、歐洲より傳はりしものにて葉は廣披針形を呈し、萼筒下の苞は萼筒よりも長くして先端尖れり。花色は紅、白等種々あり、又八

重咲のものありカンネーションと稱するもの即これなり。

オシロイバナ(紫茉莉科) 尋讀九ノ三、

本文に「オシロイノ花の様にクダの形云々とあり、クダとあるは長き管状の萼筒部のみを云ひあらはしたるにて、萼全體を形容したるに非ざるなり、故に萼を形容するにはタカツキガタ(高盆形)と云はざるべからず。

元來本科植物の花には決して固有の花弁を有することなし、オシロイバナの最も美しき色彩を呈せる高盆形の部は恰合瓣花冠の如く見ゆるも、實は花瓣に非ずして萼の發達したるものに外ならざるなり、又此美しき高盆形の萼の外側には緑色にして萼様を成せる總苞あり、之を一花の萼と誤認するものあり、注意すべし。

ケイトウ(莧科) 高讀男女二ノ三〇、

一年生の栽培植物にして高さ三尺に達す、葉は互生、橢圓形にして尖頭、秋日、鶏冠状の花軸を出し、之に數多の小形花を生ず、此の如く花軸の帯化せるは他に類例少く頗る美觀を呈す、莖に矮性、花色に紅、白、黃等種々あり。

此外ヒモゲイトウと稱し花軸長く恰紐状をなせるもの、又ハゲイトウと稱し葉

に紅、白、黃等の斑紋を呈し頗る觀賞の價あるもの、又スギモリゲイトウと稱し花軸の圓錐形をなせるもの、尙タマゲイトウと稱し花軸の球狀をなせるものなど種々あり。

鶏頭は秋の最後の花にして、引き残すも猶依然として其色澤を維持するを賞愛せらる、故に常世の花、凋まぬ花などの稱を與へらる、宜なる哉、此花を切りて花筒に挿し置けばよく久しく其美を保ち得、若し之に水を灌げば生氣再び回りに生々たるを以て、古人は宗教上の裝飾に用ひ、又此花を以て其死屍を蓋へりと云ふ。

キノコヅチ(莧科) 尋讀五ノ二八、

原野に自生する多年生草本、莖の高さ二三尺、葉は對生、橢圓形にして銳頭、全縁なり、夏日、莖頂及枝頭より穗を出し小花を着く。

果實は苞及萼を宿存す、果形尖錐狀にして一個の苞と二個の小苞とは最外圍に位し、五個の萼片之に内接す、中央に果實、狹義あり、圍むに雄蕊の遺體を以てせり、果實熟すれば苞及萼の外面にありし毛は剛強となりよく附着の用をなす。

花は最初花軸の側面に向ふて開けども、花後漸次向地性を現し、果熟するに及べ

ば遂に花軸と並行して下垂するに至る。

サタウダイコン。甜菜。(Beta vulgaris L.) 藜科 高嶺新上ノ三四、高地二ノ四、高地一ノ三、



地中海沿岸の原産にして高さ二三尺に達する越年草なり。葉は互生、卵形にして表面平滑を呈す。花は小形、黄綠色にして穂状をなす。根は通常紡錘形にして砂糖を得るに用ひらる。

獨佛にては糖料植物として盛に栽培せらる。我國にても曾て北海道に栽培せしことあり。雨少き寒地を好むが故に朝鮮は其栽培に適せり。

含糖量は種類及熟否の如何に依りて異なれども平均九十五パーセントの液汁を含み、其内十二乃至二十パーセントの固形物ありて、砂糖の外、少量の蛋白質、有機酸及礦質を含めり。

スカンボ。スイバ。(蓼科) 高嶺二ノ六、

原野路傍に自生する多年生草本にして莖高二三尺に及ぶ。根莖は細長。葉は互生、箭形にして長大なり。莖及葉柄は稍紅色を帯び、味酸し。五月頃、枝を分ち花穂を生ず。

第一四三圖  
甜菜

花は單性にして小形、雌雄同株。萼片は果實の時其の内列の三片放大して圓形をなす。

アキ。藍。(蓼科) 高嶺八ノ一八、尋地一ノ八、高地三ノ二、

畑に栽培する一年生草本、莖高二三尺。葉は互生、橢圓形にして葉鞘は莖を包む。十月頃、葉腋より長梗を出し穂状花を綴る。花は小形、白色にして紅暈を帯ぶ。果實は三稜を有する小閉果なり。

第一四四圖  
アキ



莖の色葉の形狀に依りて青莖小千本、赤莖小千本等の品種に分つべし。

二月頃、苗床を作り之に播種し、七月頃刈り採るを一番藍と云ひ、其刈株より芽を出し伸長し、八月頃刈り採るを二番藍と云ふ。更に其刈株より伸長したるものを收むるを三番藍と云ふ。品質前二者に劣る。

刈り採りたる藍は品質に依りて區別し、直に乾燥して貯へ。秋冬の候、堆積醱酵せ

しめ藻スノモと成し、臼に入れ搗碎して塊となす、之を藍玉と云ふ。染料として有用なり。阿波の産名高し。

ソバ。蓼科。高讀男女ノ二四、二八、



果實内には一個の種子を藏す、之より蕎麥粉を製すべし。

畑に栽培する一年生草本にして高さ二三尺。莖は中空にして節を有す。葉は略三角状心臟形にして長柄を有し、柄の基に葉鞘ありて莖を擁す。九月頃、葉腋より花梗を抽き白色の小花を開く。八雄蕊、一雌蕊、花柱は三裂す。花後、三稜ある閉果を結ぶ。

カラムシ。マヲ。(蕁麻科) 毒讀六ノ一〇、

原野路傍に自生する多年生草本なれども園圃に栽植せらるゝことあり。莖高四

第四四圖  
ソバ

第一四五圖  
マヲ



五尺。葉は互生、單葉にして稍圓形、鋸齒同大、葉裏白色、有柄なり。雌雄同株。七八月頃、葉腋より穗状花を生ず。福島山形地方にては之を栽培し年一回(八九月頃)收穫すれども、臺灣沖繩にては年二三回の收穫を成すを常とす。カラムシより莖を製するには莖を水に浸し、皮を剥き、竹筥などにて外皮を去り日光に晒して

精製す。これを紡ぎて絲となし、又織りて布となすべし。越後上布、明石縮、沖繩上布、薩摩上布、晒布等之なり。其他レース、窓掛、卓布、敷布、帆布、手巾等を製するに用ひらる。

第二四六圖  
クハ  
一、雄花を有する枝  
二、雌花を有する枝  
三、果實を有する枝  
四、雄花  
五、雌花  
イ、雄花叢  
ロ、雌花叢  
ハ、果實  
ニ、葉片  
ホ、托葉



此纖維は強靱なるを以て、網又は繩の原料となすべし。歐洲にては支那草(China Grass)と云ひ、南洋にては(Ramie)と稱す。近年獨佛兩國にては盛に他國より原料を輸入して諸種の織物を製出せり。

クハ。(桑科) 群讀七ノ三九、高讀男女一ノ二八、高讀女四ノ九、

高野一ノ九、高地二ノ六、

山地に自生する落葉喬木なれども、其葉は蠶兒の飼料に供せらるゝを以て多く畑に栽培す。葉は互生、卵形にして鋸齒を有し、多少分裂するものと、然らざるものとあり。四五月の候、單性花を生ず。雌雄同株又は別株にして雄花、

第二四七圖  
一、桑の葉  
二、萎縮病にかゝりたる桑



雌花いづれも柔荑花序を成し、各花瓣なし。果實は聚合瘦果にして稍長橢圓形をなし、熟すれば紫黑色となり味甘し。品種頗る多く冬芽發舒の早晚に依りて大別し、更に品質の良否に依りて細別することを得。蕃殖法には挿木・採木・播種等あれども前二者最廣く行はる。桑には菌類に原づく病害及害蟲、過度の伐採に因る萎縮病其他凍害等あり。

イチヂク。(桑科) 群讀五ノ三三、

歐洲より傳はりし落葉果樹。葉は互生、單葉は三裂又は五裂をなす、之を切れば白き乳汁を出す。花は單性、雌雄別株にして我國に傳はりしものは雌本のみなるが如し。花は倒卵形狀の花軸、花托にあらす内に隠れて外に現れず、吾人が果實として食用に供するは、此花軸及内部に於ける子房の熟したるものなり。

果實は生食すべく、又乾して貯ふべく、又ジャムに製すれば一種特有の香味を有

第一四八圖  
イチヂク  
一、果實を  
有する枝  
二、雄花  
三、雌花



す。其他蛋白質を消化する酸酵素をも含有せり。

イチヂクの將に落葉せんとするや、其離層部の細胞は枯死し、多く脂肪體を生じ、又碳酸石灰の結晶を含み、遂に該層より分離するものなり。

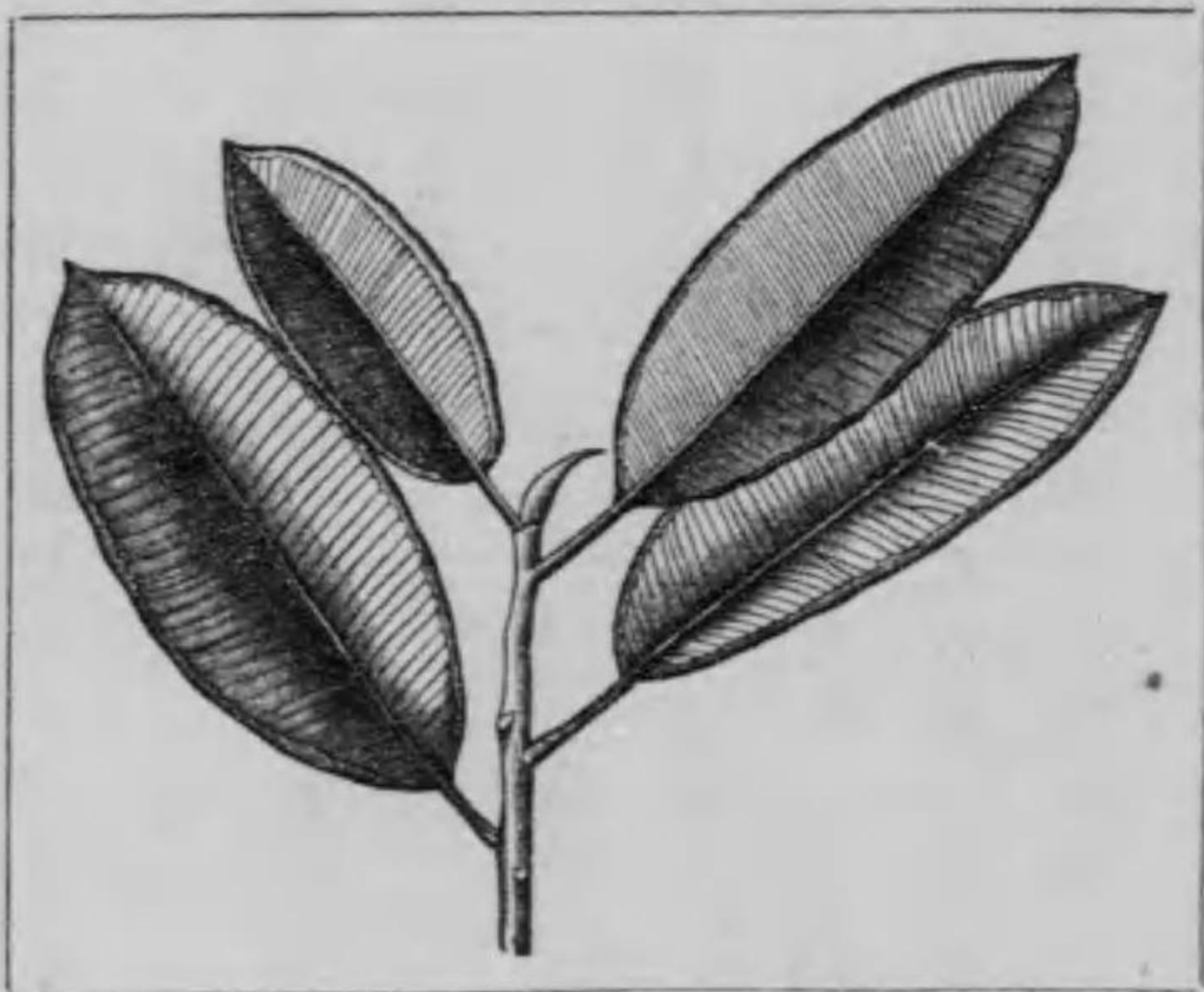
アカウ。榕樹。(桑科)

尋常十一ノ九、高嶺新下ノ六、尋地二ノ五、高地一ノ一、高地二ノ六、高地三ノ五、

琉球、臺灣其他の暖地に産する常緑喬木にして、幹高五丈周圍五尺に達す。

樹皮は赤黒色にして緑白の斑點あり。梢上より氣根を垂下して、遂に地中に入り奇觀を呈する狀、印度のバンヤンに類似す。葉は洋紙質、長橢圓形、全縁、鮮綠色にして兩面平滑なり。花序はイチヂクに似て、隱頭花を成し、微細なる雌花と雄花とは肥厚にして肉質、囊狀となれる花軸の内部に附着す。果實も無花果に似たれど小さく、表面

第一四九圖  
インドゴム  
ノキ



に斑點散布す。觀賞用として栽培し、又材を器具の料に供す。

琉球地方には此一種ガズマルを産す。其氣根地上に達することなく、其狀髯に類す。材は堅硬緻密にして、木理錯綜し、頗る美觀を呈し、漆器製造の原料に用ひらる。所謂琉球朱塗或はガズマル漆器是なり。

インドゴムノキ。ゴムノキ。(桑科) 尋地一ノ四、六、

彈性ゴムを採收する植物に數種あり。其一なる印度ゴムノキ一名ゴムノキは東印度原産の常緑喬木にして、高さ六尺餘に達す。葉は互生、橢圓形、全縁にして平滑、質厚く光澤あり。花及果實は無花果に酷似せり。亞細亞産中最優等なるものにして、之より護謨を採取して利益頗る多しと云ふ。又此植物を觀賞用として栽培することあり。

カナムグラ。(桑科) 尋理五ノ九、高理二ノ五、

路傍に普通なる蔓性草本、右旋莖。葉は對生、掌狀

にして五裂或は七裂す。莖及葉柄に逆生の短棘あるを以て甚粗濫なり。雌雄別株、雄本は八九月の候、葉腋より六七寸の花軸を抽き圓錐狀の穂を生ず。雄花は五裂片、五雄葉、淡黄綠色を呈す。雌本には橢圓形の短穂を下垂し、花後果實を結ぶ、各果實は苞に依て包まる。

アサ。大麻。(桑科) 本草六ノ一〇、本草十一ノ二四、本草十二ノ一二、高麗男女二ノ二四、二八、

廣く熱帶地方に栽培せらるゝ一年生草本にして、高さ往々一丈二三尺に達することあり。葉は五裂乃至九裂の掌狀複葉にして、下部は對生するも梢端に至れば互生す。内皮は強韌なる長き纖維より成り、一種の樹膠によりて莖に密着せらる。花は單性、雌雄別株なり。果實は外面滑澤にして、多量の脂油を含有す。

大麻は莖の皮部より纖維を採り、綱、網、織物、抄紙等の料に供し。種子は香辛料に用ひらる。又これより搾取したる油は燈用、料理用に適する外、繪具及ペンキ等を溶解するに賞用せらる。又印度地方に培養せるものは、大に樹脂に富み又麻醉性を有す。故に印度大麻草と稱し、鎮靜藥及催眠藥として應用す。土人はこれを麻醉性の喫烟料として嗜好す。現時栽培の顯著なる地方は支那、印度、其他の亞細亞諸邦、歐洲特に

伊太利、露西亞等とす。本邦にありては鹿兒島縣より、北海道に至る各所に栽培せらる。特に朽木、北海道所産のものを佳良とす。

ニレ。アキニレ。ヨヨギ。(榆科) 本草五ノ二八、

山地に自生する落葉喬木。幹高二三丈。葉は互生、橢圓形又は倒卵形にして鋸齒を有す。花期九月。果實は略卵形にして扁平、長さ三分許。風力に依りて散布せらる。一名ヨヨギといふ。武藏國代々木の地名は此樹名より起りしと云ふ。

ニレに似て非なるものにハルニレあり。葉は前者に似たるも濶大にして其基脚狹窄し、重鋸齒を成し、且葉裏脈上に軟毛を生ず。花は四五月、葉に先ちて開く。

第五〇圖  
ニレ



離瓣花類



ニガニレ。其葉形ハルニレに似たるも約二倍大、稍偏形をなし裏面に毛あり。コブニレ。葉はハルニレに似たるも枝の周圍にコルク質の瘤狀突起あるを以て直に區別し得べし。

オヒヨウ (Ostrya) (榆科) 尋讀十ノ三三、

落葉喬木にして高さ一丈二三尺に達す。五月頃葉に先ちて花を着く。葉は互生、倒卵形にして尖頭三乃至七個に分裂す、故にヤハズニレとも稱す。

樹皮は黄赭黒色にして厚く、纖維柔軟なるを以て北海道の土人は之を以て布を製す、アッシ織と呼ぶもの即これなり。其法は六月頃此樹皮を剥き採り水に浸すと十數日、絲を取り後織物となすなり。

エノキ (榆科) 尋理五ノ二八、

山野に自生せる落葉喬木にして高さ四五丈に達す。葉は互生、橢圓形にして先端尖り、其上部の縁邊に細鋸齒を有す。初夏、淡緑の小花を着け、花後圓形の果實を結ぶ。直徑二分許、熟して黄赤色を呈し、後褐色に變ず、小鳥の好んで食するものなり。此樹は舊時街道の一里塚に植えられたり。

ケヤキ (榆科) 尋讀六ノ二〇、高讀女ノ四ノ九、高理一ノ二二、高地三ノ五、

山野に自生する落葉喬木にして日本固有の植物なり、高さ十四五丈に達し、葉は互生、卵圓形或は長卵形を呈し、縁邊に鋸齒を有す。花は單性の小花にして新葉と共に生じ、雌雄同株なり。

材は船艦、橋梁、其他種々の建築用及器具用に供せらる。材質堅硬、彈力强けれども割れ易し。導管は比較的大きく、木地粗なれども能く重きに耐え、又水濕にも耐ゆ。

ムクノキ、ムクエノキ (榆科) 高讀二ノ一五、高讀女二ノ二三、

各地に自生する落葉喬木、幹の高さ五六丈、葉は互生、卵形又は橢圓形にして少しく歪めり。葉先は鋭尖、縁邊に鋸齒を有し、葉面頗る粗糙なり。花は單性にして五月頃開く。

果實は豆大にして、秋日熟すれば紫黒色となる。味甘く、鳥に依りて散布せらる。材は天秤棒、其他の器具を造るべく、葉は乾燥して角骨等の器物を琢磨するに供せらる。

クリ (殼斗科) 尋理五ノ一一、尋理五ノ二七、

山地に自生する落葉喬木にして幹高四五丈に達す。葉は互生、披針形にして銳頭、基部歪形、鋸齒鋭尖なり。六月頃、單性花を生ず。雌雄同株。雄花は柔荑花序を成し、花被は單列合一、雄藥數個を具ふ。雌花群は球形にして、雌花は通常三個の雌藥を有し、總苞に依りて圍擁せらる。蟲媒花にして花期長く、開花時には一種の異香を放つ。

モモクリ三年、カキ八年と云ふことあり。モモクリは種子より生じて三年目位に開花結實し、又カキは八年目位にして初めて開花結實する事實を云ひあらはしたるものなり。クリは實際三年目より四年目、四年目より五年目の方收穫多く、此く漸次收穫量を増加するものなり。

丹波栗と稱するは實大にして味佳良なり、果皮及澁皮を去り料理又は菓子原料に用ふべく、或は栗飯として珍重せらる。其他燒栗、蒸栗、鹽栗として食ふべし。果實の小形なるものはカチグリとなして貯藏すべく、年首其他の儀式に用ふるもの即これなり。

シバグリと稱する小粒の栗は、山地に於て枝極を伐採せられ樹姿矮小と成れるものに成實したるなり、別種にあらず、其結實頗る多く且採收し易し。

材は土臺溝板、屋根板其他の用に供すべく、又鐵道の枕木として必要なり。又此材を泥水中に沈め置き漸次黒色に變ずるを待ちて取り出し、之を以て机、本箱、書棚其他の器具を製すれば頗る雅致あり。

シヒノキ(殼斗科) 琴讀十一ノ九、高讀女一ノ二四、琴理五ノ二七、高地三ノ五、

第二圖  
シヒノキ  
一、花を有する枝  
二、果實を有する枝  
イ、雌花  
ロ、雄花  
ハ、果實  
ニ、殼斗



雌雄花類

暖地に適する常綠喬木にして高さ三四丈に達す。葉は互生、長橢圓形又は長卵形にして先端尖り、上半部の縁邊に極めて淺き波狀的の鋸齒を有す。裏面は灰褐或は灰白色を呈す。花は單性にして五月頃開く、雄花は柔荑花序をなし、多少上向す、蟲媒花なり。果實は長卵形にして尖頭、初め壺狀の殼斗に包被せらるゝも熟すれば三裂して内より堅果を出す。

材は薪炭用其他器具を造るべく、皮

付の生木は椎茸を養成する料に樹皮は染料に、又果實は炊りて其中の種子を食ふべし。

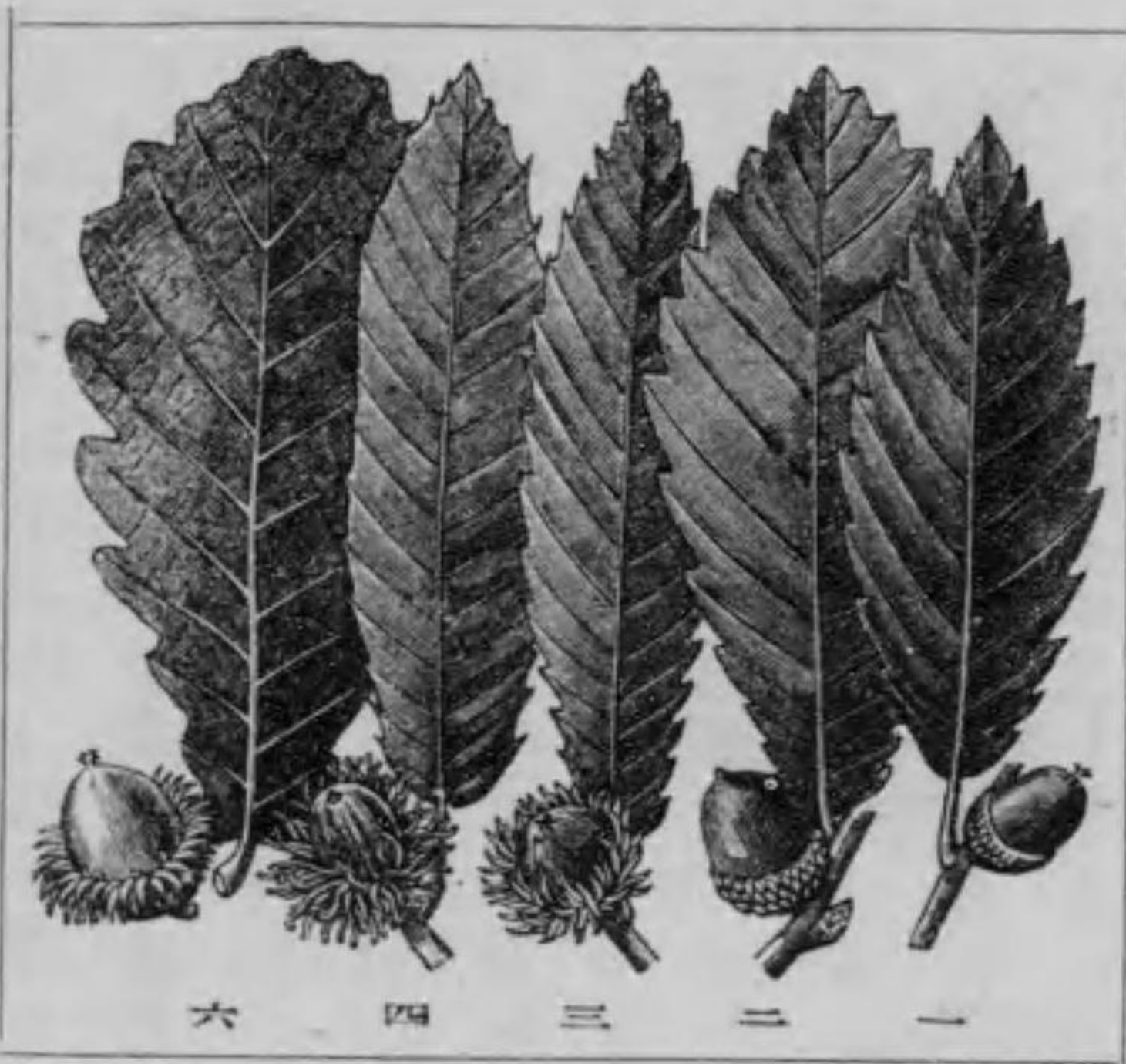
カシハ。(殼斗科) 尋理五ノ二七、

山地に自生する落葉喬木なれども往々庭園に植う。莖高四五丈。葉は潤大にして

倒卵形、縁邊に鈍鋸齒を有す。果實は卵圓形にして平椀狀の殼斗中に座し、殼斗の縁邊には尖銳なる鱗毛を密生せり。

材は薪炭用又は器具を造るべく、樹皮は魚網を染むる優良の原料たるのみならず、皮を鞣すにも必要なるものなり。果實を食せんとするには先づ果皮を剥ぎ其種子を灰汁にて煮、水に晒し苦味澁味の去りたる後、澱粉となして食用に供す。葉は餅を包むに用ふべく、又此樹は葉の枯れたる儘枝に附着するを以て

第五圖  
主なる殼斗科植物  
一、シラカ  
二、ミヅナ  
三、クヌギ  
四、アベマキ  
五、カシハ



雅人庭樹として其高趣を愛す。

ナラ。ユナラ。(殼斗科) 高讀女一ノ二四、高理一ノ二二、高地三ノ五、

山地に自生する落葉喬木。葉は互生、長倒卵形、粗鋸齒を有す。表面は綠色、裏面は灰白色の軟毛密生す。果實は長橢圓形にして淺き椀狀の殼斗中に座す。殼斗の苞鱗はクヌギの如く刺狀をなさず。薪炭用材としてはクヌギ材に亞ぐ。皮付の材は香豊を養成するに供せらる。

ナラに似て其葉廣橢圓形、銳頭の粗鋸齒を有し、且殼斗稍深きものをミヅナラと呼ぶ。材は水分を含むこと多く薪として燃え難きを以て此稱あり。

クヌギ。(殼斗科) 尋理四ノ四、高讀女一ノ二四、尋理五ノ二七、高理一ノ四、二二、尋地二ノ五、高地三ノ五、

山地に自生する落葉喬木。薪炭用材として必要なるを以て多く山林に仕立つ。葉は披針形又は長橢圓狀披針形を呈し、縁邊に鋸齒を有す。嫩葉は表裏共に灰白色の毛茸を生ずれども老葉は之を有せず。花期五月、單性花にして雄花は柔荑花序をなす。果實は球形にして俗にトンゲリと稱せられ、殼斗に依りて包まる。殼斗の縁には刺狀の鱗片あり。

池田炭、佐倉炭と稱するは此材を焼きたるものなり。此炭の小口に菊形の割目入りたるものを特に菊炭と稱して賞用す。此割目は空氣を誘導する力頗る強し。クヌギに似たるものにアベマキあり。葉は長橢圓形にして裏面に白色の毛茸あるを異れりとす。樹皮のコルク層厚き故にコルククヌギとも云ふ。

コルクノキ(殼斗科)

コルクガシ又コルクガシハとも云ひ、地中海沿岸に自生する常緑樹にして幹高五丈に及ぶ。葉は互生、長橢圓形をなし、縁邊に鋸齒を有す。葉質厚く表面は平滑、裏面と小枝とに白色の軟毛を密生す。花は單性、雌雄同株。雄花は長き穗状花序に排列し、雌花は盃状の總苞を具ふ。果實は堅果にして殼斗は盃状をなす。樹皮は厚くして外面に深き溝あり。表皮下の外皮は柔軟にして海綿質、弾性に富み、液體氣體を透さず。又熱の不良導體なり。之を木栓層單に木栓と稱し、剝離して専ら栓子に用ふ。其他浮標、救命器、帽子、裏煙草の吸口等種々の用に供せら



第一五圖  
コルクガシ

る。樹皮は老成すれば自ら脱落するが故に、其未だ脱落せざるに先ちこれを剝離す。其際内皮を損傷せざる様に注意すれば生長して再びコルクを生ずべし。剝き取りたる樹皮は大形のまゝ沸湯に浸して柔軟ならしめ、次に表皮の粗糲部を削り取り、蓆酸鹽或は其他の溶液にて洗滌したる後壓搾して平板となす。イタリア、フランス、イスパニア等の諸國より之を産す。樹皮を剝ぐには毎十三年四年に行ふを可とす。齡五十年乃至百年のもの品質最良好にして尙百五十年に至るまで剝皮するを得。

カシ(殼斗科) 尋常十一ノ九、高麗女二ノ一四、尋常五ノ三三、高麗一ノ一二、高地三ノ五、

常緑潤葉樹にして高さ數丈に達し、暖地に適す。其材は堅硬なるを以て種々の工藝用に使せられ、又薪炭として優良なり。其他生垣、庭樹、防風樹として栽植せらる。シラカシ。葉は長橢圓形にして先端尖り、質稍薄く、縁邊に細鋸齒を有す。

ウラジロガシ。葉は頗る前者に似たるも鋸齒稍深く、裏面白色なるを以て直に區別すべし。

アカガシ。概形シラカシに似たれども葉形大きく、全縁なるか或は上半部に波状の鋸齒を有するを以て區別し得らる。

アラカシ。葉は大にして倒卵形或は長橢圓形を呈し、粗鋸齒を有す、新芽、新梢の黒色なるを以てクロガシとも云ふ。

ツクバネガシ。葉は披針形或は長橢圓形にして葉柄極めて短く、殆ど鋸齒を有せず、葉が枝端に輪生状をなせることツクバネガシに似たり、依りて此名あり。以上は關東に自生する種類なり。

ブナ。櫛。(山毛櫛科) 高地三ノ五、



山地に自生する落葉喬木にして幹高五六丈餘に達し、樹皮は平滑、灰白色を呈す。葉は互生、卵形にして縁邊に波狀鋸齒を有す。其波狀鋸齒は支脈と支脈との中間に位するを特徴とす。雌雄同株、雄花は菜莢花にして、春日葉腋に垂下し、雌花は梢頭に二三花集生し苞を以て圍まる。果實は堅果にして三稜を有し、殻斗の中に座す、殻斗は外面に軟刺を有し、熟すれば四裂し、二個の果實を出す。

第五四圖  
ブナ

イヌブナ。樹皮黒色を帯び、葉片ブナよりも稍長く且薄く、裏面に白色の軟毛を密生するを以て區別し得べし。

シラカンバ。白樺。(樺木科) 尋讀十一ノ二四、

北海道其他本州の高山に自生する落葉喬木にして高さ七八丈に達す。樹皮は白色にして層々相重なるを以て紙の如く薄く、剝離する性あり。且明瞭なる横理斑紋を有す。葉は略三角形にして鋭頭、縁邊に重鋸齒を具ふ。花は單性、早春葉に先ちて開く。

材は挽物指物の用に供し、又机卓椅子箱等の器具を作るべく、樹皮は強靱にして幅廣く薄く剝離するを以て、アイヌは之にて種々の器物を作る。又此樹皮は脂肪に富めるが故に松明となすに宜しく、又火繩を造るべし。葉は黄色の染料となすべし。

ハンノキ。赤楊。榛。(樺木科) 尋讀十ノ九、

山野に自生する落葉喬木にして高さ四五丈に達す。東京近在にては水田の畦畔に植え、落葉後稻を掛けて乾かすに利用し、或は此樹を中心として藁を積む所あり。葉は互生、橢圓形にして先端尖り、縁邊に淺鋸齒を有す。花は早春葉に先ちて開く、雄

第一五圖  
ハシノキ  
一、若き花  
及果實を  
有する枝  
イ、若き雄  
花叢  
ロ、若き雌  
花叢  
ハ、果實  
ニ、開きた  
る花及果  
實を有す  
る枝  
ニ、雄花叢  
ホ、雌花叢



花及雌花は同一の株上にあり雄花は紫褐色の柔荑花にして下垂す、長さ二三寸雌花は橢圓形にして小果實も亦橢圓形を呈し秋日成熟す。  
材は薪料に供せられ、樹皮と果實とは染料として用あり、又炭は火薬の原料に供せらるゝこと少からず。

ヤナギハシノキ。前者に

似たれども、葉は略圓形、基脚稍、心臟形を呈し、縁邊重鋸齒を成し、且支脈の數は十個内外を數ふべし。

ヤナギ(楊柳科) 尋讀一、尋讀十二ノ二八、高讀女三ノ一七、高讀男四ノ一七、尋讀二四、高讀新上ノ二九、高讀新下ノ一〇、尋讀五ノ二八、三四

果實は蒴果と稱せられ、熟すれば外方に或は螺旋狀に開裂し、微小なる種子を出す。種子は無數の細毛を具ふるを以てよく風力の爲に散布す。

此種子は種皮薄く且蛋白質に乏しきを以て、長く乾燥に堪ふること能はず、故に暫時にして發芽力を失ふ、若し人工的に良好なる情況の下に播種せば、よく一日中に發芽す。柳類の多數が無性的に容易に蕃殖するも、有性的に蕃殖すること困難なるは蓋これが爲ならん。

ネコヤナギの冬芽は赤褐色の堅き鱗片と、絹絲様の軟毛とを有し、能く寒氣に耐え且柔き内部の乾燥を防ぐに適せり。此装置は他のヤナギ類にても略同様なり。

花は單性にして雌雄別株。雄花雌花共に花被を有せず。雄花叢(柔荑花)は數多の雄花より成り、雌花は二雄蕊を具へ一片の苞腋に生ず。此苞片には無數の灰白色の軟毛を有するを以てネコヤナギの稱あり。雌花叢も亦數多の雌花より成り、雌花は一雌蕊を具へ一片の苞腋に生ず。

シダレヤナギ(楊柳科) 尋讀三ノ一九

路傍庭園に栽植せらるる、落葉喬木にして高さ三四尺、周囲四五尺に達す。枝條纖細にして地を拂ふに至るを以て頗る優雅なり。葉は線狀披針形にして縁邊に微鋸齒を有す。雌雄別株。三四月の交葉に先ちて開花す。花に萼及花瓣なく蜜腺あり。今より百五十餘年前、瑞典の植物學者リンネウス氏此植物を檢定し、學名をサリックス、

第五圖  
ドロノキ  
一、雌花を有する枝  
二、雄花を有する枝



卵形乃至長橢圓形を呈し長さ三四寸、銳頭にして鈍鋸齒を有す。花期四月、葉に先ち

パピロニカ (*Salix babylonica*) と命ぜられたるより見れば、蓋小亞細亞の原産なることを知るべし。本邦には自生品なし。

ドロノキ。白楊。

(楊柳科 高嶺新下ノ二八、)

山地に自生する落葉喬木にして幹高五六丈に達す。東北地方及北海道に多し。葉は互生、廣

て柔荑花を着く。雌雄別株。雄花叢は長さ二寸餘、雌花叢は一吋五六分なれども花後熟して七八寸に及ぶ。材はマツチの軸木及經木、眞田用材として賞用せらる。

### 第二綱 單子葉植物

一枚の子葉を有し、葉は平潤にして並行脈を有す。左の諸種を含む。

#### ランルイ(蘭類) 高讀男女三ノ一八、

蘭類とは蘭科に屬する植物の總稱にして、概ね多年生の草本なり。大形なる花を開き、形態の奇異と色彩の艶麗とは園藝家の嗜好に適し、近來温室に於て盛に熱帶蘭を培養するに至れり。花は雌雄藥着合して一柱をなし半圓柱形を呈し、先端に花粉塊ありて球狀をなす。其下部凹點は即柱頭なり。花蓋は三片よりなれる内外二層ありて、内層の一片最大にして種々なる形態を有し美なり、特に之を牌瓣と云ふ。

天然記念物として保護の必要あるものは、産地の稀なるもの又は濫採の行はるゝ地方のものにて、日光山彙の如きは危急焦眉に迫れり。傳へ聞く同地には標本店、植木屋の手先さとなりテガタチドリ、ニヨホウチドリ等を千本五圓にて請負ふ採集者ありとか、斯くては如何に豊富なる産地も、繁殖力弱き蘭類の如きは數年にして絶滅するや必せり。日光には六十種許の蘭類を産し、ミヤマチドリ、アヲキラン、ミ

第一七圖  
シヤウガ



單子葉植物

ヤマフタバラン、トラキチランの如き珍奇の特産品を有す。

高山植物中保護すべきもの枚舉に遑あらず。數年來培養熱心家各地に興り、濫採の結果學術上貴重なるものさへ絶滅に近けるもの一二に止らず、一例を舉ぐればコマクサは、以前、日本アルプスの御花島には足を踏むさへ惜しき迄に茂生せしもの、今は木曾御嶽の如き殆ど隻影を見ざるに至れり。本種は藥用を目的とするものなれば、殊更繁殖を保護せざるべからず。其他白馬岳のシナノナデシコ、シロウマチドリ、ヒメハナソラビ、ヘビノシタ、戸隠山の戸隠草、ウラジロキンバイ、ユキキンバイも同運命に陥らん有様なり。

シヤウガ。薑科 高讀女四ノ三〇、  
 普通に栽培するものにて辛味料食品として用あり。南方亞細亞の原



産ならんと云ふ。葉は長さ鞘を有し相抱擁す、葉片五寸許、頂部に集り笹の葉の如し。花は秋季根部に生じ、長さ柄ありて先端に橢圓狀の穂をなす。花は幅廣き苞間より抽出し、萼筒狀、花冠筒狀、先端三裂し反捲す、唇狀片紫色にして白點あり、舌形片左右に缺刻あり。

根莖は肥大し、肉質にして黄色、稍竹の地下莖に似たり、主として之により繁殖す。此部を食用となす。

パセヲ。(芭蕉科) 尋讀十ノ二、高讀男女二ノ二〇、高讀男女二ノ六、高讀新上ノ二五、尋地二ノ五、

パセヲは庭園に栽植せらるゝ多年生草本にして高さ二丈に達す。地下莖は短大にして直立し、短き匍枝を地中に引て繁殖す。地上莖は極めて短く通常殆どこれなきが如し。管狀をなさるる長さ葉鞘之より發す。葉は大にして長橢圓形をなし、中肋の兩側に並行脈を具へ、冬月枯凋す。花は幹の三年を歴たるものより生じ、不整齊にして帶黄色、大形の苞腋に簇生す。果實は肉質にして長し。我邦に在りては寒冷其熟期に先だちて來り遂に其成熟を見ず。觀賞用に供す。琉球には此一種イトパセヲを産す。最製絲に適す。芭蕉布を織り、船綱、細曳等を作るに用ふ。

バナナ。(芭蕉科) 高讀男女一ノ二〇、尋地一ノ三、高地二ノ六、高地三ノ二、

バナ、(甘蔗は熱帶亞細亞の原産にして高さ三十餘尺に達するものあり、全形芭



蕉に類すれど、葉縁淡紅色なると、新芽の白粉を以て被はれたるとはバナ、の特徴なり。果實は長さ四五寸、直徑凡一寸許、未熟の際は綠色にて稜ありと雖、成熟するに従ひ稜を失ひ黄色を呈す。果肉は芳香甘味、澱粉質、果實中の最優等品なり。多くは生食すれども、屢々油にて調理することあり、或は乾柿の如く皮を去りて乾燥し、或は其汁を搾取して菓子に

第一五圖  
バナ、

加へ香味を附することあり。

マニラ麻 Manila hemp. 尋地二ノ一四、高地一ノ二、  
單子葉植物

マニラ麻は現今麻ツナギとする纖維にして、真田を製し歐米に輸出す。水を得て益強靱となるを以て、夙に船綱として名あり。此等の麻を取る原植物は目下フィリッピン群島に産する芭蕉の葉柄より獲たる維管束に外ならず。此芭蕉に三種あり即 *Musa textiles*, *M. mindanensis*, *M. paradisiaca* とす。畑地に栽培し二年目に刈りて用ふ。莖は一丈以上に伸び直径四五寸に達す。葉を水中に浸せば表皮の柔軟部は腐れ落ち纖維のみを残す。之を鐵櫛にて索き平均一二メートルのものとなす。その外側のものは粗なるも、内方のものは細くして美なり。

イチハツ。(鳶尾科) 尋理五ノ一二、

屋根のムネに植う。學名 *Iris tectorum* は之に因みて屋蓋のイリスを意味す。命名者は横濱附近の原野に自生すと記すと雖之れ非なり。實は圃場の土止めに用ふるための栽培品に過ぎず。本種は支那に産すること明なれども未だ我國に自生地を見ず。且一として結實することなきは或は彼地より渡來せしには非るか。不完全なる常緑にして、葉は淡綠色白粉を粧ふ。幅廣くして一寸を越ゆ。四月上旬花開き、花莖必ず尋常葉を着く。萼は圓形にして紫色、下部中央に雞冠狀隆起ありて柄に及び、邊緣

剪裂し頗る美し、兜片廣橢圓形にして粗く尖齒を具へ、柱頭凹頭をなす。

シヤガ。(鳶尾科) 尋理五ノ一二、

山溪の蔭地に多き常綠草本にして二三尺に伸ぶ。葉は光澤強く綠色にして幅一寸内外。中春、枝を分てる花莖を抽き、小形にして數多の花を着く。黃白色にして紫色の彩暈を帯び、下部中央に一黃點ありて著し、周縁は花瓣と共に尖鋸齒を有す。花瓣は萼に似て小形、黃點なし。兜片は外縁剪裂し、柱頭平縁なり。

カキツバタ。(鳶尾科) 尋理八ノ一一、高讀男女二ノ六、高讀新下ノ一三、尋理五ノ一二、

葉は平滑大形にして、中央を走る肋脈なきを以て他種と分つこと易し。秋季まで花あり、萼片橢圓形にして圓頭、下部狹殺して長柄に終る。柄は中央に龍骨狀隆起あり、花瓣は篋狀披針形、底部狹窄す。花柱の兜片橢圓狀、柱頭平縁なり。果實は熟して開裂し、上部水平に反捲す。

アヤメ。(鳶尾科) 尋理六ノ一、尋理九ノ三、高讀男女二ノ六、高讀女四ノ一八、尋理五ノ一二、

葉は劍狀、基部紅色、中肋稍膨出すれども顯著ならずして上部は漸次不明に終る。花莖概ね葉よりも低く、二三花を頂生す。萼片は圓形、莖色、柄部は黃色を呈し中央よ

り紫線左右に分岐す。花弁は直立し長橢圓形をなす。柱頭の先端にある兜片は半圓形若しくは圓狀廣卵形なり。柱頭片は三角狀をなす。果實は長橢圓形嘴を缺く。

劍狀葉はイネ、タケ等に見る葉を左右より壓扁し中肋の上下面を引離し、更に上部の上面を除去し下面のみを二折りとなし、左右縁を合着せしめたるが如き關係にあり。基部重疊せる部の内面が上向して終る所を注意せば直に了解すべし。

ハナシヤウブ。(蕉尾科) 高讀男女二ノ六、尋理五ノ一二、

形狀天南星科の水生草本たるシヤウブに似て花美なるを以て名付くと云ふ、されどシヤウブは花細小にして花軸上に密集し、一枚の狭長なる總苞を有し、葉は薄く基部紅色を呈す。端午の節句に屋上に飾るものなれば全然別種に屬す。

本種は東亞細亞に分布し、本州中部以北に自生す。濕地に培養すれども、その原種は山地の乾地に混生す。栽培につきては變品頗る多く、三好博士の研究によれば其數四百餘種に及び、尙盛に新變種の現出を見るといふ。花瓣の濶大となり六瓣花の如きもの、各部の四數となれるもの、雌雄藥の瓣狀となれるもの、赤褐紫青白藍絞り、斑入りの混色等色彩の變化少からず、近來盛に外國に輸出す。

スネセン。(石蒜科) 尋讀六ノ一二、高讀女二ノ一四、

普く人家に栽うるも元來本邦暖地の自生品にして、東京附近にては安房國海濱にあり、多年生なる球根植物なるを以て栽培易し、古來冬季の清玩に供し、福壽草と共に梅に松に配して雅趣に富む。高さ一尺許、葉は淡綠色、左右相對して數葉を叢生す。先端鈍尖に終り、幅四分内外を算す。中心一莖を抽き五六花を繖形に着く、初め薄膜の苞一枚ありて此花序を包む。花は一寸餘の花梗を供へ側向す。子房は三稜ありて下位、花蓋は下部筒狀、上部に大瓣ありて二層をなし、各片鋭尖頭圓形、略白色を呈す。その基部に黄色盃狀の副冠ありて一異彩を放つ、その中心より雌雄藥頭を現す。地下に鱗莖あり、黑色卵狀球形をなす。磨りて乳の腫物を治するに用ふれば奇効あり。

ヤマノイモ。(薯蕷科) 尋理五ノ二八、

林野に自生す。莖は左巻きせる細き一分許纏繞莖にして縦溝ありて暗紫色、高さ一丈に達す。葉は長き心臟形にして葉柄を具へ對生す。主脈掌狀、細脈網狀。葉腋には零餘子とて腋芽の多肉となれる塊莖を生ず。地中莖は肥大し圓柱形、少しく扁壓な

り花は雌雄別株。柔荑花をなし秋熟す。一穂數十個を生じ、甚しく伸びたる三稜にして各稜は半圓形なり。乾燥して開裂し種子を吐く。種子は各室に一個を藏し、略圓形扁平褐色なる種皮伸びて柔軟薄膜となり、直徑五分内外。中央に胚を含める固き部あり、兒童はこの果實を弄ぶ。

カタクリ。百合科。高麗ニノ四、



中部の山地及北地に自生す。四月上旬、一花莖を抽きて一花を頂生し、必ず下向して開く。花蓋六個、各片は反捲す、紫色にして愛すべし、徑一寸餘あり、外花蓋片の内面基部に三尖頭の暗紫斑あり、内花蓋片にては二個の隆疣ありて子房と密接す。葉は一株必ず二片あり、葉柄長くして細し、葉片は卵狀長橢圓形、銳尖頭、黒紫色の斑紋不規則に滿

第一五九圖  
カタクリ

布す。地下に鱗莖あり、形ラムネの瓶の如き狭長卵形、一二寸許、白色なり、下部に根を着け、又下側部に前年の腐敗せる鱗莖を具ふる事常なり。鱗莖は多量の澱粉を含み食用として良し、カタクリ粉とはこの澱粉をいふ。

カタクリの澱粉は白色にして大小種々なる不整の塊片をなし、之を粉末にすれば純白となり無味無臭なり、されど市中販賣のものは馬鈴薯澱粉甘藷澱粉たること多し。而して本品は顯微鏡下に照して初めて眞偽を識別し得るのみ、今カタクリの地下鱗葉をとり薄片を作りて檢すれば、四面體の顆粒より成り、其三面は相連接して三方錐體を造り、他の一面は球面をなして膨隆せるを見るべし、又或ものは不整多角形或は橢圓狀のものありて層紋を示す、大さは〇〇〇二乃至〇〇一八ミリメートルを算す。

リウノヒゲ。百合科。高麗男女ニノ五、

林野に自生する常綠草本にして、庭園路傍の土止めとして植う。葉は幅約一分許、長さ一尺に及べる細長絲狀にして、密に叢生す。地下莖を横走し、處々に球瘤體を具ふ。莖頭左右に葉を排列し、その中央より花軸を抽き花を總狀に綴る。花は淡紫色六

片、葉群中に潜む。花後、多肉球形紺色の果實を結ぶ、小兒之を竹鐵砲の彈丸とす。

ウバユリ。(百合科) 尋讀十ノ二二、

此處に云ふはエゾウバユリ一名オホウバユリを指す、内地のウバユリに比し大なり。アイヌ名をトレップと呼ぶ。通常五尺内外に達し、二十個内外の花を着く、花はウバユリに似て小形、七八寸の花穂を成す、されど果實熟すれば一尺六七寸に伸び、莖一寸四五分に増す。地下に鱗莖を有し、卵形にして五六の多肉なる鱗片よりなり、

根の周圍に數個を着く、アイヌ人好んで食用とし、夏時盛に採集し乾して貯ふと云ふ。

ネギ。葱。(百合科)

尋讀十ノ九、高讀女三ノ二一、高讀女四ノ三〇、

支那より渡來せるものにて、元來一原種なるも園藝上には數品種に分つ、主なるもの左の如し。

第二〇圖  
ネギ



岩槻葱。白色部長からざるも甘味多く煮て柔軟なり。

千住葱。白色長さを特有の點とす、分蘖性盛なり。

一本葱。太さ最大、白色部少きも味よし。

夏葱。葉の大き細筆位、盛に叢生し、地上部を刈りて食ふ。

冬葱。花生ぜざる故根を分ち植う、冬季盛に茂る、大さ前者に同じ。

ネギは糖葉なれば澱粉の試験に適せず。

クルマユリ。(百合科) 尋讀十ノ二、

高山植物の一にして葉は兩端共に漸殺し、四五葉輪生するもの數層をなすを以て顯る。花は一個或は數個、小形、下向し、花蓋片反捲す、赤色にして下部に暗紫點を散布す。鱗莖の一片は狹橢圓形にして中央に一關節あり、以て一異彩を放つ。

ユリ。(百合科) 尋讀一、尋讀九ノ三、高讀女三ノ一九、高理一ノ一〇、

萼花瓣同質にして雄藥六個、雌藥一個、子房三室にて上位。花形大にして美なり。地下に鱗莖を生じ、丁字様葯を有する雄藥と、分裂せざる花柱、柱頭は三裂することありと、長き地上莖に數多の葉を具ふる百合科植物を總稱してユリと名づく、今二三

第二六圖  
オニユリ  
イ、珠芽



の普通種を表解せん。  
ヤマユリ。花は斜に下向し、白色大形、内面に暗紅點及刺毛突起あり山野に自生す。

オニユリ。赤黄色なる花蓋片著しく反捲す、内面暗紫點ありて下部のもの刺様なり、下向す。珠芽生じ、莖に紫黒點あり。

本種に似て花小形、珠芽なく、莖に斑點なきはコオニユリなり。

カノコユリ。白花に鮮紅の點暈並に同色の刺毛、内面基部にありて斜に下向し、反捲する事著しく屈折したるが如し、本種を赤カノコと云ひ、點及刺

毛の紅色ならざるを白カノコと云ふ、こは園藝家の稱のみ、栽培して輸出す。

テツバユリ。花は白色、長き筒形にて先端少しく巻き香し、横向に開く、六月既に花あり、米國に輸出すること多し。

ヒメユリ。花色黄又は赤、小形にして天に向ひ開く。花瓣は略水平に開展し狭し、一莖數枝を分ち、枝頭に一花を着く。

ヒラドユリ。莖の上部に數梗を出し、上向せる花を着く、上半平に開くも下半杯狀をなす。黄色、赤色或は黄赤色等あり。

スカシユリ。直立天向せる鐘狀花を開く、一莖一花を頂生するのみ、色は黄、紅、濃淡種々あり。

オモト。(百合科) 高讀男女一ノ二〇、

山中に自生し、又栽培せらる。葉は左右に重疊して生じ、幅一寸以上。葉叢の中心より花莖を抽き、數寸の穂をなし、鐘様の白花を密列す。花後、赤色の肉果を生ず。地下莖太く分岐して茂生す。

タニユリ。(百合科) 高讀男女一ノ二一、

古來鈴蘭と云ひ、又キミカゲサウとも呼ぶ、英名を *Lilly of valley* と稱し、歐米に於て詩家の推賞する處たり、近來因てタニマノヒメユリと譯す人あり、地下莖横走し、二三葉を根生し、上部卵狀橢圓形、銳尖頭にして、下部は漸次細く鞘狀鱗葉に包る、六月の初め、中心に一花莖を抽き、上部に純白の小花を着く、花梗ありて下垂し列をなす、花は六片より成れる合瓣にして鐘形、裂片少しく反捲す、花後、球形の小果を結ぶ。

辛。蘭。(燈心草科) 香譜十ノ一三、

沼澤地に叢生し、多年生なり、高さ一二尺、莖は綠色にして圓く直徑一二分、基部より枝を分ち、又短き地下莖を引きて繁茂し、一株數百莖を數ふ、尋常葉を缺如すと雖、基部に褐色なる鞘狀の(一寸許)鱗片葉を具ふ、花は上部に簇生し、花蓋片六、雄藥六個を有す、近江表を製するもの之なり、水田に栽培すれば五尺に及ぶ、丹波表亦之を用ふ、此植物の白色髓狀部を抜きて燈心とし、その皮をキガラと云ひ物を繫ぐに用ふ、備後表は石龍芻コヒコケ即キの一品瘦長なるものを原料として製す、外形前者に似て莖の高さ二三尺、よく栽培したるものは四五尺に達し、纖細なるを以て緻密にして美しき疊表及吳座を製すべし、岡山縣、廣島縣の產有名にして外國にも輸出す、その中央

にて繼ぎ織りたるものを中ツギと云ふ、疊後表はシチトウ莖、苧俗に疊後蘭又は琉球蘭と稱する莎草科植物より製す、莖三稜にして五尺を超ゆ、割りて用ふ。

ミヅアフヒ。(雨久花科) 香譜五ノ一八、

水田池沼に生じ一尺餘、根を水底に張り、基葉水面に挺出す、長き葉柄に光澤強き一二寸の圓狀心臟形葉を根生すること六七枚、又二三の披針形なる沈水葉を具ふ、九月下旬、葉柄の途中と思はるゝ所より花軸を抽く、花穂は初め苞に掩はれ伸びて圓錐狀花序をなし、十數個の紫碧色花を着く、花蓋片六、雄藥亦六、内一個大形紫色、雌藥一基、中央に座す。

ホタルグサ。(鴨跖草科) 高讀新上ノ四、

園圃に普通なる雜草にして高さ一尺許、數莖斜上し、屢單純群落をなす、莖は直徑一分内外、稍透明なり、葉は互生、葉柄は莖を抱き、葉片廣披針形なり、綠色にして數多の縦脈あり、花はハマグリハマガリの介殼の如き綠色の總苞を有し、數花を總狀に着く、萼は膜質、三片殆ど無色、脈ありて橢圓形なり、花瓣三個、内一個は萼と同質なれども、左右の二枚は大形にして藍色、圓味ありて細柄により着生す、雄藥六、その三は黃色、扁平

第一三圖  
ウキグサ



三稜狀及蝶形となり花粉を出さず、他の一は花粉を出すも形前者に類す、残り二は普通なり、雌薬一、中央にあり、花柱は絲狀先端巻く、果實は卵形熟して開裂す、栽培して花瓣より藍色の染料を造る。

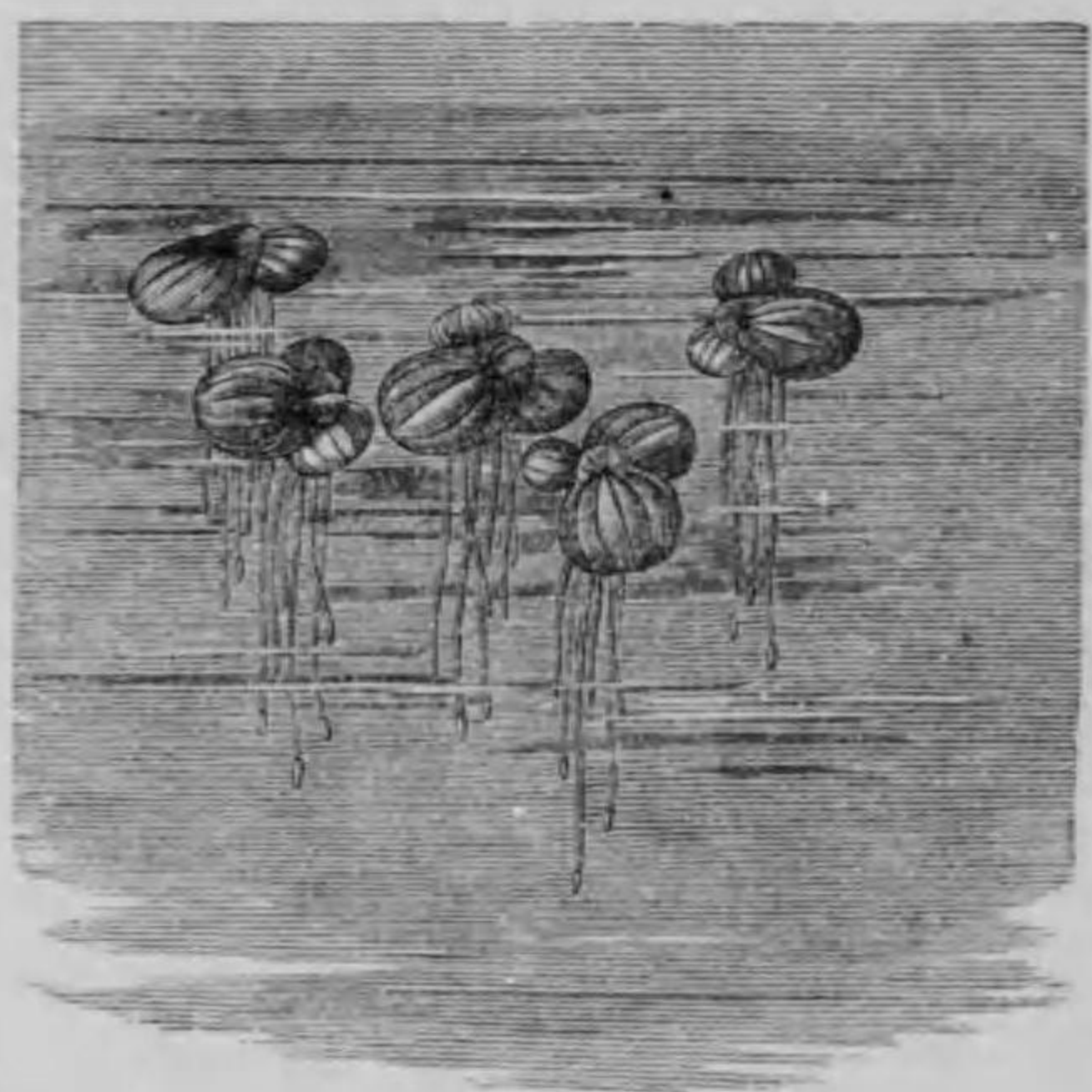
パインアップル(鳳梨科)

高讀男女一ノ二〇、高地二ノ六、高地三ノ二、

パインアップル(鳳梨)一にアナナ

地に培養せらるれども、其原産地は熱帶亞米利加なりと云ふ、葉は大形にして尖り、縁邊に鋭き大鋸齒を有し、地下莖より群生す、花は其中心より生じ多數密集す、果實は數多相集りて橢圓形又は卵形の複果を形づくり、松毬狀をなし、頂上に數個の葉を叢生す、果實は甘味酸味を兼有するのみならず、一種の香氣を發し且液汁多く甚

第一三圖  
ウキグサ



ウキグサ(浮萍科) 尋讀十ノ二、尋理五ノ八、

美味なり、此液汁はプロメリンと稱する特殊の蛋白質溶解酵素を含めるを以て食物の消化に利あり、又葉より纖維を採り之を織物及紙の原料とす。

水生植物中、浮游生活をなす一種にて、體の周縁の凹窩より枝を生じ、枝端に新體を造り繁殖盛なり、水面爲に被はれて日光の透過を妨げ、土壤冷にして稻の發育に良らず、根は先端に根帽なる囊を被りて保護せらる。

アヲウキグサ(浮萍科) 尋理五ノ一八、

多年生草本にして、一見葉の如く見ゆる體は、扁平なる莖なり、元來本科の植物は一般に尋常葉を缺如し、唯僅にウキグサ屬のもの芽に存する微小なる低出葉あるにすぎず、花は七月頃、體の陥入部に生じ、外方に幅廣き苞を具へ、雄花雌花相接して着き、一個の雄藥と一個の雌藥とを見るのみ。

單子葉植物



ウキグサ。浮草。高讀四ノ二四、

此浮草は一種の名を示すにはあらずして、浮べる草の各種の總稱と見て可ならん。

イモ。天南星科。尋讀一、高讀女二ノ六、高讀女三ノ八、高讀新上ノ三〇、

サトイモの事なり。葉は根生し、大にして底部伸び尖りて箭形をなす。稀に花を生ず。單性にして肉穂花序とて多肉の花軸の周圍に小花を密生す、而して淡黄色の筒の如き苞即佛燄を以て包圍せらる。長卵狀の球莖は褐色の大なる鱗片葉を以て被はる。纖維に富める故毛と云ふ。この球莖は節より周圍に多數の芽を生じ、各芽は營養分を貯へ先端肥大球狀となりて、次年の親芋となり繁殖に使用す、人の食用とする處のもの之なり。莖葉有毒なるを以て生食する能はず料理して毒を去る。



コンニャクイモ。蒟蒻。天南星科。高讀女一ノ二四、

葉は根生して一二枚を抜き、高さ二三尺に及び、柄上紫黒點を滿布す。葉片三乃至

第一六四圖  
サトイモ

五深裂し、各裂片羽狀に小片を着け、直徑一二尺に達す。四月、一尺餘の莖を生じ、莖頂紫黒色の佛燄苞ありて長き花軸を抱擁す。地下に扁圓形の莖ありて大さ三寸乃至五寸の直徑を有す。此地下莖を採り粉末となし糊を製す、蒟蒻糊之なり。又之より褐腐を作り食用とす、其法先外皮を去り、切りて水にて煮、後臼にて搗き粘塊となす。次に等量の石灰を加へ、二倍量の水を注ぎ混交したるものを煮沸すれば遂に膠様となる、型に詰めて製す、而して地下莖中の貯藏物質は澱粉に非ずして、 $\text{C}_2\text{H}_2\text{O}_2$ と稱し細胞膜中に存し五〇%を下らずと云ふ。本種は從來原産地不明なりしが、數年前牧野先生により薩州城山種ヶ島に自生するを證せられたり。

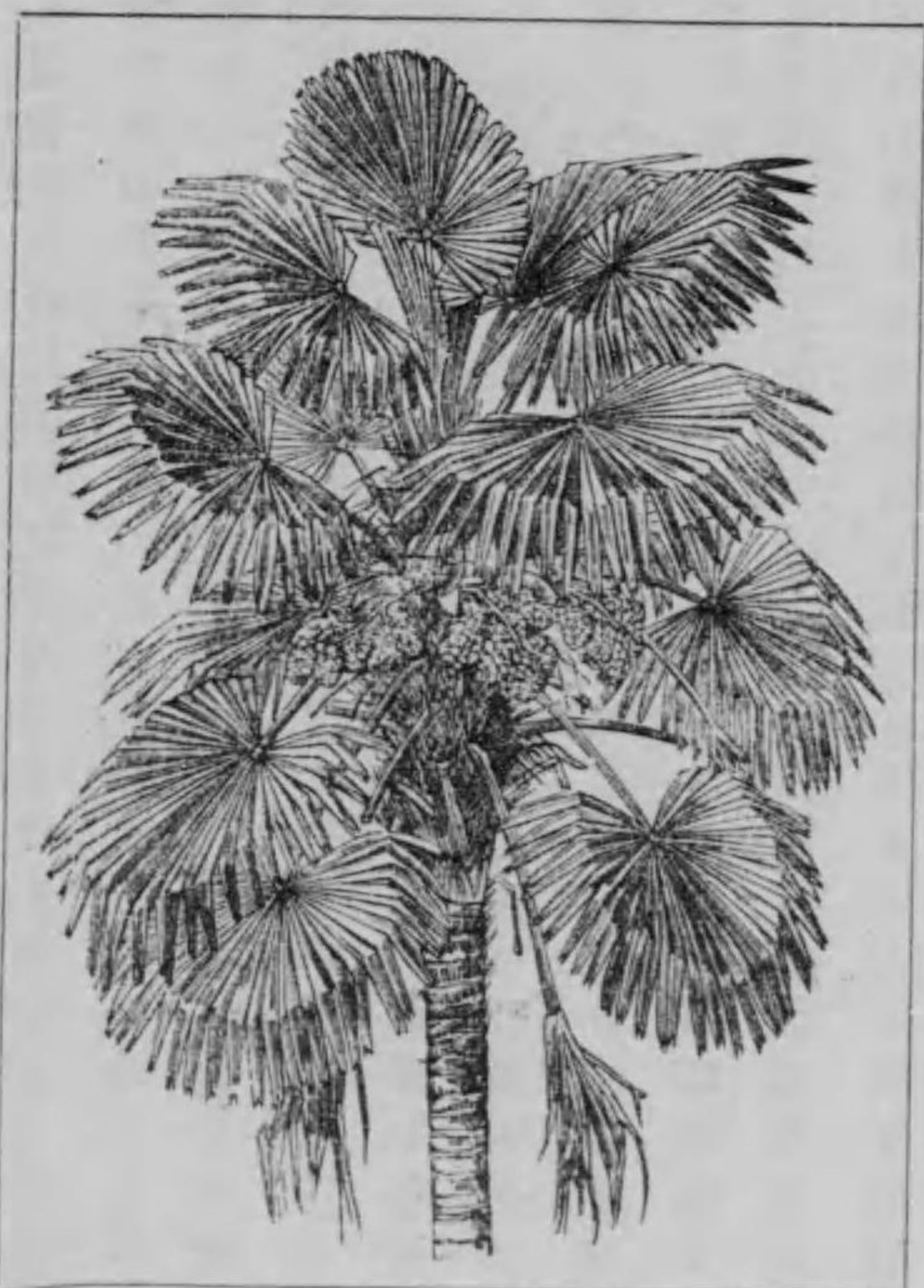
ココヤシ。古々椰子。棕櫚科。高讀男女一ノ二〇、

古々椰子は通常單に椰子と稱するものなり。熱帶亞細亞地方に於て最普通に栽培せらるゝ種にして、印度馬來地方には屢大森林をなせるを見るべし。莖幹は直生分枝する事なく、七八十尺の高さに達す。葉は大形羽狀複葉にして幹の上部に密生す。花は單性、雌雄同株。果實は長形にして三稜を有し、長さ八九寸、徑四五寸あり。年々一樹の産する果實は百顆乃至百五十顆を下らず、該植物は熱帶地方の土人に最重

要にして、其木材は堅牢美麗なれば建築其他の用に供せられ、又樹液は多量の澱粉を含むにより酒を醸すに用ひられ、葉は屋根を葺くに用ひらる。果皮の外圍より採りたる纖維は強靱にして綱具其他に適す。此内圍に堅き胚乳ありて多量の油を含む。此油を蠟燭及石鹼の原料となし又薬用に供す。堅き胚乳の内部には乳様の汁液あり、これ土人の重要な食物なり。

シユロ。椶櫚科(高讀女二ノ一四、)

第一五圖  
シユロ



シユロは琉球、臺灣等の暖地に多生する常緑喬木なり。一幹直立、高さ三四十尺に達す。幹は全部褐色の長き剛毛を生ぜる古き葉鞘にて包まらる。葉は大形にして掌狀に分

裂し、長き葉柄を有し、莖の頂端に叢生す。葉片と葉柄とは共に硬靱にして光澤あり。雌雄別株。夏日、葉間より肉穂花序を抽出し、再三分枝して細花を著け、大形黄色の苞によりて包まる。花は黄色にして細粒狀をなし、恰魚鱗に類似す。果實は漿果、黒褐色、豆大なり。材を床柱或は小器具の材となす。葉鞘の毛をシユロの毛と呼び、強靱にして水濕に堪ゆるが故に繩索を作り、席に織り、又刷子、箒、拭となす。又此植物を觀賞用として栽培す。

トウ。籐(棕櫚科) 高讀一ノ一、

トウ(省籐)は常緑木にして長さ數百尺に達す。莖は細長蔓生するが故に、他の同科植物と頗る其趣を異にす。葉は大形、羽狀複葉にして多數の小葉より成り、中軸の尖端は延びて長き蔓の如くなり、數多の刺を具へ、これに倚りて他の大木に懸る。莖の下部の葉は悉く脱落して唯上部のみ絶えず新葉を生ずるの特性あり。此類には種類多く、印度、瓜哇、及他の熱帶深林中に産す。我臺灣にも一種を産す。莖は柔靱なるが故に、多く寢臺、椅子、敷物、籠、其他の家具等を編成し、應用頗る廣し。

ナツメヤシ。棗椰子(棕櫚科) 高讀男女二ノ二〇、

棗椰子は、近來戰捷草又は戰捷木と稱す。亞弗利加の北部亞細亞の西南部の地域に自生せる常綠喬木にして、高さ百尺乃至百二十尺に達することあり。葉は羽狀複葉にして一丈に及び幹の頂上に叢生す。雌雄別株。花は碗狀にして三個の花弁を具ふ。雌花は花瓣覆瓦狀を呈し、内に三個の子房を備ふ。此三個の子房中二個は發達することなく一個のみ成熟するを常とす。果實は核果、黃褐色、橢圓形、長さ一寸乃至三寸、外見我邦の棗に類す。果肉は美味にして食ふべし。幹より浸出する液汁より砂糖を製し、又一種の酒を醸す。材は建築用燃料に供す。葉は編みて籠に製し、帽子を作り又箒を作る等一として不用の部分なき樹木なり。又此植物の葉を月桂樹の枝と等しく戰捷及其他の祝意を表する時に用ゆ。

カヤツリゲサ。(莎草科)

夏秋の候、原野に普通にして高さ一尺乃至二尺餘、一根より數莖を岐出して叢生す。葉は線形、狹長にして莖の周圍に三列をなし、一尺餘に及ぶ。基部鞘は筒となりて莖を包む。莖は三稜ありて中實なり。上部に三四の葉を生じ、此處に細枝を分ち花穂を着く。花穂は分枝し多數の小穂を羽狀に着く。小穂は扁平、黃褐色にして長さ三分

第一六圖  
カヤツリゲサ



餘穎は二列し、綠色の脊脈あり、鈍頭にして小尖刺を有す、以て近似種と區別し得べし。

スゲ。カサスゲ。(莎草科)

尋讀九ノ一五、

菅笠を作るに用ひらる。即葉を絲にて縫ひ合せ、周縁と縦横に竹を添えたるものなり。カサスゲは普通池溝水邊に自生す、高さ三尺許に至り、地下莖を引きて叢生す。葉は稍硬く幅四分内外、邊縁小齒あり。夏季一莖を抽き三稜を有す、頂部一個の雄花穂と四五個の雌花穂とを着く。

カウリヤウ。高粱。(禾本科)

高粱は印度支那殊に滿洲地方に盛に栽培せらる、草本にして、我邦にてはモロ

コシ又タウキビ(蜀黍)と稱す。莖葉共に玉蜀黍に似て、丈凡八九尺、莖の頂上に雌雄葉を具ふる多くの花を穂状に綴る。高粱は輕鬆にして肥沃なる深き壤土を好み、旱魃に堪ゆるの性あり、品種には粘氣あるを糯といひ、粘氣なきものを粳と云ふ、又穂の彎曲して下垂するを雁首蜀黍と云ひ、莖に甘味を多く含むものを支那蘆粟と云ひ、之にて砂糖を製す。種子は飯となし、又團子・餅に製し、支那にては酒を醸す。

サタウキビ。甘蔗。(禾本科)

學讀六ノ一六、高讀一ノ五、高讀新上ノ二四、高理二ノ四、尋地一ノ三、尋地二ノ四、五、一四、高地一ノ二、高地二ノ六、高地三ノ二、

甘蔗は熱帶亞細亞原産の宿根植物にして、高さ凡十尺に達す。其形狀頗る玉蜀黍に似たり、これサタウキビの名を得たる所以なり。葉はスキに似て長く幅六分乃至一寸餘、葉鞘は莖を包めり、莖は殆ど竹幹状にして稍柔靱なり。髓心は多漿にして糖分に富む、即此髓部の漿液を搾取して砂糖を採取す。又熱帶地方にありては往々稈頭より花梗を抽出し開花結實することあれど、温帶地方に於ては決して花を見ることなし。世界に於ける甘蔗糖の總産額は、約三百萬噸にして、其約四分の一は瓜哇に産出し、キウバ、布哇、北米合衆國及南米諸國之に次で産出す。甘蔗より砂糖を製するには、莖を壓搾して汁液を搾出するにあり、初めに生じたるを白下糖と云ひ、之

第一七圖

- 一、タウモ
- 二、キビ
- 三、アハ
- 四、モロコ
- 五、オト



單子葉植物

より蜜を分離したるものを白糖と云ふ。普通生莖百貫目より、白下糖六貫乃至十貫を得可く、白下糖十貫より三四貫の白糖を得べし。

タウモロコシ。(禾本科)

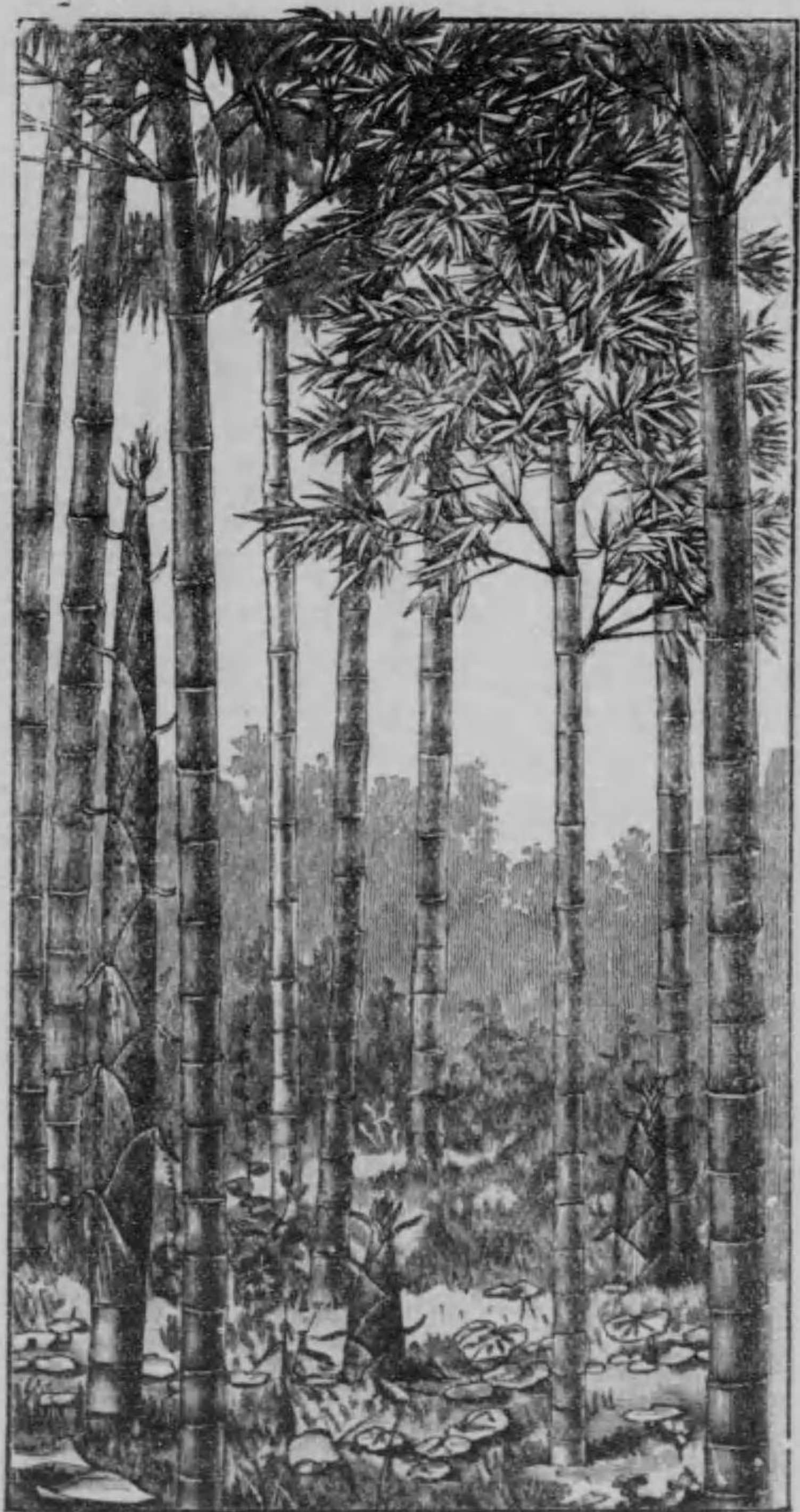
尋地二ノ一六、高地一ノ五、高地三ノ一〇、

タウモロコシ(玉蜀黍)は一名ナンバンキビ。カウライキビと稱し、メキシコ原産の植物なり。一年生草にして高さ七八尺に達す。葉は大なる披針形にして並行脈を有す。花は單性、雌雄同株。雌花は穂状花序に排列し、大形の苞にて包まれ、長き毛状の花柱を出す。果實は未熟の際、焙食し又飯となす。又米國にてはウキスキーを醸し、又家畜の飼料とす。現今旺に之を栽培するは米國にして年産額大約六億石に近しと云ふ。我國にて

産額の稍多きは山梨縣及北海道なり。

タケ。(禾本科) 尋讀一、尋讀三ノ一、尋讀四ノ一九、尋讀八ノ二、尋讀十ノ二、尋讀十一ノ九、尋讀五ノ六

タケとは丈高き植物の意にて高きの轉なりとは貝原翁の説く所なり、古人はシ  
ユロ等と共に苞木類なる名稱に一括し、喬木、灌木等と區別せり、これ籜を以て被包



するに因る竹は東洋の特産にして人類日常の用途廣きこと恐らくは之に過ぐるものなから

第一六圖  
モウソウチ  
クの筍の生  
長

ん、ナシヨナルリ、ダー五に竹の章あり、彼の英國博物學者ウオレ、リス氏の草する所にして、如何に眼慣れざる歐洲人に多大の注意を拂はしめ、又無量の好奇心を誘起せしめたるは、明に竹の特異の性狀と利用の道多方面なるとに因るなり、即莖は中空にして節あり、質硬きは珪酸に富むを以てなり、斯の如き莖を竿又は稗と云ふ、地下莖より生じたる腋芽は上向して土中より出づ、之を筍と云ひ、即地上莖の幼少なるものなり、葉片著しく退化せる葉は必ず左右二列に着生し、重疊して外より包む、その發生の期は種により毎年一定す、孟宗竹は五月上旬、中旬にハチク出で、六月に及んでマダケ盛なり、野菜として市場に出す、味甚佳なり、筍は生長非常に速にして能く一晝夜に二尺六七寸に延長するも、太さに至りては始終差なし、長く地上に出づれば籜自ら離脱し、此部に輪狀の葉痕を残す、これ節なり、新しき稗の表面に白粉を布くは、表皮より分泌せし蠟にして、虫害、風雨の害を防ぐに効あり、クレ竹とはマダケ即シノダケのことなりと云ふ。

竹類中、天然記念物として保護の必要あるは、各種の斑竹なる名あるものにて、中にも重要なものを列記せん。

第一充圖  
竹の花



我邦は竹の種類に富み、今日學名を有するもの五十餘種ありと云ふ。

マダケ。(禾本科) 尋理五ノ六、

マダケは其葉中形にて質稍厚く、四五寸の長さ五五分許の幅あり、葉鞘の口縁には鬚毛七八本を生ず。

ハチク。(禾本科) 尋理五ノ六、

ハチクは葉の裏面白味少く、筍の皮には斑紋なく無毛、全部淡紫褐色なり。

マウソウチク。(禾本科) 尋理五ノ六、

葉は小形、二寸五分に三分内外あり、薄質柔靱にして鬚毛なし。

メダケ。(禾本科) 尋理五ノ六、

メダケは山野に自生し、枝は節に叢生す、葉は長大にして葉脚鈍尖なり、桿に溝道を缺如し、籜永存し、基部に環ありて固し。

尋理十一、三九頁。臺灣に産する直径一尺以上のものとは蓋藤竹なり、節間一尋位あり、筍は食用とし味佳なり。又紙を製するにも用ふ。

シマザサ。(禾本科) 高麗男女二ノ五、

東京上野公園なる動物園内に、リウノヒゲと混生する竹はクマザサなり。此竹は庭園に植えられ矮短なる形貌となる、コクマザサなるもの即此一品なり。後者は高さ一尺内外なるも、前者には三四尺に及ぶものを見る。葉は大形にて一枝頭五六枚を射出し、長橢圓形、鋭尖頭をなし、葉脚圓くして小柄に移り伸ぶ、質稍厚く、上面緑色、下面白色を帯ぶ、長さ六七寸幅二寸内外、葉脈格子形を現す、葉鞘は剛毛を被り、摩すれば手を痛む。秋冬の候、葉縁三分位宛枯れて白色となる。これシマザサの稱ある所以ならん。地下莖横走し、稈直立叢生す、上部に枝を分ち或は分たず、太さ凡二分内外、

圓柱狀なり、古き白色の籜にて包る。

ツバナ。(禾本科) 尋理五ノ二八、

チガヤの穂を云ふ、チガヤは山野に自生し一尺乃至四尺に及ぶ、地下莖白色甘味、横走し叢生して厭ふべき雜草なり、葉は根生し、幅五分内外線狀倒卵形にして狭長なり、四月頃、花莖を抽くこと一二尺、小穂先端に複總狀花序に着き穂をなす、小穂の柄部並に穎より絹絲狀の長毛を密生す、之に依り風力を借り飛散す、若き穂は兒童取りて食ふ、花後、長大の葉を生ず、籜を製すべし。

アシ。オギ。蘆荻。(禾本科) 高讀女四ノ一〇、

蘆。和名アシ又はヨシと云ひ、莖稈にて簧を造る。水邊に叢生し、高七八尺に達す。葉は長卵形淡綠色、鋭尖頭、長さ一尺内外幅一寸四五分、地下莖を引き繁殖す、花は秋季一尺内外の穂を抽き、穎は長大褐色にして無毛なり、稈は芒伸びて白毛に圍まる。荻。和名オギにてス、キに酷似す、即莖の下部より出づる葉は、左右に重り斜上向す、長さ二尺内外、狭長にして六七分、中肋上面に溝をなす、秋日、一尺以上の花穂を出し、橢圓狀に擴り、稈は芒を缺如し、長毛を有す、穎亦毛を密生し、稈の三倍の長さ

達す、凡て毛は純白絹絲光澤を有し他種に比し壯觀なり、水邊に多し。

カルカヤ。(禾本科) 尋讀八ノ一一、

山野陽處の乾地に生ずる宿根草にして草丈二三尺、葉は細長なり、莖は硬く、上部の葉腋に葉と同色なる紫褐色の垂下せる小穂を着く、穎は扁壓鋭尖、長大にして小穂全部を包み、長芒を具ふ、根よりタハシを造る、一名メカルカヤと云ふ。

アハ。(禾本科) 尋讀十ノ二二、高讀男女四ノ一五、高讀女一ノ二三、高地三ノ二、

小穂密集して圓筒狀をなす、而して小穂は一個の花より成り、剛毛の苞にて保護せられ、成熟して苞を残す、穎は小穂の兩側にあり、果實は球形黄色なり。

ヒエ。稗。(禾本科) 尋讀十ノ二二、

小穂は一個の花より成り、密集して長圓筒形の穂をなす、果實は緑灰色光澤強し。

カラスムキ。燕麥。(禾本科) 尋讀十一ノ二四、

マガラス麥又はオート麥(〇)と云ふ、高さ五尺内外に伸び、草狀大麥に類す、穂は一尺餘の圓錐花序を成し、小穂は二個の花を有し、内一個のみ芒を具ふ、六月上旬熟す。

燕麥は現今瑞典、挪威、蘇格蘭土の北部、獨逸の山間部に於て常食に供す。其挽き割りたるものをオートミール *Out meal* と稱し、之にて粥を造り食することは西洋各國に行はる。燕麥は人の食物として用ひらるゝと雖、其主要なる用途は家畜の飼料にあり、殊に馬及犢牛の飼料として貴重す。之れ主として味佳良にして養分に富み、且消化し易きに由るものゝ如し。從來其子實の皮にアベニン *Avoin* なるものを含み、これが刺戟作用に依ると稱せらる。我國にては北海道、東北地方及其他の牧場に栽培すれども其産額未だ大ならず。

## イネ。稻。(禾本科)

尋讀一、尋讀四ノ一、尋讀六ノ三、五、尋讀七ノ三、尋讀九ノ二〇、尋讀十一ノ八、二四、高讀男女ノ二八、高讀新上ノ二五、高讀新下ノ九、一〇、尋讀五ノ二一、三二、高地二ノ六、

イネとは生き根即生命の根源を意味すと云ふも、その印度語たるウール、ウルイ、ネバリ、ネルー等の方言よりウルシネとなり漸次轉訛せしものなるべし、英語の *Rice* は埃及語の *Arhus*、又 *Arhus* より來れるならん。

稻は二分して陸稻、水稻とす、後者は水田に栽培するを云ひ、前者は畑に蒔くものを指す。二毛作とは冬季水田に麥を栽培し、夏季稻を植うるを謂ふ。本邦にては四國、九州の南部及琉球、臺灣にては一年間二回の收穫を見る、此方には熟せる稻あると

思へば、彼方にては幼苗盛に生育して日ならず田植の始らんとする狀を呈し、寒地人には一奇觀を呈すと云ふ。陸稻は五月種子を麥畦の間に下し、十月初め之を刈り取る、味劣るを以て價低しと雖、收穫多く又粟、荳類に比すれば收入頗る多きを以て近來競ふて栽培するに至れり。

米は又粘着性の多少により糯と粳とに分つ、糯は子粒白色不透明にして粘力非常に強きを以て、粳の角質透明なると一見して區別し得。

南京米と稱し内地に輸入するものは、主として印度、ラングーン、臺灣、南清地方に産するものにて、その臭氣は病蟲害豫防のため石油を注ぐがためなり。

米は飯となす外、糝として甘酒、日本酒、白味噌を製し、菓子原料とす。魚油にて汚せる衣服は米を噛みて着くれば落つ。漆器、金銀箔の上、短冊、色紙等に墨の乗り悪しきときはモチゴメの粉末を墨汁に加ふべし。薬用としては米の煎汁を下痢止赤痢コレラ病の收斂劑として用ふるを得。

稗即藁は繩、草鞋、草履、蓆、蓆、俵等を造り、又肥料とし、保存用となす、時に半紙を製す、其他枚舉に堪えず。



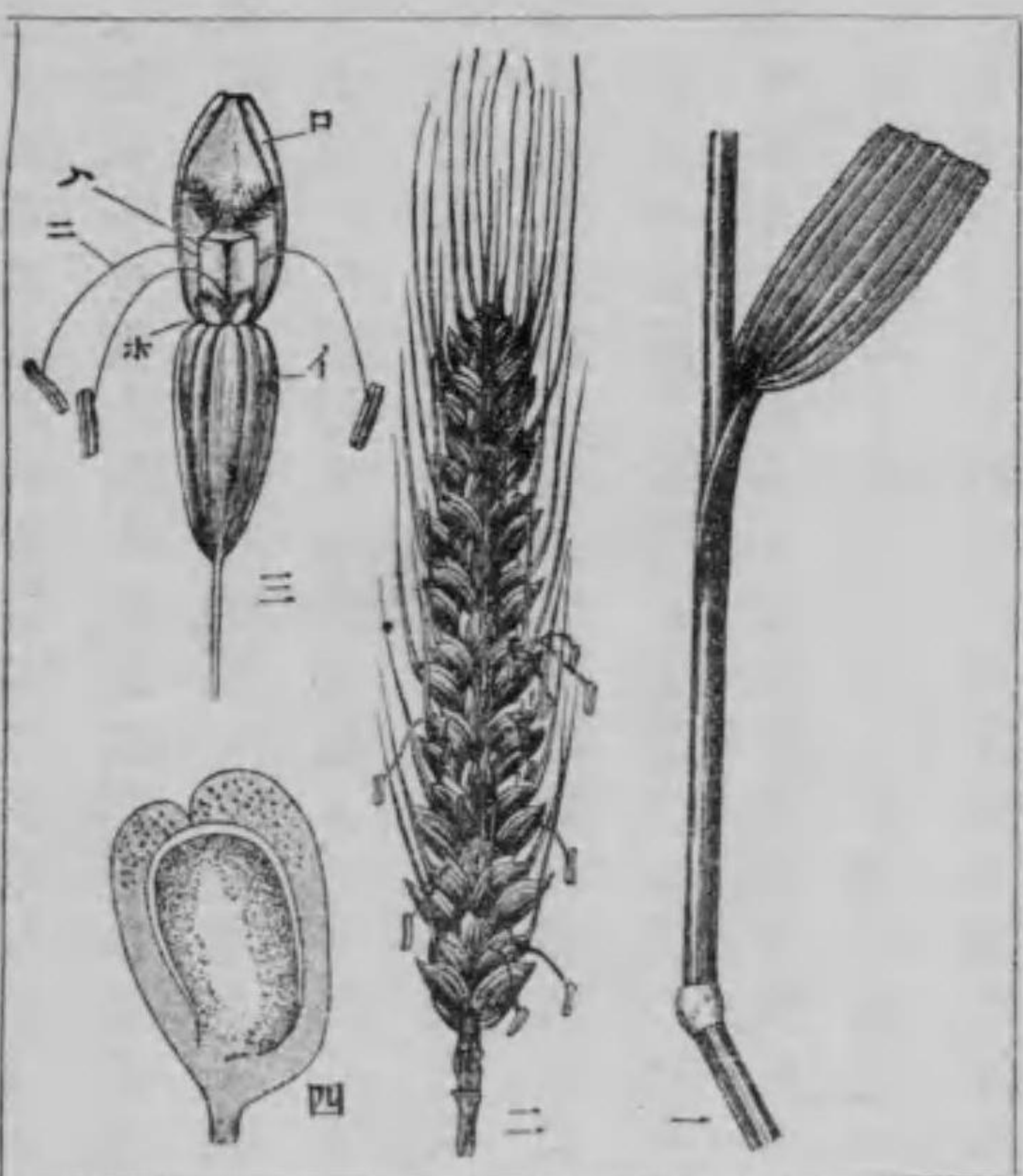
ムギ。麥。(禾本科)

尋讀一、尋讀三ノ六、尋讀四ノ一〇、尋讀七ノ三、尋讀八ノ七、尋讀九ノ三、尋讀十ノ九、尋讀十二ノ一二、一三、高讀女一ノ二三、二四、高讀新上ノ四、高讀新下ノ二七、尋理五ノ七、尋地一ノ一、二、尋地二ノ一〇、一四、一五、一七、高地一ノ一、三、高地二ノ六、高地三ノ二、

麥とは和語「ムク」の轉なり、皮をひきて食用となす故なり、裸麥をムギヤスと稱するは能く此理を示せり、單に麥と云へば麥類の總名なるも、時に大麥のみを指すことあり、大麥とは麥粒の大なるより名付けしものにして、其原産地は西亞細亞なるシナイ山の附近に自生したるもの如し。

麥は飯に炊ぎ味、醬油及ビールの原料(ヤバネムギ)となし、或はモヤシとして飴を製し、甘酒を造り、又藥用に供する等枚舉するに堪えず、稈は麥藁として夏帽子を造り、又彩色を施して日用品、玩具等を製す、麥笛とは稈を短く切

第一九圖  
コムギ  
一、莖葉  
二、穂  
三、花  
イ、外殼  
ロ、内殼  
ハ、雌蕊  
ニ、雄蕊  
ホ、鱗被  
四、幼き子房の縦斷



りて笛の如く吹き鳴らすを云ふ。

關西地方にては裸麥を以て大麥となし栽培すれども、眞の大麥即カハムギは栽培すること殆どなしと云ふ。

オホムギ(禾本科) 尋讀四ノ一〇、尋讀十一ノ二四、尋理五ノ七、高理二ノ八、高地三ノ二、

小穂(蠡花)は一個の花より成り、普通、花軸上六條に排列す、栽培變種には四條又は二條に排列するものあり、穎は刺状をなし、稈と果實とは容易に分離せず。

ハダカムギ。裸麥。(禾本科) 尋讀十一ノ二四、尋理五ノ七、高地三ノ二、

形態大麥と區別し難し、唯稈と果實とは極めて離れ易き點異なるのみ、芒を有するものもあり。

コムギ。小麥。(禾本科) 尋讀四ノ一〇、尋讀十一ノ二四、高讀女三ノ二一、高讀新下ノ一〇、尋理五ノ七、高理二ノ四、尋地二ノ一六、高地一ノ二、三、五、六、高地三ノ二、

小穂(蠡花)は四五個の花より成り、花軸上左右に排列す、果實は稈(内外殼)と離れ易し。

シバ。(禾本科)

路傍原野に普通なる雜草にして、屢堤防等の土砂扞止用として植う、莖は質硬く

單子葉植物

繊細、直徑一分に満たず、地表を匍匐し盛に枝を分ちて蔓延す、幼枝は針状をなし皮膚を傷く、節間一寸内外、葉は狭披針形、直立せる枝頭に生じ、地上三四寸に伸ぶ、夏季、枝頂より花穂を抽出し穂状をなす、穂は直立し一寸許、密集せる小穂は各一花より成り、殆ど柄なし、花は帯紫色、長卵形をなし、穎は唯一個を供ふるのみにて稈よりも長く超出し、平滑にして質硬し。

キビ。(禾本科) 高讀女一ノ二四、高讀新三上ノ二四、

培養せらるゝ穀類の一種にして草丈三尺許、全體淡綠色を呈す、葉は毛茸に富む、籼花は球形にして穎はその兩側に着き、三個の雄藥を具へ、長柄を有して美事なる圓錐花序を形成す、果實も球形にして黄色を呈す、因てキミと名づく、粘性の多少により糯稔の別あり、寒暑に堪え地味を選ぶ事少し、原産地ヒマラヤ山上にありては一萬尺以上の地點に自生すと云ふ、菓子、團子、酒を製す。

ヲバナ。(禾本科) 高讀男女一ノ一、高讀新下ノ六、

ヲバナとはス、キの穂を云ふ、秋の七草の一にして多年生の地下莖を有し、春、新芽を叢生し、九月花を着く、葉は幅四五分あり、花軸は指狀に分岐し、小穂に芒を具ふ、

小穂の下部に白色の長毛を生じ、花穂爲に白色を呈す、秋冬の候、刈りて屋根を葺くに用ふ。

クロモ。(水鼈科) 尋理五ノ一八、高理一ノ九、

葉は三乃至五枚を輪生する線狀倒卵形にして長さ四五分、全縁なり、莖は直徑約一分許、老ゆれば切れて漂ふ、地下莖横走し盛に繁殖す、花は單性、雌雄同株なり、雌花は莖の先端に近く生じ、長梗により水面上に開く、雄花は下方葉腋に着き、柄なく球瘤に似て輪生し、瘤破れて後水面に浮び、花被開きて雄藥を現す。

セキシヤウモ。(水鼈科) 尋理五ノ一八、

草狀濕地に植うる石菖に酷似す、長さ一二尺、水流に随ひ横臥す、葉は幅三分許、質柔軟にして長方形の區劃明なり、地下莖横走す、雌雄別株にして雄株は稀なり、全世界一屬一種と稱すれども、本邦産は少しく歐洲のもの異なる。

クワヤ。(澤瀉科) 尋理五ノ一八、

支那より渡來せる栽培水草にして、球莖を食用となす、草丈三四尺に及び、花を生ずること極めて稀なり、葉は箭形にして肥大す、而して球莖は近似種たるオモダカ。

アギナシと區別し得る標徴を具備す、即本種にありてはその鱗片葉大にして銳頭をなし、殆ど全部を被包す。オモダカにありては大き指頭、大小鱗片葉を有す。アギナシは球莖葉腋に多數簇生し、小形不整なり。

ヒルムシロ。(眼子菜科) 尋理五ノ一八、

水面に笹の葉に似て短く廣き形の光澤強き綠色の葉を浮ぶるもの即本種なり。根は水底にありて固着し、長さ分岐の莖を生じ、それより頗る長き葉柄を伸し、葉の裏面と共に紫色を呈す。繁茂甚しく水面爲に掩はるゝ事あり。夏季、花を葉腋に生じ水面上に抽出す、長さ二寸許の穂にして淡褐色なり。

エビモ。(眼子菜科) 尋理五ノ一八、

池溝に最普通にして沈生す、長さ一二尺。根は泥中に入り、莖は扁平分枝して茂る。葉は幅二分許長さ一寸餘、線形にして互生す、縁邊波狀に皺縮すること顯著にして能く他種と區別するを得、又微鋸齒を認む。花は先端に腋生し、花軸の上部に疎生せる穂をなす、淡黄褐色なり。

アダン。(阿旦)。(榮蘭科) 高地二ノ六、

林投樹の變種なり。本邦にては琉球に産す。常綠樹にして大なる氣根を生じ高さ一丈五尺餘に達す。形態林投樹に酷似すれども葉の下部にのみ短小なる刺を生ずるを以て識別し得べし。花は小形、單性にして雌雄別株。果實は核果にして紅熟す。核果の皮と肉とを除き去りて纖維の着きたるものを毛筆の代用となすことあり。支那人はこれを木毛毫と稱し俗にアダンプデと呼べり。

ガマ。(香蒲科) 尋理四ノ一八、高讀女一ノ二六、

池沼の濕地に生じ、長さ根莖は横走し、白色にして圓く強韌なり。地上に尋常葉を出す、葉は二列に相重り生じ、線形にして内面凹み、横断面半月形なり、長さ三四尺、淡綠色を帶ぶ。花は夏季、葉の中央より挺出せる花莖の上部に着き、雌雄花序を異にす。雄花序は頂生す、雌花序はその下部に連り圓柱狀に膨大せる褐色の部を形成す、その表面恰ピラウドの如し、之れ微細なる花の集合堅密なるためにして、子房柄に密生せる毛の重疊せるによるなり。

## 第二門 裸子植物

胚珠は裸出す。左の三綱あり。

- 第一綱 松柏類。葉は針狀又は鱗狀をなす。
- 第二綱 公孫樹類。葉は扇狀をなす。
- 第三綱 蘇鐵類。葉は羽狀をなす。

### マツ。松。

(松杉科) 尋讀一、尋讀二ノ一、二、三、尋讀三ノ二、尋讀四ノ一、二、三、尋讀六ノ一、二、三、尋讀八ノ二、三、尋讀十ノ四、尋讀十一ノ九、高讀一ノ二〇、尋讀男女二ノ六、高讀男女三ノ二、高讀男女四ノ一、五、一七、二四、高讀女一ノ二、三、高讀新下ノ一〇、一三、二七、尋讀五ノ五、二八、三三、高讀一ノ一、二、一三、高地二ノ六、高地三ノ五、

マツとはタモツの上略にて、モはマと音便にて變ぜしものなりと云ふ。蓋松屬 Pinus の總稱なり。地球上分布の大なるものにしてアメリカ・ヨーロッパに亘ると雖、主として赤道以北に見る。松栢類中木質の果實と心皮間に潜伏せる種子を生ずるを以て一位科と異る。

心皮は開展して囊をなさず、胚珠爲に裸出す。二枚の内方のものを果鱗と云ひ、外方に位するを苞鱗と稱す。雌花熟して毬果又は鱗果と名づく。葉は針葉と鱗片葉と。の二種ありて後者は新梢の表面に見る狭長なる薄片にして、赤松にては赤褐色、黒松にては灰白色を呈し、外方に反捲し或は樹脂を以て粘着せらる。此鱗葉の葉腋より出づるものは即短枝にして、基部に褐色鱗片葉十餘枚集合して鞘となりて包む。短枝の上部より二、三、五の針葉を生ず。

松は世界に七十餘種を産し、本邦産亦十種を超ゆ。北海道の霜降五葉、高山性の姫小松、這松は五葉束生し、琉球松、臺灣赤松は二葉にして前者は小形なる果實により、後者は細長なる葉に於て他と分つ。盆栽として用ひらるゝヒマラヤ松あり同名山脈に産し、三葉を束生し甚長くして一尺餘に達す。樹姿赤松の如く葉も亦柔軟にして下垂し頗る趣あり。

### クロマツ。松。杉科。尋讀五ノ五、

樹皮黒色を帯ぶるを以て此名あり。分布區域東北地方を限度として西南に亘り九州に終る。好んで海岸地方に旺盛なる發育をなし、内地に進み海洋の影響減少するに隨ひて影を没す。赤松に比し稍長大となると云ふ。尋讀三ノ二に見るものは即本種の景觀なり。葉は赤松に比し稍太く硬くして濃綠色を呈し三年乃至五年の

後脱落す。三個の樹脂管を具ふ。果實の鱗片は背面暗紫黑色なるを以て、赤松の暗紅色なると異り、且種子の翅色彼の淡褐なるに反し、鮮褐色にして褐條線顯著なり。近來アイマツと稱し、赤松・黒松の中間種ありて成育殊に宜しとて造林に用ふ。

アカマツ。(松杉科) 高讀女四ノ九、尋理五ノ五、

葉は短枝に二本發育し全體柔軟なり、三年目に至り脱落す、半圓柱狀にして四個の樹脂管ありて表皮に接す。花期五月中旬、果實は翌年十月頃熟して下向す。長さ一寸五分徑一寸許、生長速にして四五十年にして徑一尺以上高さ四十尺、大なるは徑五尺高さ百尺以上にも及ぶ。樹皮面(木栓層)赤褐色にして龜甲狀に剝裂す。主として海岸に遠き地方に産し、九州より北海道に及び、本邦産針葉樹中分布區域の最廣大なるものにして能く陽向の乾燥せる瘠地に生育す。

ゴエフマツ。(松杉科) 尋理五ノ五、高讀三ノ五、

庭園樹として古來培養せらる。葉は五個宛短枝に束生し、各葉三角柱體をなし、相互接する内方二面は常に白粉を蒙るを著しとす、少しく硬く眞直に伸ぶ。樹皮は暗褐色を呈し、長さ三四寸幅一寸内外の鱗片に剝落す。花期五月、長橢圓形の鱗果を結ぶ。

鱗片の數三十個内外より成り外反すること少し。材は白色にして建築器具に用ふ。

テウセンマツ。(松杉科) 高地二ノ六、

内地の高山及朝鮮に生じ、園樹として庭に植う、生長迅速にして長大となれるもの多し。葉は短枝上五葉宛束生す、その基部の鱗片葉は七八分に伸び嫩葉を保護すれども終に落つ。針葉は三稜針形にて外側面綠色深く、内兩側は白條ありて灰綠色を呈す、長さ三寸内外を算す。花は概ね異なる新梢に生じて赤松等と同じからず。果實は圓錐形長さ五寸許直徑二寸以上、五分内外の果柄により枝上に着く。種子は大にして長さ五分徑三分許、稜條あり暗紫色を呈す、食用とし菓子を製す。

タウヒ。(松杉科) 高讀二ノ三、

葉は針狀にて先端急に尖り鎗穂形なし、裏面白し、葉面中央の隆起顯著にして下面は僅に高し、長さ四五分幅四五厘あり。果實は枝頭に着き長さ二寸餘に及ぶ。花は雌雄同株、六月中旬を以て開く、本州中央山脈高さ四千尺乃至七千尺の間に多く、樹高八十尺徑二尺に達す。樹皮暗褐色にして薄き鱗片となり落つ。材質軽くして軟く、

心材紅色を帯び他は純白色なり、春秋材明に分たれ樹脂管を具ふ、建築・細工器具材として貴ばれ、剥ぎて篩蒸籠に製し又製紙の原料とす。

シラベ。(松杉科)高嶺二ノ三、

葉は扁平にして針形、上面中央に凹溝あり、先端凹頭なることツガの如し、長さ七八分幅六七厘あり、下面中央に隆條ありてその左右白色を呈す。花は六月開き、雌雄同株、果實は腋生し藍青色にして長さ二寸に及ぶ。本種は本邦寒帯林の代表樹にして本州中央山脈五千尺以上の高所にありては殆ど産せざる所なし、高さ七十尺直徑二尺に達し、枝極水平車輪狀に着き、樹皮灰白色なるを以て著しく目に映ず。材は淡黄白色、輕軟にして全體一樣に年輪不明なり。樹脂管を存せず。割きて薄片となし易く細工に適す、製紙の良材にして材積に富む。

ネズコ。(松杉科)高地三ノ五、

本邦中部山脈の高地に生じ、樹皮褐色帶狀に剥落す。葉は鱗狀にしてアスナロに類するも小形にしてヒノキよりも大なり、左右葉は先端開出することなく莖に密着し、一個の脂腺あり。五月中旬開花し、六乃至八個の鱗片より成れる卵圓形の果實

第七〇圖  
トドマツ  
エゾマツ  
シラベ



裸子植物

を結ぶ材は心部黑色を帯び軟なり、天井板障子・函類・曲物等を製す。

トドマツ。(松杉科)高嶺十一ノ二四、高嶺新下ノ二四、尋地

葉は頂端二分し、基部漸次に細まり、長さ七分乃至一寸三分幅五厘内外、表面中央凹み、裏面は隆起す、その左右に白線を備へ、葉軟なり。花は六月上旬開き、鱗果は長さ三寸直徑一寸内外ありて長卵形をなす。材は帯紅白色建築材として用ふ、エゾマツと同じく北海道樺太にのみ産し、樹皮は平滑、青灰色を呈し裂目を生ずることなし。

エゾマツ。蝦夷松。(松杉科)

尋地十一ノ二四、尋地二ノ七、九、高地二ノ六、高地三ノ五、

葉は頂端鈍頭一尖をなす、中央は表裏共に隆起し、長さ七八分幅六七厘許、二條の白色條線あり。花は五月下旬に開き、長さ二寸内外、幅五六分の細長なる鱗果を結ぶ、直徑

三尺高さ百二十尺に及び、樹皮は褐黑色を呈し、小鱗片状に裂く。北海道樺太に産し、山地に純林をなす、建築材となり、又經木燐寸箱製紙の原料とす。

カラマツ。落葉松。(松杉科) 尋讀十一ノ二四、高理一ノ一二、尋地二ノ九、高地二ノ六、高地三ノ五、

本州中部の高山に産し、火山岩質の乾燥地を好むものの如し。葉は四五月の交を以て開き、二三十個茶筌状に束生す、長さ一寸幅三四厘、線形にして鈍頭なり、長枝上のものは長大なるの差あるのみ、共に秋季枯落するを以て落葉松と云ふ。花は葉と共に開き、短枝上に發達し、卵状の鱗果を結ぶ、果實は長さ八九分徑五分許、種鱗に毛あり。

カラフトラクヤウシヤウ。樺太落葉松。(松杉科) 尋讀十一ノ二四、尋地二ノ九、

グイマツ又はシコタンマツの稱あり。蓋前者は千島及樺太アイヌ人等がクイと呼べるに因り、後者は千島擇捉及色丹島産のものに與へられたる名稱なり。

高さ八九丈に達する喬木にして、枝は水平に伸び、新條は幹膚と共に赤褐色なり。葉は線状にして先端鈍頭、長さ三分乃至一寸、幅四厘内外ありて下面に二條の白線を有す。雌花は紫褐色下向す。毬果は鱗片十餘箇、下部の苞鱗は果鱗より長きも上部

は短し。

本種が落葉松と異なる點は毬果の中軸に毛を有すること、苞鱗の先端尾状をなさず其周縁の鋸齒少きこと、稍長方形をなすこと、及葉に白線を有すること等なり。

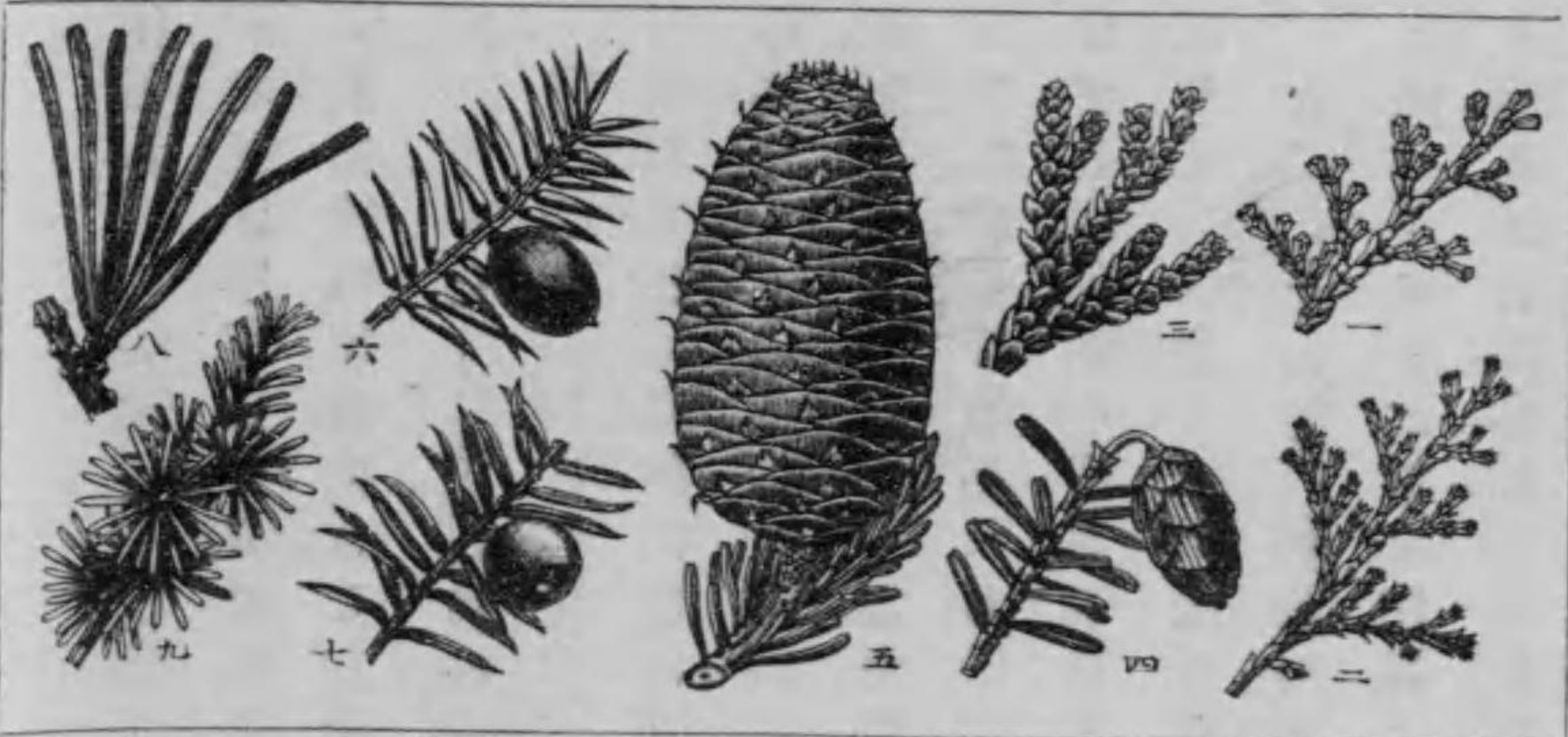
ヒノキ。(松杉科) 尋讀六ノ二〇、尋讀八ノ二、尋讀十ノ四、尋讀十一ノ九、一二、二七、高讀男女三ノ

葉は鱗状厚肉にして、十字に對生し莖に密接す、上下左右の各葉相接する所に白色線あり。花は雌雄同株、四月下旬開く。果實は球形、徑三分許、七又は九個の木質楯状の鱗片より成る。材は質緻密にして軟く、心材帯黄紅色にして周圍白色を呈す、年輪顯著にして香氣強し、建築器具用として本種に及ぶものなし。樹皮赤褐色にして縦裂す。木曾の産有名にして中腹以上に生じたるは天然林なりと云ふ。土壤淺きを厭はずと雖、乾濕中庸なる地點には生育殊に速なり、通例直徑一尺以上高さ五十尺に達せんには少くも六七十年を要すと云ふ。

サハラ。(松杉科) 高讀女三ノ二〇、高理一ノ一二、高地三ノ五、

葉はヒノキに似て同様なる排列をなすも、質薄く先端鋭尖にして外方に向ひ莖と離る。四月下旬開花し、雌雄同株なり。果實は球形をなし、徑二分に過ぎず。樹皮は杉

第七圖  
一、ヒノキ  
二、サハラ  
三、アスナ  
四、ツガ  
五、モミ  
六、カヤ  
七、イチキ  
八、カウヤ  
九、カラマ



に似て灰褐色を呈し、縦裂して剝落す。材の輕軟なること建築材中第一に居る。故に種々の家具、玩具の施工に適す。

庭樹として用ひらるゝシノブヒバ・ヒムロ等は皆本種の園藝變種なり。

アメリカマツ。(松杉科) 高地三ノ五、

松の名を持つども我國のトガサハラと同屬の一種にして英名を (Douglas spruce) と稱し、ロッキー山より西部の大平洋岸に至るまで大森林をなして生育す。葉は不明瞭なる羽狀に横列し、扁平、線形、柔軟にして長さ八分内外、綠色にして光澤あり。毬果は一寸五分乃至二寸五分許、苞鱗は尖頭にして鋸齒を具へ、果鱗よりも超出す。

アスナロ。(松杉科) 高理一ノ二、

鱗葉樹種中最大の葉を有す。上下葉は莖に密着し、左

右葉は開きて外向し、その先端急に内屈す。裏面に幅廣き白帶あり、上下左右葉は輪生狀をなして並ぶ。花期五月中旬。本州中部以北の山地に生じ、ヒノキに次ぎて各種の用材となり、耐水性強し。青森縣のアスナロ、林木會のヒノキ、林、秋田のスギ、林は本邦三大美林として其名高し。

モミ。(松杉科) 高讀男女二ノ六、高理一ノ二、高地三ノ五、

葉は先端二又をなし、各鋭き針をなす、長さ七分乃至一寸餘あり、全葉硬くして枝上に羽狀をなして着生す。花は六月中旬。鱗果に短柄あり、圓筒形にして長さ三寸直徑その半に及ぶ。苞鱗の先端は長き鋭尖頭をなし、鋸齒縁を具ふ。材質軟にして微黃白色なり、建具器具材として需要廣し。樹皮灰白色にして鱗片狀に剝落す。九州、四國、本州の山地に多し。

ツガ。(松杉科) 高讀二ノ三、高理一ノ二、高地三ノ五、

葉の先端凹頭をなし、二又狀なるも各平頭に終り、長さ四分許あり、全葉軟く羽狀に排列す。鱗果は短柄ありて卵形をなす。樹皮厚く縦裂す。材質堅硬緻密なれど用材としては腐朽し易し。近年製紙の原料材に使用せらると雖、硬くして白色ならざる



の缺點あり。四國九州より東北地方に及び多くはモミと混生す。

一種コマツガは一年生枝に褐色の短毛あるを以て區別し得べし。

カウヤマキ(松杉科) 高理一ノ二、高地三ノ五、

葉は厚肉軟質にして先端僅に回頭をなし、表裏共に中央に溝道あり、之れ二個の針葉の相癒着せしために生ぜしものなり、長さ二寸乃至四寸幅一分許、十五乃至四十葉、短枝上に叢生し茶筌状をなせり。花は三月下旬、短柄ある略橢圓狀の鱗果を生ず、長さ二寸徑一寸餘あり。樹皮赤褐色を呈し剝片となる。本州中部の山地に生じ乾燥地を好み、樹形雅趣に富むを以て庭園樹として貴ばる。材は水に強きを以て桶材、土工材として最佳なり、樹皮はマキハダとなすべし。

コノテガシハ(松杉科) 高讀新下ノ一

支那より渡來せる庭園樹にして、喬木なれども又灌木状をなし下部より枝を分つ。葉は鱗形にして對生、其狀ヒノキに酷似す、唯葉を荷へる小枝は必ず天に向ひ平板状をなすこと甚しく類似種と所觀を異にす。花は春季、雌雄同株に生ず。果實は球形、灰綠色、五六分の柄を有し、鱗葉中著しく人目を牽く。其鱗片即心皮は數個ありて

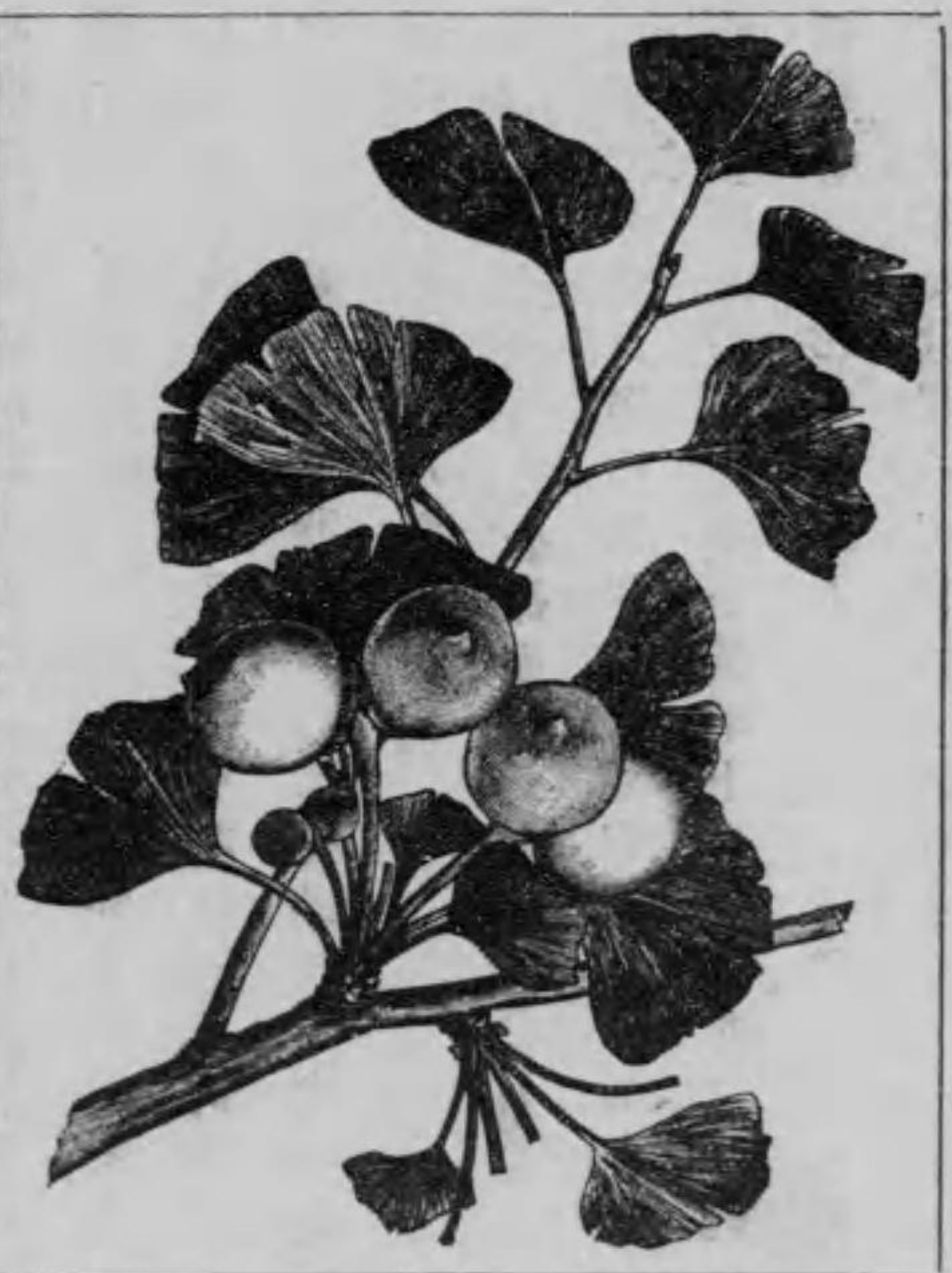
上部四個のみ發育成熟し、種子を生じ覆瓦様に排列す、その尖端嘴状をなして外方に反捲す。

スギ(松杉科) 尋讀一、尋讀六ノ一、二、三〇、尋讀十ノ四、尋讀十一ノ九、二七、高讀男女二ノ六、高讀男女三ノ二、一七、高讀男女四ノ二、四、高讀新下ノ二七、尋理五ノ三三、高理一ノ一二、高地二ノ六、高地三ノ五、

本邦特産の針葉樹にして最大なる生育をなす、土質を選ぶ事少けれども北又は北東に面する山谷山腹にして土深く濕氣ある所に適す。樹皮縦に裂目を有し赤褐色を呈す。葉は針狀にして葉柄を缺き、四稜をなし少しく内曲し、莖上螺旋狀に排列し斜に着生し、小枝と共に落つ。花は雌雄同株、三月開き、松に類するも葯は四五個、胚珠は三個、雌鱗片狭卵形にして先端長く尖る。果實は球形、鱗片は木質厚く倒卵狀楔形にして先端四乃至六裂す。

イテフ(公孫樹科) 尋讀十ノ九、高讀男女二ノ六、高讀男女三ノ一八、二〇、高讀新下ノ二七、

イテフは東洋の特産にして庭樹として容姿特異、學術上よりは隱花植物と顯花植物との連鎖となり、系統學上最重要なる且趣味あるもの、殊に此連鎖は我帝國の植物學教室に於て邦人の手により發見せられ、吾人同胞が世界の學者に向つて大に誇とするに足る名譽の記念たり。



第一七二圖  
イテフ

らん。猶種名の三は二分 *Loba* は葉を意味し即二分せる葉を有するを指示すと雖、之れ蓋リンネ氏實物を得るに由なく唯ケ氏の圖説を基としたればなり。

先年平瀬作五郎氏が學士院賞を授與せられたるは實に本種の授精作用の研究にして、顯花植物中自ら運動する精蟲により卵球は授精す、これぞ系統學上特筆大

イテフをして最初歐洲に知らしめしはケンフェルにして、其著 *Amentatum exoticum* 中に圖説せしものなり、氏曰く、和名 *Ginkgo* 又は *Ginan* 普通 *Itsjo* と稱すと、リンネ氏此に依て名を命じて *Ginkgo biloba* と云ふ現今用ふる學名なり、此新屬名はケ氏の和名に基きしものにて、蓋漢名銀杏の發音不正のため又は活字の誤植かに由るな

書すべき大發見にして、先に述べたる顯隱兩植物の連鎖たる證左なり。

其天然記念物として本種を加ふるは、前述ぶる如く學術上珍稀なる現象を呈し貴重なる材料たることと、人力を加へて保護するにあらざれば絶滅に歸せんとする傾向あればなり、米國に於けるマンモス樹、日本支那の公孫樹共に前世界に隆盛を極め、近似種各地に分布せしも、今や他の總ては全く其影を止めず、僅に一局地に地質時代の悌を残すのみなればなり。

イテフの葉の黄化。秋季、枯死せんとする葉の黄色を呈するは、カロチンと其酸化物たるクサントヒールの存在によるものにして、葉綠體内の綠色色素は葉綠質と名づくるものと葉黃質との合成せるものにて、葉黃質の化學成分は即前記のものに外ならず、而して是等のものは炭素、水素、酸素等の植物體内に豊富なる元素のみなれば、枯葉中に遺留するも惜むに足らざるなり。然るに葉綠質は窒素、マグネシヤを含み、比較的吸収し難き元素なる故、莖枝に送り貯ふるなり。以上の理により必要なる元素の經濟上より綠色々素の分解を起し黄變する所以なり、イテフ葉の黄色も亦此理に外ならず、因に記すカロチンは生物體中廣く存在するものにしてニ

ンジンの根ミカンの皮、海綿、卵黄、脂肪の色素等皆之なり。

大銀杏。鎌倉八幡宮社殿前面の石段の中頃、向つて左側に立つ。周囲二丈高さ十  
一間、八百年の齡を保てるものにして、治承四年公曉が將軍を害するの際、此樹蔭よ  
り跳り出でたりと傳ふ、されど古老の言によれば、是は當時のもの枯死せしにより、  
同位置に他より移し來りしものなりと云ふ、此樹の枝は北方に向ふて屈曲せり。

## 第二部 隱花植物

花咲かず、種子を生ぜず、胞子を生ず、故に胞子植物とも云ふ。左の三門に分つ。

第一門 羊齒植物。ワラビ・ヘゴ・サンセウモ、

第二門 蘚苔植物。スギゴケ・ゼニゴケ、

第三門 菌藻植物。マツダケ・カウヂカビ・コンブ・ウメノキゴケ・バクテリア、

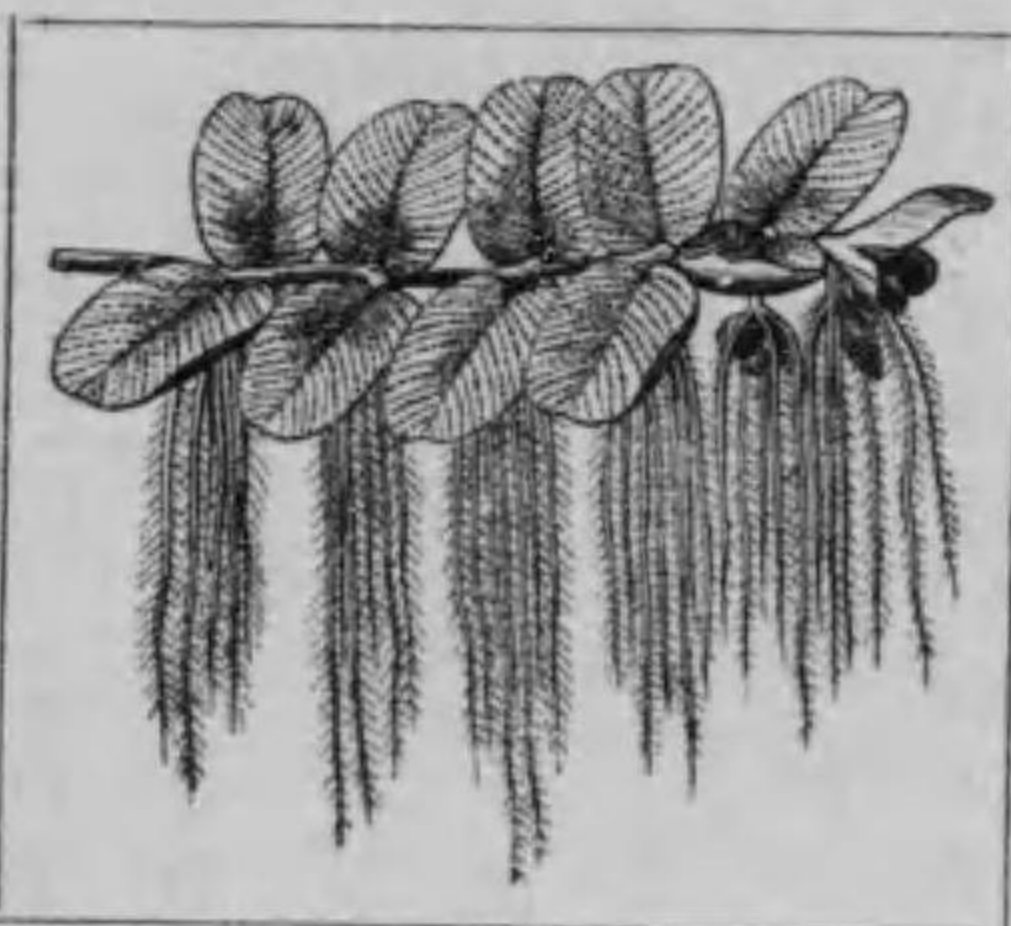
ワラビ。(水龍骨科) 高讀男女四ノ二四、尋理五ノ二四、

本邦各地の山野に普通に生じ、春季、嫩葉の萌發せしものを食用とす。葉の地上に  
出づるや、頂端に三個の渦巻を見る、これ最下の羽狀片初めより大形をなすに由る、  
而して葉先の回旋するは羊齒類一般の特徴なり、三となり九となりワラビ伸びに  
けりとは、尺蠖と一對の教訓を示すものと云ふべし。世人、野火の後ワラビ能く生ず  
と傳ふるは、地下莖深くして災禍を免れ、初春超出して人目に觸れ易きによる、秋季  
地上に落下せし各種の種子は、燒燼し他より飛來し發芽するもの少きがためなら  
ん。老葉は葉柄を蕨細工に用ひ、若葉は湯を掛けて食ふ、蛋白質二・八三、含水炭素一・四

一、纖維三・二七を有す。

サンセウモ。槐葉蘋科尋理五ノ一八。

産状アカウキクサの如し葉は長橢圓形對生するを以て山椒の複葉又はエンジユの葉に似たり、上面に刺毛ありて水に潤ふを防ぐ、莖の下面より白色の毛状物を垂下し根の觀あり、されど眞正の根は發達不完全にして消失し、水葉は絲狀に細裂して根の作用を司る、故に葉は一節に三葉輪生し、背面の二葉は尋常形を呈し、腹面のものは毛状をなせるなり、大小二種の胞子を生じ、水葉の基部部に生ぜる球形囊中に入り、球形囊は即子囊群にして内部に數多の子囊を藏す、小胞子囊は長柄を有し多數あり、大胞子囊は稍少數にして大形、一年生浮游草本なり。



第一七三圖  
サンセウモ

アカウキクサ。槐葉蘋科尋理五ノ一八。

池沼水田の水面に群生し、葉は細鱗狀にして紅色を呈し、一見ヒノキサハラ等の小枝葉を見るが如し、此葉は元來二裂せる上片にして、下片は水中にありて吸水の

用を司る。根は垂下し、多數集りて束状をなす、大さ種々なれども一寸内外のもの最多し。胞子は大小二種ありて各別の子囊中に包る、而して各子囊は側枝第一葉の下片上に生じ、二乃至四の子囊群をなす、小胞子囊は長柄を具へ數多の小胞子即雄性胞子を有す、大胞子囊は一個の大胞子即雌性胞子を有す。

ゼンマイ。薇科尋理五ノ二四。

宿根にして莖は短く、多數の葉を叢生す、高さ一二尺、二回羽状をなし、小羽片は橢圓狀披針形にして縁邊全邊狀をなす、子囊は實葉とて全葉に子囊を有するもの、或は一枚の葉にして上半の羽片は子囊を生じ、下半部のものは尋常葉形をなせるものに着生す、その形略心臟形をなし、尖端太く伸びて軸に着き子囊群をなす、子囊群は無數の子囊團集して圓塊をなし、直接肋軸に着く、斯く裸生せる子囊は、環帶の發達幼稚なるを以て、上端凹處にある厚壁細胞之が代用をなし、此處より開裂し綠色なる胞子を吐く、若き葉は渦卷狀を呈し、褐色の綿毛を以て包れ、風雨蟲害を防ぐ、之を食用に供し、又老成したるものは細工物とす。

カニクサ。海金砂科尋理五ノ二四。

林野に普通にして、莖は細く且硬く褐色を帯び、他物に纏繞し長さ六七尺に及ぶ。葉は互生して、再羽状をなし、再羽片鋸齒粗布して缺刻を有しカヘデに類す、上部の葉は裂片指状をなし、裏面先端に子囊群を生ず。子囊群は魚鱗状に密集し包膜永存す、一包膜に一個の子囊を生ずるはカニクサ屬の特性と見るを得。

ウラジロ。(裏白科) 尋理五ノ二四、

地下莖は横走し、葉を散生す。葉柄は二三尺に伸び、その第一枝は左右對生をなす、これ最良く發育せる部分にして新年の飾りとなす。中間頂端に小形の枝片を止む、各枝は羽状に分裂し、各裂片粗き鋸齒縁を具ふ、上面綠色なれども下面白色を呈すること著し。子囊群は裸生し、葉脈の脈背に生じ、小形にして四個の胞子囊よりなり、子囊は殆ど無柄にして略圓く、環帶完全せり。本邦中部以南の暖地(静岡縣以西)に生じ常緑なり。

シノブ。(水龍骨科) 尋理五ノ二四、

深山の樹幹等に着生し、長き莖を伸して爬行し、葉を散生す。葉は二回羽状をなし、羽片は一又は數個の鋭尖端を具ふ、全長五六寸、冬枯れ、初夏新葉を生じ雅趣に富む。

子囊群は羽片の先端に生じ、褐色なる橢圓形包膜により掩はれ先端のみ游離開口す。子囊は長柄を有し、圓形環帶稍不完全、横に裂開す。夏は莖を種々なる形に巻き、簷下に釣り清涼を増すもの之なり。

マメツタ。(水龍骨科) 尋理五ノ二四、

莖は長く伸び、岩石樹上を匍匐す。葉は厚く橢圓狀圓形、直徑三四分許、明瞭なる柄ありて莖に散生し、概ね平臥す。子囊は特に一寸内外の線形をなせる實葉の裏面に生じ、一樣に平布す、褐色を帯び裸生す。山野に普通なる常緑羊齒なり。

ノキシノブ。(水龍骨科) 尋理五ノ二四、

庭園山野の樹上に着生し、四時綠葉を下垂す。莖は横走すれども短きを以て顯著ならず。葉は細長銳頭、下部漸次細くなり倒披針狀にして厚肉、略叢生の觀を呈す。子囊群は中脈の兩側に一個宛並び、圓形にして被膜なし、葉縁反捲して能く長期の乾燥に堪ふ。

ミツデウラボシ。(水龍骨科) 尋理五ノ二四、

乾地を好み、莖は地中を横走し、長く伸び葉を散生す。葉は全長三四寸、洋紙質にし

て厚からず、裏面稍白く、葉片は長さ三角形、二裂又は三裂し、全縁なり、葉柄は葉片と明に分れ細くして稍硬し、子囊群の状ノキシノブに酷似す。山野に普通なる常緑羊齒なり。

ヤブソテツ。(水龍骨科) 尋理五ノ二四、

樹蔭下に普通にして高さ一二尺に及ぶ、莖は短大にして地中に直立し、多くの葉を叢生す。葉は單羽狀複葉にして羽片略鋭尖頭卵形をなし、葉縁全邊をなす、葉柄には幅廣き褐色鱗片葉を密生すること著し、子囊群は羽片の裏面に多數を散生す、圓形にして同形の被膜を有すれども、早く謝落して裸出す。

イヌワラビ。(水龍骨科) 尋理五ノ二四、

路傍山野に普通にして、地下莖横走し、葉を散生す。葉は全長一尺内外、二回羽狀複葉にして羽狀片は披針狀を呈し、先端漸次に細く延び尾狀をなす、再羽片は略鋭頭橢圓形にして缺刻を備ふ、葉柄に褐色の鱗片を疎生すれども老成すれば脱落するもの多し、子囊群は裏面に生じ、再羽片の左右の脈に半月形をなす、初め包膜に掩はるゝも熟すれば裸出す。

ヘゴ。(杪樞科) 尋理五ノ二四、高地二ノ六、



ヘゴ(杪樞)は本邦南部諸島の山中陰濕地に生ずる木生羊齒にして、單幹三丈を超ゆるもの稀なり、梢頭に數葉を叢生す、葉形稍蕨の葉に類し大なるは五六尺に達す、葉の裏面には子囊を生ず、子囊の各群の周圍にコップ狀の包被を有す、ヘゴの幹は横斷して植木鉢となす、水拔甚宜し、琉球にては之を堤防用に用ふ、土中に埋むるも久しきに耐えて朽ちずと云ふ、幹の内部の堅硬なる部分は酒して花活に用ひ、又茶匙、箸等となす、又材は庭園裝飾用に供せらる。

マルハチ。(杪樞科) 尋理五ノ二四、

第一七五圖  
マルハチ



マルハチ(丸八)は、熱帯地方我國小笠原島にも産す。木生羊齒中の最大なるものにして高さ二丈直徑三寸乃至五寸に及ぶ。形態能くヘゴに類す。葉は幹の頂上より四方に簇生し、ヘゴの如く上向せず稍横に生ず。一葉の長さ五尺乃至十五尺、每葉の細に分裂せる裏面には二三個宛の子囊を有す。子囊は脈上又脈の分岐點に着き其形は球形なり。又幹の全面には葉の脱落せる痕跡の斑紋あり。内部は一帯の柔組織より成り數多の維管束を有す。この維管束は終に葉柄によりて終る。葉柄の脱落するや幹に倒八字形を印す。故に丸八と呼ぶ。其紋理は幹によりて大小齊しからず。幹は心部を花活箸植木鉢等に製造する外、ヘゴの如く多く使用せられず。

蘚類。高理二ノ六、

スギゴケ類のことにして、體は明に莖と葉とを區別し得。根は毛茸狀の假根にして眞正の根の如き作用を營む。葉は無柄にして螺旋狀に着生す。一二層の細胞より成り葉綠粒を含む。中央に一條の葉脈ありて莖に入る。莖は中央部細長なる細胞集

合し維管束の用を辨ぜり、而して直立せるもの地上を匍匐せるもの種によりて異なる。胞子を藏せる子囊は、元フラスコ狀をなせる雌器中に生じたるものにて、春夏の候、注意して林間を檢せば莖頂部に異常の葉を着くる花の如きものを有するを見ん。之を割りて中央より絲の如き部分を鏡檢せば雌器を得べし。底部に一の卵球ありて逐次發育すれば子囊及子囊柄を生じ、雌器壁をなせるフラスコは蘚帽及柄の基部を包む鞘となる。次に胞子は發芽し絲狀體となりて地上に擴り、所々より吾人の眼に見る蘚體を生ず。

スギゴケ。(スギゴケ科) 高理一ノ一三、

蔭地上に生じ、高さ二三寸許、叢生せる一種にして雌雄別株。葉は稍革質にして線披針形をなし、基部鞘狀を呈し、全縁にして縁邊内方に捲き込む。中肋は幅廣く葉尖に突出し鋸齒ある赤色の糸となる。一層の細胞より成れる。基部及兩縁を除けば他は二層の細胞より成り、厚くして上面に縦褶と稱する一列細胞より成れるものを具ふ。子囊柄剛く一寸乃至一寸五分許ありて紫色を帯ぶ。子囊は直立し後斜向す。卵圓形にして四個の角稜を具ふ。子囊蓋は嘴あり。六十四個の囊齒ありて短く、先端鈍

圓に終る囊帽小にして半片狀をなし、頂部より密生せる黄褐色の長毛は能く子囊全部を掩ふ。

ゼニゴケ。(ゼニゴケ科) 高理一ノ一三、

本種の如く莖葉の別明ならざる植物體を葉狀體と云ふ、即體は扁平なる紐狀の葉狀體にして、二又分岐法によりて枝を分ち、濕地の表面を掩ふ、長さ二三寸より六七寸に伸び、幅概ね六七分あり、表面には數多の小區劃ありて各區菱形を成す、その中央に一個の圓孔あり、孔縁淡褐色を帯び少しく隆起す、これ呼吸の氣孔にして、内方一大腔室に通ず、腔室の下底より葉綠粒を含める圓き細胞を疎生し、無色の表皮を通じて綠色を呈せしむ、此腔の境壁は葉綠粒なき細胞より成るを以て、上面に菱形區劃を示すものなり、而して體の中央稍隆起し縦走せる部を中肋と云ふ、次に裏面より觀察すれば、淡黄灰色にして表面より灰色なる毛狀のもの伸びて體を地上に固定するの用をなす、これを假根と云ふ、表皮の内方には二層の大形なる偏六角形の細胞ありて養分を貯ふ、諸處に粘液細胞を散在す。

盃狀體は縁邊に齒牙ありて常に中肋上に生じ、中に圓狀にして中央に縊れある

無性芽あり。

雄株に生ずる雄器托は、圓盤狀にして上面所々に孔腔あり、中に卵圓形の雄器ありて二個の鞭毛ある精子を生ず。

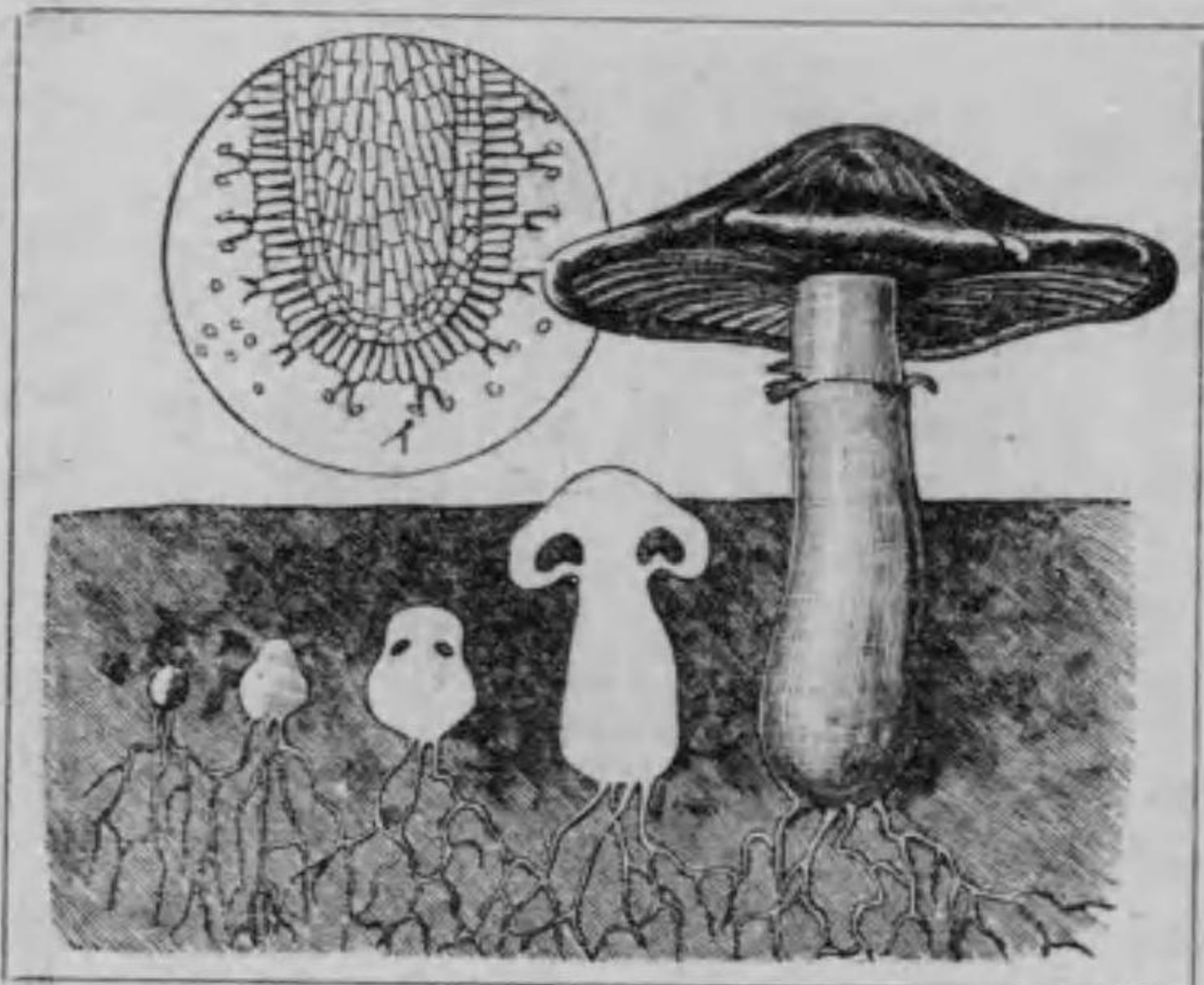
雌株には星形の雌器托を生じ、股の下面には膜にて包れたる雌器ありて卵細胞を生ず、卵細胞は精子を受けて子囊となり中に彈絲を交ふる胞子を形成す。

マツダケ。(マツダケ科) 高理五ノ二九、

三村學士の研究によりアカマツの若き根に寄生生活をなすものと決定せり、されどこの菌絲は唯細根の外面に附着纏綿するのみにして、決して内部に侵入することなければ、根は何等の障害をも受くることなく、却て水濕を保有供給せられ、成育上多くの便益あるなるべし。

夏季、松林中に生ずるサマツダケと稱するは、形

第一夫圖  
マツダケ  
イ、胞子の  
出來方を  
示す





態よく前者に類するも肉赤褐色にして別属別種なり。

シヒタケ。(擔子菌類)。(マツダケ科)

(高讀女一ノ二四、尋理五ノ二九、高理一ノ一五、)

菌傘は一寸乃至三寸の直径を有し、上面黒色にして褐色を帯ぶ、下面白色に全體肉質なり。發生の初期は傘の縁邊より伸びたる縁膜を以て菌柄と連結すと雖、展開すれば切れて膜は柄に止り下環帶となり後消失す。胞子粉は白色にして胞子は無色なり。シヒノキ・コナラ・クヌギ・クリ・シラカシ等の枯幹に生ず。

ハツダケ。(擔子菌類)。(マツダケ科)

(尋理五ノ二九、)

菌傘は赤黄色に紫色を帯び、直径一寸乃至二寸に及ぶ、不明瞭なる環紋を現し、中央陥凹し、周圍は高く、縁邊内面に巻き込む。太き柄を具ふ。全體肉質にして頗る脆弱なり、傷くれば乳液を出し鮮綠色に染む。これ内部組成の花形菌絲間に存する乳器と稱する脈管より分泌せられたるものにして、本科中ベニタケ亞科の一標徴たり。又胞子は刺狀突起を滿布す。秋季、砂地松林の腐葉土を混ざる地上に發生すること



第一七圖  
シヒタケ

多し、やゝ香氣ありて食用とすれども昆蟲の寄生を受け易し。

シメヂ。(擔子菌類)。(マツダケ科)

(尋理五ノ二九、)

菌傘は肉質にして柔く、菌柄とは初めより連結せずして游離す、因て鞘或は下環帶の如きものを有せず。胞子粉は白色にして胞子は無色なり。秋季、林中の地上又は朽根の濕潤なる場所に生ず。菌傘は暗灰色にして膨隆し、鐘頭笠の如し、菌褶亦同色なり。柄は白くして太く基部殊に膨大す。大小常ならざれども多くは徑二寸内外高さ略之に等し、常に群生して頗美なり、煮て食用とす。

シヤウロ。(松露)。(シヨウロ科)

(腹菌族) (尋理二ノ四、)

普通に砂地山林に生ずる食用菌の一種なり、大さ一寸内外、球形にして上下に壓扁せらる、概ね白色若きもの、又は黄褐色(老熟せしもの)なれば米松露、栗松露と呼ぶ。表面皮膚平滑にして内部髓部海綿狀をなす、下面中央より根の如く分岐せる菌絲束を出し地中に蟠廻せる菌絲に連絡す、熟し終れば腐敗して溶解す、故に若きものならざれば食用に供する能はず。今海綿狀部を取り切片を作りて檢すれば、孔竅部は相連絡して不規則に走れる網狀をなし、其内面には一層に密集せる細長なる擔

第一六圖  
シヤウロ



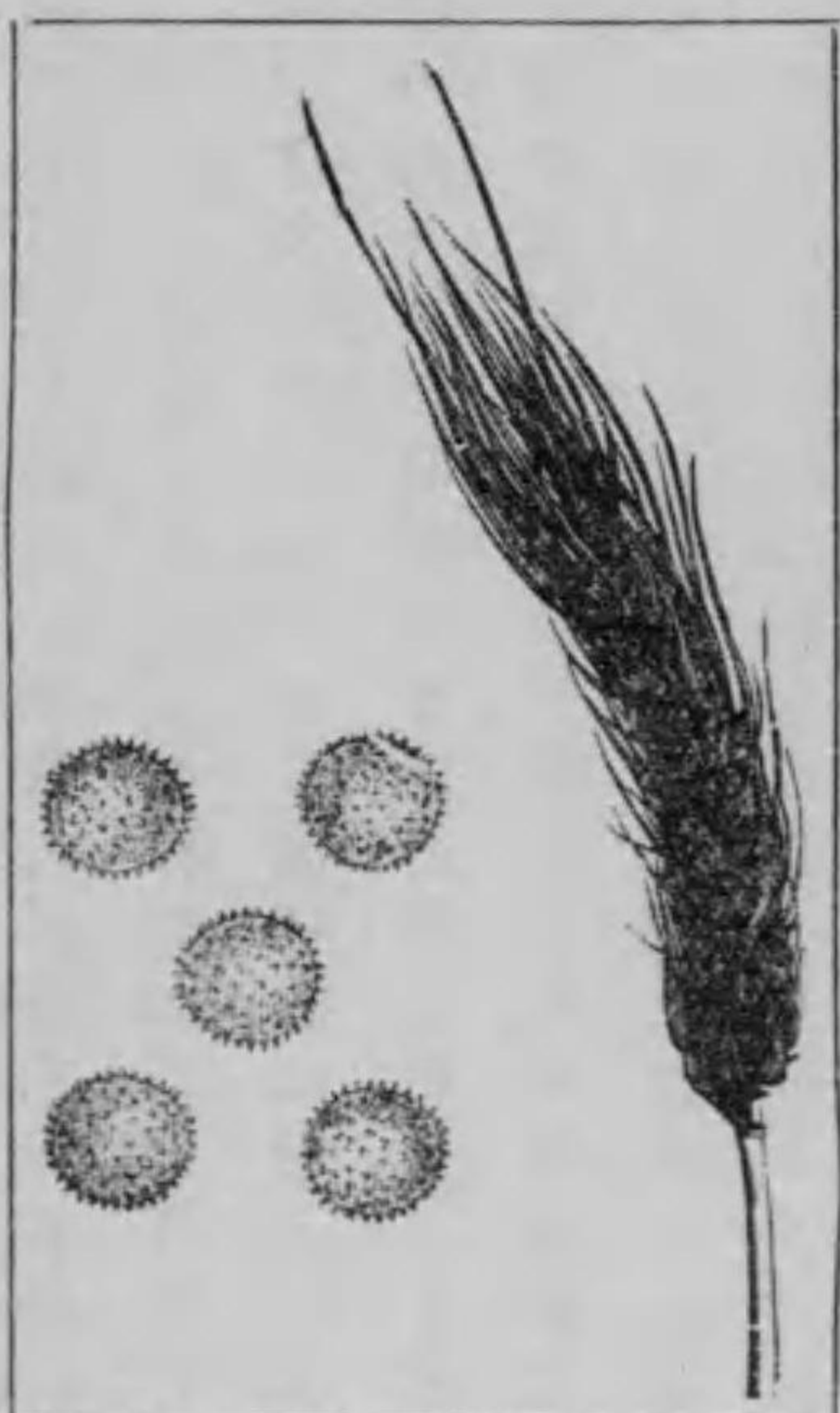
松露として特に味良しと云ふ。

クロボ菌(クロボ菌科) 尋理五ノ七、

子柄ありて、基部は錯綜せる菌絲上に生じ、先端には四個の胞子を頂生す。胞子は平滑楕圓形なり、胞子は他部溶解せし後、獨り残りて風に飛散し各地に散布す。

松露は春季盛に群をなして松林の地上に生ずれども、猶冬季、秋季にも見るを以て殆ど周歲發生するもの如し、冬季産は寒

第一七圖  
一、大麥の  
黒穂  
二、大麥の  
黒穂菌の  
胞子



麥の穂の果實の部分、黒色塊狀に變じ食し得べからざるものと成れるものをクロボと云ひ、又麥奴と稱し菌類の寄生に基く病氣なり、數種ありて各寄主を異にす。

大麥の麥奴に二種あり、一を大麥のハダカクロボと云ひ、*Ustilago nuda*

*ta*, Jens. なる菌擔子菌類—黒穂病菌科の寄生により生じ、胞子は球形又は短楕圓形にして表面には細點紋を具へ、發芽して直に菌絲を生じ、決して之より分生胞子を生ずることなし。而して花穂の全部悉く變じて胞子となり、熟して粉末狀となり容易に飛散す。他の一をカタクロボと稱し、*Ustilago hordei*, Jens. の寄生に因る。通例其病穂は葉鞘にて被はれ、其黒色に變ぜし果實の部分は長く原形を維持して崩壊せず、其外面に裂口を生ずるに及んで始めて胞子を吐出するも決して細粉狀をなさず、胞子は表面平滑にして球形又は鈍角の多面體なり、發芽して生ぜし初生菌絲より分生子を生じ、此分生胞子により繁殖す。

小麥の麥奴は *Ustilago Triticæ*, Jens. 又は *Tilletia Triticæ*, Bjerk. (腥黒穂病菌科等の寄生に基き、前者は前種の如くなるも胞子は球形にして細點紋を有し、發芽すれば直に菌絲を生じて成育し、分生胞子を作ることなし。後者は胞子球形、網紋ありて子房内に形成せられ、腐魚敗あり、發芽すれば且狀胞子を生じ、之より更に鎌狀の胞子を生ず。

以上三種の病原菌が麥の體内に侵入する状態は、又特異にして種子に附着せる

孢子(Brand spore)又は分生孢子(Sporidia)の發芽により生じたる菌絲は、種子の萌發の際軟弱なる根鞘莖と葉との境界部等より入り他より入る能はず、而して漸次内部に達し生長點に止りてその生長を促進し、後寄主植物の熟して花穂を形成するや忽ち伸長してその中に入り、内部に蔓延し膨大せしめて胞子を造成するなり。温湯に浸して種子を消毒するは、此等の表面に附着せる胞子を殺さんためなり。ダウモロコシノオバケも又一種の黒穂病に外ならず。

釀母菌(囊子菌類)。酵母菌族(真正酵母菌科)高理一ノ四、高理二ノ五、

本菌には酵母菌糖菌等の別名あり。體は一個の細胞より成り球形、橢圓形をなす分芽法により又は體内に二乃至八個の胞子を生じて繁殖す、即營養菌絲體たりし細胞は直に胞子囊となる。今培養液中盛に繁殖しつゝある釀母菌をその儘放置すればやがて液面に薄膜を生ずべし、これを檢すれば即釀母菌の結合體にして、先に單獨生活中有したる形とは著しく異り、悉く圓柱狀となり相互連結して分岐せる絲狀をなすべし、今此狀態を見て初めて普通見る單細胞體は、絲狀菌體の變成物ならんとの考説を首肯し得べし。

第八〇圖  
一、醬油の  
釀母菌  
二、日本酒  
の釀母菌



清酒釀母菌。細胞は球形にして直徑六乃至二ミクロンあり、細胞内に一乃至三個の胞子を呈し球狀を呈す、分芽は忽母體より離れ鎖狀をなすことなし。葡萄酒麥芽糖蔗糖を醱酵しチマーゼ(即酒精醱酵素)インペルターゼ等の種々酵素を分泌す。本菌は矢部氏奥村氏等の所説によれば麴及其に接着せる稻葉より酒の醗中に入り來り繁殖するものなりと云ふ。

麥酒釀母菌。圓狀卵形にして四個の胞子を生ず。

葡萄酒釀母菌。橢圓形をなし、二乃至四個の胞子を生ず。

アルコホル醱酵は酒精醱酵素即チマーゼに由ることは、既に決定せられたりと雖此チマーゼの糖類に及ぼす變化の徑路は未だ疑問に掩はれたりしが、アールグツセロイ氏は近年左の如き化學變化に基くとせり。

釀母菌のアルコホル醱酵に於て酸素は必ずしも其醱酵を促進するものにあらず。

ずして寧之を妨害するものなれども、彼等の生育上缺くべからざるものにして、其供給により益増殖を來すは明なり、故に本菌にして一度酸素の缺乏に際すれば容易に之を放出すべき化合物を分解するの手段に出づるは生活状況より推定するに難からざる處なり。此等の化合物として用ひらるゝ糖類は、水素分子により原子の結合緊密ならざる二價のアルコールを生ずるなり、例之葡萄糖の分解に就ては次式に示す如く先づ其一部を二價のアルコールなるソルビットと酸素とに分解す。



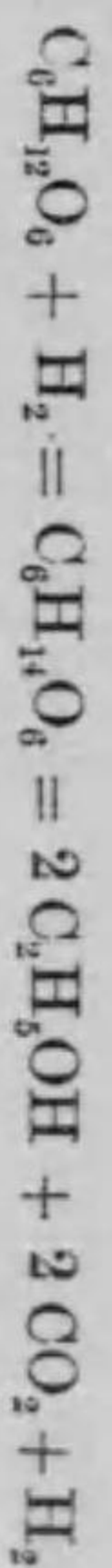
葡萄糖 水 ソルビット 酸素

此ソルビットは其生成時に於て或は他の作用すべき化學物質の存在のもとには容易に分解して尙安定なる化合物にならんとす、故に直に分解して二分子の酒精と二分子の炭酸瓦斯と一分子の水素とを生ず。



而して右邊の水素は他の糖分に作用し復ソルビットを生じ分解せしめて酒精

を得水素を生じ此もの又糖分を分解す、斯くて幾回となく反覆し遂に葡萄糖の消失に及び或は水素の酸化により作用し得ざるにより酸酵は終局を告ぐるものとす、故に一度糖分の分解を生ずれば、其後は常に純化學的に作用を繼續しアルコール酸酵を営むものなり。



葡萄糖 水素 ソルビット アルコホル 炭酸瓦斯 水素

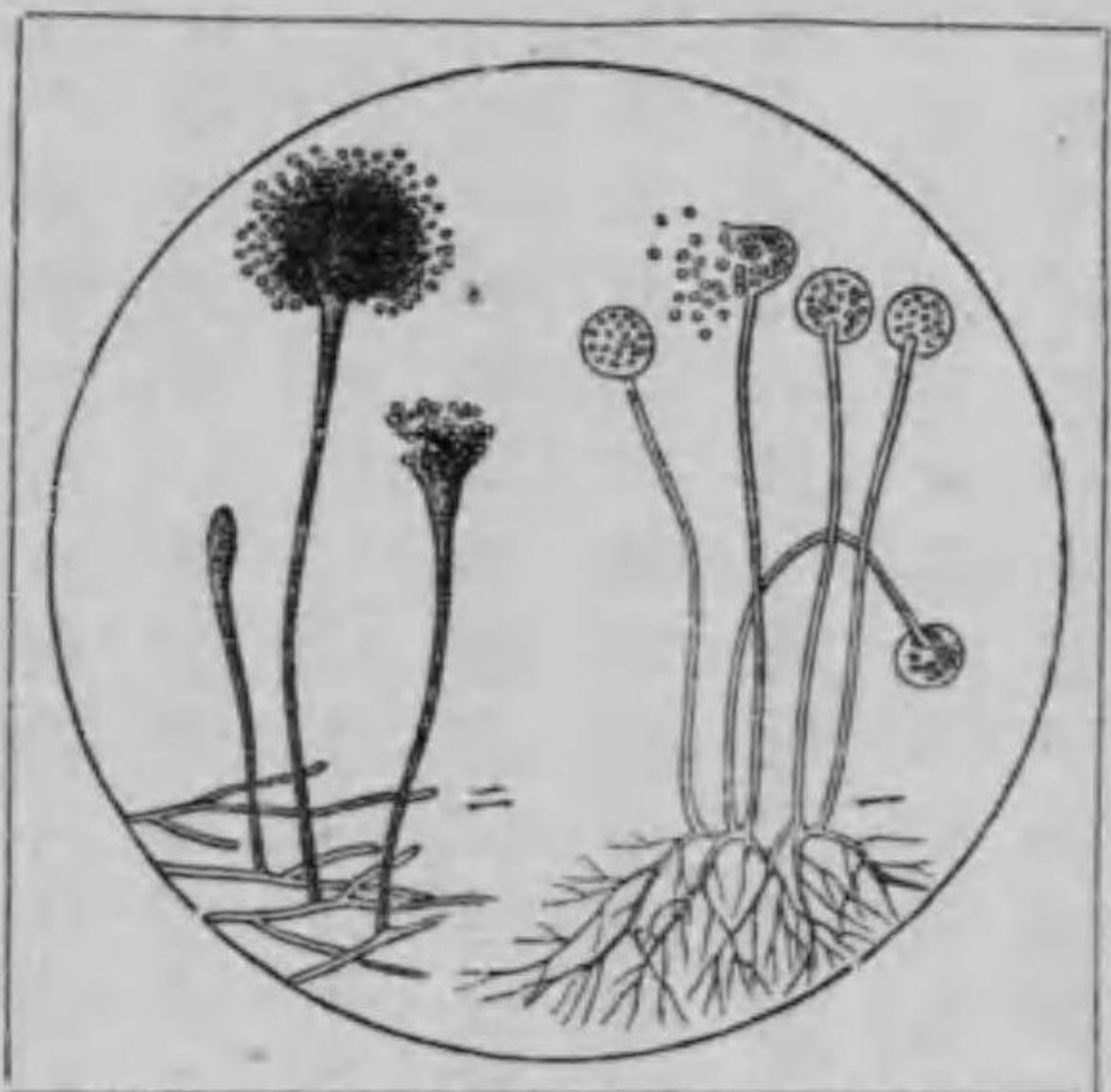
之を要するに菌體より分泌せしチマーゼは一種の觸媒と見らるゝ働をなし、菌自身が酸素を得んために使用せらる。

カウヂカビ。(カウヂカビ科) 毒理五ノ二九、高理一ノ一四、高理二ノ五、

網の如くに分岐錯綜せる菌絲より直立せる胞子柄を生じその頂端球形に膨大し其表面には無数の小胞子柄を着け、この胞子柄の頂端に連鎖狀をなせる胞子を着生す。胞子は黄綠色を普通とし、時に黄褐色なるものあり、球形にして大さ約六乃至七ミクロンなり。

カウヂカビの胞子粉塊を取り、米粒上に發育せしめたるものは所謂麴なり。麴の

第二二圖  
一、クログ  
二、麹菌



アヲカビ。(カウヂカビ科) (尋理五ノ二九、高理一ノ一四、)

第二三圖  
アヲカビ



外面白色不透明なるは全く該菌絲のためにして、花を着くると云ふは胞子の形成に名づけたるものなり。菌絲は自己が營養をとらんがため酵素を分泌して米粒を消化す、その中主なるものはジャスターゼ、(消化劑たるタカジャスターゼはこれを精製したるものなり、マルターゼ、インベルターゼ、オキシダーゼ、トリブシン等あり。糶を米と混じ甘酒の生ずるは、前記ジャスターゼの澱粉を糖化するに基くなり。

カビ類は一に絲狀菌類と云ひ、菌類中下等なるものなり。アヲカビは極めて普通なるものにして、直立せる胞子柄は先端數回叉狀に分岐し小胞子柄となり、このもの上部に連鎖狀に胞子を生ず、其狀箒を倒立したるが如し。此等の部分は青綠色を呈し以て明に他種と

區別するを得べし。

ハイイロカビ。(イモチ病菌科) (尋理五ノ二九、高理一ノ一四、)

主として枯死せる植物體に生じ、灰色の菌絲を直生し、その先端三四個の短枝を分ち、枝頭膨大し、之より灰色廣楕圓形の胞子を簇生す。凡て菌絲は多細胞より成ることカウヂカビ、アヲカビと同じ、されど子柄分岐して一子柄上數個の胞子群を生じ、胞子は一小柄に必ず一個を着け、決して連鎖狀をなさざるは特異の點なりとす。

クモノスカビ。(ケカビ科) (高理一ノ一四、)

食物其他種々なる有機物に發生するも好んで馬糞上に生ず、之れ枯草等に附着せる胞子馬の消化に耐え脱出し來るによる。本邦にありては容易に食麵麩上に培養するを得。菌絲極めて纖小なるより上記の名稱を與へられたるものにして、其分岐錯綜の狀の複雑なる恰網の如く樹根の如し。藻狀菌類に屬するを以て全體一の管狀にして一の隔壁なし。所々より直立せる枝を出し、その頂端膨大し内部に胞子を生ず、其狀ケカビに似たるも、ケカビは一所より數本の子囊柄を叢生するも、本種は一點より束生せず、又本種は子囊の外面に短毛を密生し、内部に子囊柄の圓柱體

を包み、胞子は橢圓形腎臟形なるを以て明に區別するを得べし。

ケカビ。(ケカビ科) 零理五ノ二九、高理一ノ一四、

柿・梨等の腐敗せるものの外面に白毛の密生するを見るは概ね本菌なり。熟視すれば此等の白毛は束状をなせるもの點在す。一の束毛は下部に分岐せる根状物を生じ、側方へは水平に菌絲を出しこのもの更に根と束毛を着生し、其狀恰オランダイチゴの匍枝を生ずるに髣髴たり。白毛の觀ある直立菌絲は即胞子柄にして、其頂端漸次膨大し一の球形囊と變じ、内容物分割して不規則稜角ある胞子を生じ、暗褐色を帯ぶ。囊の外面には短毛密生す。

病害菌。零理五ノ二九、

活物寄生菌は、一般に有害にして菌絲は寄主の體内に潜み人の注目を避くれども、胞子の發生する頃となれば表皮外に顯著なる色觀を生ずるもの多し。例之タウモロコシのオバケ、麥の葉澁キウリのベト梨の赤星及黒星の如き之なり。何れも寄主の養分を奪ひ、往々枯死せしむるものあり(ベトの如し)。

シラクモ。白癬菌。(孤立菌類) イモチ病菌科) 高理一ノ一六、

白癬は小兒の頭部に見る普通病にして、殊に腺病質の如き病身のものに多く接觸傳染をなす。患部は黄白色を呈し徑一寸内外の斑紋をなし、圓狀盃形の小殼の集合せるため恰蜂巢の一片の如し、各小殼ははぜたる豆の大きさありて中央に毛を擁す。此病原體は寄生菌中最初に發見せられたるものにて、千八百三十九年シエンラインの手により成功せり、本菌は其後レマツクにより發見者の氏名をとりアコリフン、シエライニイと命名せられたり。菌絲は柔軟にて盛に分岐し相互錯綜せる絲狀にして、諸處に不正卵圓形の連鎖狀胞子を列生す。胞子は完全なる皮膚の表面より侵入し、毛囊の中又は周圍時に毛幹中にて發芽すと云ふ。

地衣類。高理一ノ一三、高地二ノ六、

菌類と藻類との共同して一團となり、相互に利益を交換して生活せる植物體を地衣と云ふ。ウメノキゴケの表面を撫し白粉を取り檢鏡すれば、菌絲、綠色藻體を擁するを見ん、此もの發育すれば菌絲は表裏兩面を形成し中間に藻類を宿す。此等の藻類は菌絲より水分、無機分等の營養原料を得、其報酬として同化せる炭水化物を菌絲に與へ、安全なる保護を受くるなり、此状態にあるを共生生活と云ふ。菌類は

擔子菌囊子菌あれど多くは後者に屬す。

地衣は形態により葉狀地衣(ウメノキゴケ)木狀地衣(ハナゴケ)岩石樹皮に固着して剝離し難きを固着地衣(トリハダゴケ)體柔軟膠狀なるを膠質地衣(イハノリ)固着地衣中子器不規則線狀なるを蝌蚪狀地衣(モジゴケ)と云ひ更に他方面より分類すれば菌類の種により擔子地衣囊子地衣とし、猶體中藻類分布の狀により混層地衣及別層地衣の二類に大別す。

ウメノキゴケ(地衣類)(ウメノキゴケ科)高理一ノ一三、

植物體は葉片狀をなし、假根により樹皮面に着生す、上面灰綠色を呈し下面は黒褐色なり、不規則なる皺紋全面に蔓り凹凸を現す、周邊には數多の幅廣き圓頭裂片を出す、上面に細粒を散布し、此もの粉狀體と稱する無性繁殖器にして爲に迅速なる蔓延を來す所以なり、ブリューエーロコックスと子囊菌とより成る、裸子器は圓盤狀にて褐色をなし、稀に生じて八個の孢子一子囊内にあり。

カプトゴケ(地衣類)(カプトゴケ科)高理一ノ一三、

山地の地衣にして、葉片狀をなし、上面網目狀の凹窩を布く、裏面灰色にて上面の

隆起部に對する處褐條を現す、上面鮮なる綠色を有す、周邊より少數の枝を出し、先端不規則多角頭をなす、上面隆起部に見る刺毛狀のものは針芽と名づくる粉狀體たり、屢皿狀物を見るは子器として、孢子を含める子囊の生ずる器官なり。

イハタケ(地衣類)(イハタケ科)高理一ノ一三、

體は葉狀にして裏面中央に短柄ありて岩石面に附着す、好んで花崗岩に着き、深山の喬木帯中に見る、數多群生し、大なるものにては直徑七八寸に達すれども、多くは三四寸を普通とす、新鮮なるものは裏面黒色の密毛を以て被はれ表面は綠色を帯ぶれども、乾燥して市場に上れるものは全く褐色に變じたり、木曾日光秩父熊野等より出づるもの多し。

リトマスゴケ(地衣類)(リトマスゴケ科)尋理六ノ三一、

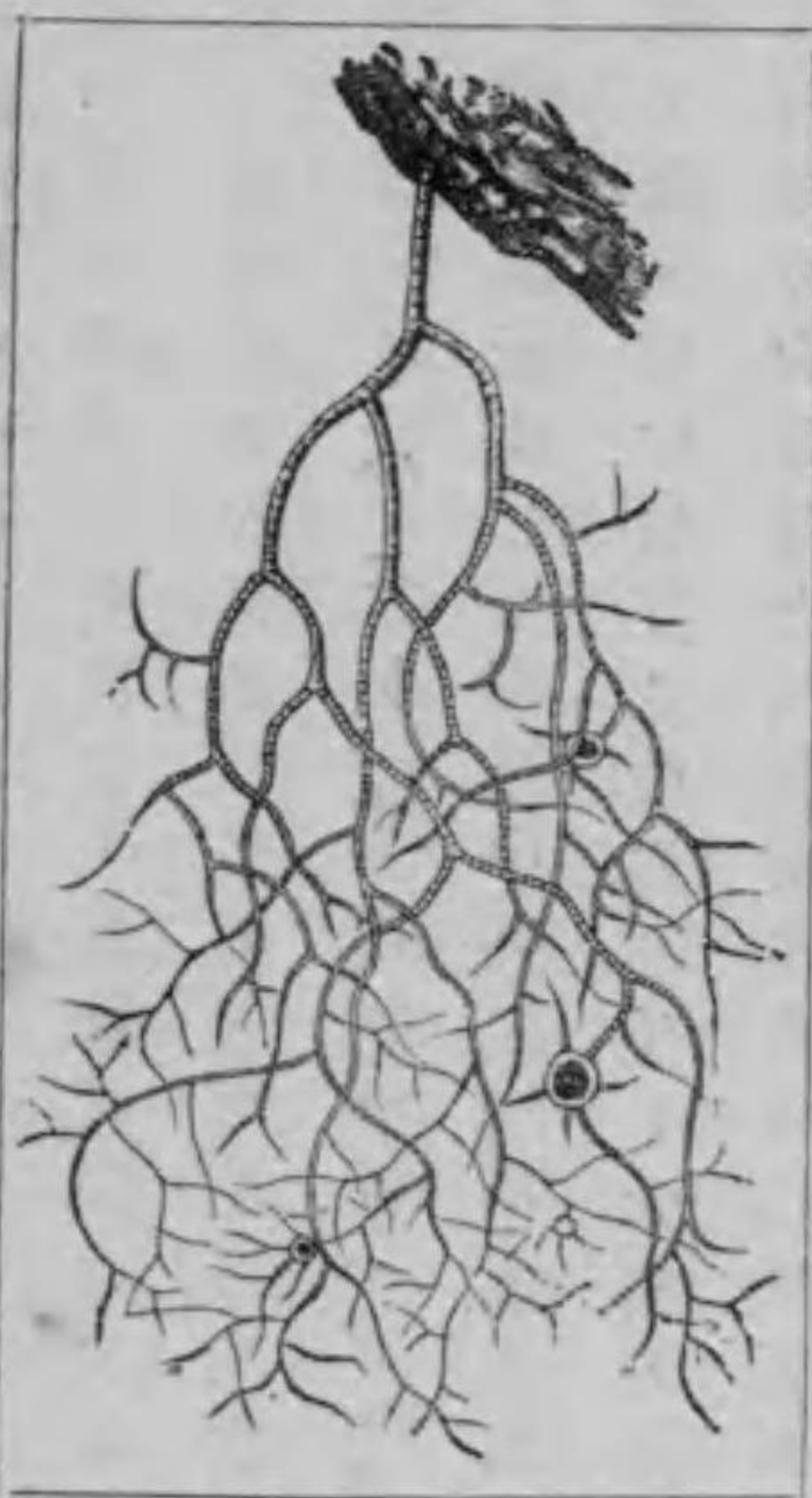
主として歐洲濠洲南米に産し、邦産なし、好んで海岸の岩石上に生じ、形は紐狀にて叢生し、枝を分ちて直立す、皮層は放射狀に重れる菌絲より成り、綠顆體は髓層の外部及皮層の内部に位す、表面球瘤體の附着せるを見るは之れ孢子の生ずる子實體なり、本種は特殊の地衣酸を含み、其分解によりてオルシン(CH<sub>2</sub>O)なる一種の色

素原體を得べし、此ものは無色なれども酸素・アムモニヤに逢へばオルセインなる  $C_2H_5NO_2$  の組成を有する褐色のものとなる、これ即化學實驗に用ひらるゝ色素にして酸アルカリ等により特異の色觀を呈す。通例之を製するには地衣體を稀薄なる曹達液中に煮て、後稍久しくアムモニヤ液に浸し酸酵せしめ、その進むに従ひ紫色となれるを待ちて採取す、半流動體又は固體なり。

サルヲガセ。(地衣類)。(サルヲガセ科) (高理一ノ一三、)

植物體は細絲狀にして樹皮上に附着し、叢生垂下せる様甚美觀なり。全長長きは

四五尺に餘り、盤狀の附着體を有し、主枝の周圍より短枝を生ずること夥し。外部は脆き皮層となり、中心は強靱なる菌絲の纖維より成り、下方に牽引せらるゝ抵抗を大にす、中間に藻群を宿す。子器は圓盤狀にして縁邊に毛を帯び褐色を呈す。主として高山に見る、日



第一八三圖  
サルヲガセ

光湯本附近の樹木には頗る美觀を極めしが今は殆ど跡なきに至れり。

ハナゴケ。(地衣類)。(ハナゴケ科) (高理一ノ一三、)

馴鹿の雪中の食物として有名なる植物なり。一見灌木狀をなし柔軟にして灰白色を帯ぶ、主體は顯著ならず、その樹枝狀を裸子器托と稱す。中空なる圓柱體にして表面に細微なる突起を有し分枝す、枝は數本の毛狀枝を出しその先端數本に分れ繖房狀を呈す、繖房枝の頂端には褐色の粒一個を生ず、之れ裸子器にして中に胞子を藏す、裸子器なきものは俱に一方に下垂彎曲す。高さ二三寸より五六寸に及び、地を蔽ふて密に群生す。ワラハナゴケ及キハナゴケ又同地に在りて馴鹿の餌となる。

海藻。(藻類) (七ノ二二、) (藻理六ノ二二、)

海藻は水面下二十五尋以下には甚少くして通常これ以上を棲息帶とし、既に五十尋以下に達すれば光線微弱にして同化作用を營む事能はざるに至る。

モヅク。(褐色藻類)。(マツモ科) (藻理七ノ二二、)

モヅクは波靜なる灣内に生じ、時に石塊に着生することあれども主として他の海藻(多くはホンダハラの類)に附着せり。長さ六七寸、太さ下部にて三厘内外に過ぎ



ず、其體は無數に分岐せる細絲狀にして左右に向ひ小枝を互生する狀樹枝に似たり。基部漸次尖りて寄主の體内に侵入す、枝は一分岐毎に細まり末端少しく鈍圓なり、全面短毛を生じ摩すれば粘滑の感を與ふ。本種は冬季に於てのみ發生するものなれば二三月の頃採取し三杯酢にて食す、之を貯ふるには食鹽に漬くると云ふ。

又フトモヅクなるものあり其名の如く前者より太くして直徑一分許、一二本の枝を有するのみなれば一見して區別し得べし。

アイヌワカメ(褐色藻類)。(昆布科) 尋理六ノ三三、

形態及體質ワカメに似て、北海道根室近海にのみ産するを以て如上の名稱を得たり。即全形披針狀をなし一條の中肋直走し、根は樹根狀、葉と根とを連ぬる莖判然たり。而して本種は葉の全長六尺に及び質柔軟にして薄し、決して羽狀に分裂することなく、隨て葉脚に接し一の櫛突起を備へず、莖は扁壓にして上下面隆起し中間より成實葉を生ず、このものは胞子の生ずる葉にして長き筥形をなし柔軟なり、細き短柄により兩側に密生す、之れワカメと區別すべき主要點なり。本種に似たるものにオニワカメあり、千島よりカムチャツカ半島附近に産し、葉の幅三尺、長さ七

十尋に達し本邦海藻中の巨漢たり、長葉水面に蜿蜒たる事長蛇の如く數多の海獸此上に嬉戯すと云ふ。

カヂメ(褐色藻類)。(昆布科) 尋理六ノ三三、

葉の基部又狀に二分し、各片の周圍より更に大小數枚の小葉片を出す、各片短冊狀にして基部狭く先端圓頭又は尖り、縁邊に鋸齒を疎生す、葉面無數の波狀皺を現す。莖は大にして長さ一尺内外、直徑六七分に及ぶ。根は前種の如く樹根狀なり。二三尋の深さある岩礁上に繁茂し、外洋を好む、刈り取りて食用とし又は沃度灰の原料に用ふ。本種は岡村博士、安田學士の二氏はアラメとと呼ばれ、次のアラメをばカヂメと稱せらるれども今は遠藤博士に従ひ上記の如く名づく。

アラメ(褐色藻類)。(昆布科) 尋理七ノ三三、尋理六ノ三三、

葉は中央部披針形を呈し肉厚し、周圍よりは側方に直伸せる小葉片を羽狀に着く、中央部の各片は長大なれども下部のものは突起狀に終る、各片の周縁には長大なる突起時に枝狀をなせるもの數個宛を有す。莖は圓柱狀をなし長大にして往々四尺以上に及ぶものあり、直徑一寸内外を常とす。根は前種の如し。カヂメより稍深

所に生じ稀に食用に供すれども主として沃度灰の原料となす。海藻より沃度を採るは世界中獨り我日本帝國に於てのみ占有せる工業にして其原料たる藻類に豊富なると勞銀の低ときに因す。北海道にては各種のコンブ類を用ふれども他は主にカヂメ及アラメとす。而して灰分百分中沃度含量最多きはネコアシコンブの一・三一二にして、次はカヂメの〇・五三一、アラメは産地により著しき差あれども相州鎌倉産にては〇・三一一、山口産にては〇・五三一と稱せらる。此等の灰より電氣分解法に依り沃度を析出し得べき事近來證明せられたれば一斑を述べんに、灰中諸多の成分中沃度鹽類は約一・七ボルトの電壓にて析出せられ食鹽は二・三ボルトにて分解せられ其他の含有物は皆電解力遙にこれよりも高きを要するを以て二・三ボルト以内の電壓を海藻浸出液に通ずれば沃度鹽類のみ消極に沈澱すべし。尙海藻體中の無機鹽類を分離するに燒かずして乾燥せしめたるものをレトルト内にて炭化せしむる方法と、生鮮なる海藻に炭酸曹達を加へて溶解せしむる等種々あり。尋常小學讀本卷七、七十五頁圖解。最右なるはアラメにして、其左下部の小形なるはヒジキならん。

次の大形なるはコンブなるべし。

次の小形樹枝狀なるはテングサと思はる。

其の上方にある束生して毛髮狀なるはアヲノリか若くはイハヒゲの如し。

左端はフカメと見て差支なかるべし。

形態。帶狀枝狀のものは圖に現る。

ニハトリノ尾ニ似タルモノとはアラメ・カヂメ。

ウチハナリとはウミウチハ・コナウミウチハ・チガミグサの如きものなり。

花を開く海藻。海産物中には又顯花植物に屬するものあり、即アマモ・スガモの如きものにして共にセキシヤウモに似たり、海中に沈生し花顯著ならざるを以て屢藻類と誤認せらる。アマモは葉の幅四分内外、長さ一二丈に及ぶ。春季、長花莖を水面近く伸し苞に包れたる花を着く。夏季、刈りて肥料となす。古代にはこの灰より食鹽を製せしと云ふ、モシホグサの名之により生ぜしなり。スガモは前種に似て幅二分内外長さ二尺乃至一丈に達す、三月頃根に近く苞を被れる花を生ず。奥羽地方にては刈りて蓆を製し、又秋田帽子の原料とす。

石灰藻。(紅色藻類)(珊瑚藻科)高理六ノ二二、

海岸に至れば波に打ち上げられたるものを拾ふ事多し。陶器細工の如く硬くして美しき紅色をなす。死後久しければ白色となる。鱗形又は扁平なる節々より成り、多くの枝を分つ。礫岩石の表面を被へるもの藻類の表面に斑點狀に附着せるもあり、カニノテサンゴモは節々を形成し、斑點をなすはウミサビ、被殻狀なるはイシゴロモ等なり。

ノリ。(海苔)。尋讀七ノ二二、高讀二ノ一五、高讀女二ノ一六、高讀四ノ二九、高地三ノ七、

單にノリとは食用海藻の一部の汎稱なれども、時にアマノリ、アヲノリのみを指すことあり。概ね抄きて紙の如くに製し上ぐるも、時に佃煮として罐詰を造る、今此等の製品に供せらるゝ藻類を列擧すれば左の如し。

- スキゼンジノリ。ジユズモ科
- アヲノリ。アヲサ科
- カハノリ。(淡水産) アヲサ科
- アヲサ。

ハバノリ。 フクロノリ科

ウシケノリ。 ウシケノリ科

アマノリ。 ウシケノリ科

アマノリ。紫菜。(ウシケノリ科)尋理六ノ二二、

體綠紫色を呈し薄皮狀にして一層の細胞より成る。細胞膜非常に厚く表面一樣に平滑となり、爲に體の厚さは細胞の直径の二三倍に達す。大島學士の研究によればフコースとヘミセルロースとより成ると云ふ。多角形又は橢圓形細胞中に星芒狀色素粒ありて葉綠素、紅藻素の二者を併有し、乾燥するときは紫黑色に變ず。外形種々にして狭長なるもの扇形なるもの披針狀のもの柄あるもの等ありて、幅二三分のもの五六尺のものあり、長さも同じく五六分より一丈以上に及ぶ。蓋アマノリとはアマノリ屬藻類の汎稱にして本邦産二十種に餘り、而も目下研究半途にして正確なる分類を缺けり。

アサクサノリ。(淺草海苔)。(ウシケノリ科)高讀女一ノ二四、

本種は満干兩潮線間にある岩石に生ずるも需要多きを以て人工により養殖す、

第八四圖  
アサクサノ  
リ



二月上旬第一回の採取を行ふ、次に二三月の交第二回、三月下旬第三回の採取をなす。此時は小舟に乗り箆を携へ、濱に着けるノリを右指間にて挿み引き取る。次に紙製の製品を造らんには、箆より出し塵を除き小片に刻み四斗樽に水と共に入れ、箆の上に枠として底なき四角形の箱にて六寸八分に六寸高さ一寸許のものを載せ、之に樽内のノリを水と共に枠内に注ぐか、又は枠を載せたる儘箆を水中に入れ、之に刻めるノリを入れ枠内一面に擴る時出す、斯くて枠を去り箆を日に乾して始めて

其法先づ、籾と稱する檜、樺、椎、竹等の一丈内外の枝を數條宛束ね、砂地の海底を選び、満潮時水深六七尺の地點に一尺五寸乃至三尺の間隔を保ち、横條に建つ、條間四尺を隔つ、期は秋季彼岸を以て最良とす。而して十月下旬より徐々に胞子附着し、發芽を初め、上部數尺の間全く紫色の紙片を以て飾らる。十

食用のものとなる。

淺草海苔なる名稱は今の淺草邊一帶が東京灣たりし時代、此海中に生ぜしものを採りて食品を製せしに原因す、現今は灣の北岸一帶の地に養殖し、大森、品川、羽田等は屈指の産地となれり。

テングサ。(石花菜はリウキウツノマタなり)。(テングサ科)

尋讀七ノ二二、高讀二ノ一五、尋理六ノ二二、高讀女二ノ一六、

紅紫色を呈するも死後晒されて黄白色に變ず、體は扁平なる細線狀にして數回羽狀に分岐し、複雑なる總狀を呈す。而して主枝は上向し、兩縁に小さき羽枝を着け、その大にして主枝の如く羽枝を持てるものを側枝と名づく、此もの亦更に側枝を生じ、羽枝を有す、主枝の幅五六厘高さ凡三四寸内外のもの最多く、一根常に數株を簇生す。四分胞子又は囊果を別株に生じ繁殖す。本種は外洋二三尋下に生息するを以て、鐵製熊手の如きマンガ又はムシリにて掻き取るか、又は蟹女をして海底に潛り取りしむ、之を砂上に擴げ乾燥す、一旦乾燥せしものに淡水を注ぎ日光に曝すと數回に及べば漂白せられて黄白色となる、之を晒天草と云ふ。此ものを煮る時は